

第2号議案 2025年度事業報告

(1) 日本画像学会年次大会（第135回研究討論会）

Imaging Conference JAPAN 2025 (ICJ2025) 開催報告

大会実行委員長：飯野 裕明、大会副実行委員長：門永 雅史

大会実行責任者：吉田 崇裕、大会副実行責任者：中山 信行

1) 開催概要

1.1) 大会概要

2025年6月11日（水）～13日（金）の3日間、Imaging Conference JAPAN 2025 (ICJ2025)（日本画像学会年次大会（通算135回））を、東京科学大学 すすかけ台キャンパス すすかけ台学生会館（すすかけホール）を会場とするハイブリッド形式にて開催いたしました。例年通り、日本画像学会（The Imaging Society of Japan, ISJ）主催、画像関連学会連合会（画像電子学会、日本印刷学会、日本写真学会）および日本視覚学会の協賛となっています。また昨年と同じく、技術領域が共通する他学会に参加を呼びかけるため、日本機械学会、デジタルテキスタイル研究部会、色材協会、加飾技術研究会にも協賛いただきました。

大会コンセプトは前回 ICJ2024 と同じとし、さらに、藤井会長が強く意識する「つながり」の重要性をアピールするべく、「つながりが拓く」を付加して、「来て・見て・語れ、つながりが拓く 画像技術の未来 Come, Watch, and Discuss,

Nexus Pioneers the Future of Imaging Technology」

といたしました。企画・運営体制も前回同様で、学会委員会が主体となって実行委員会を編成しました。

1.2) 技術エリア・セッション編成

例年と同様に、幅広い技術エリアで講演募集を行い、またオーガナイズドセッションを積極的に採用する方針としました。オーガナイズドセッションとしては、ICJ2024 で編成したインクジェット、電子ペーパー/フレキシブル、2.5D/3D プリンティング、Imaging Today 特別セッション、日本機械学会情報・知能・精密機器部門連携企画に、新たにデジタルテキスタイル、MBD が加わりました。2.5D/3D プリンティングのセッションでは「加飾」技術も新たな技術領域として包含されています。通常セッションのデジタルプリンティング・

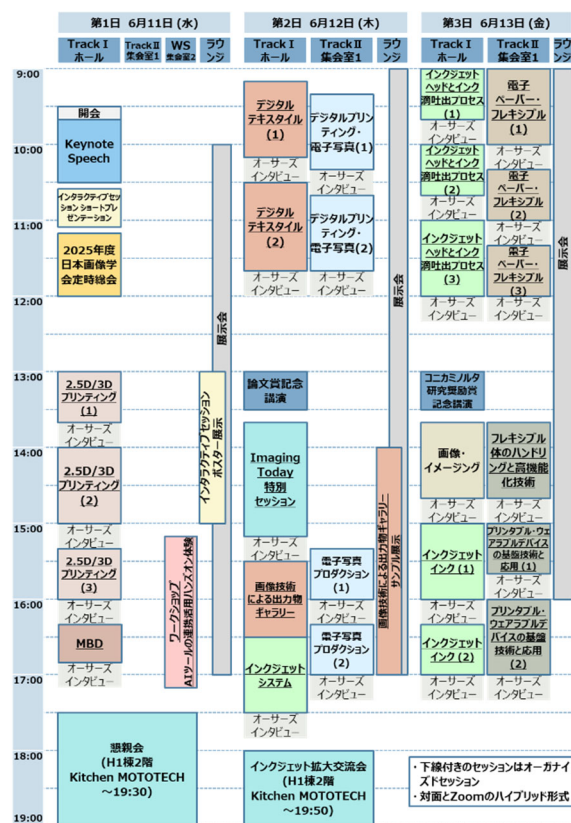


図1 ICJ2025 タイムテーブル

電子写真，電子写真プロダクションを加え，9つの技術エリア・テーマに対して，基調講演1件，記念講演2件，招待講演19件，インタラクティブセッション8件を含め70件の講演が集まりました．これらの講演に対してオーガナイズドセッション19，通常セッション5で，合計24のセッションを編成し，図1に示すスケジュールで開催いたしました．

イベントとして，企業各社の展示会，ワークショップ，画像技術による出力物ギャラリーも開催し，第1日目の最後には，対面での懇親会を行いました．そのほか，学会の重要な行事として，2025年度第68回定時総会を第1日目に開催しています．

1.3) トピックス

前回 ICJ2024 では，過去の ICJ で開催したイベントの復活，オーガナイズドセッションの積極的採用，役員研修会や技術委員会での提案の採用，という方針で企画し，発表数，参加者数をコロナ前の水準に近いレベルまで盛り返すことができました．今回はさらに大きな規模の大会となることを目指し，新たな取り組みを行いました．一つは，インタラクティブ分科会を設置し，各ポスター発表での発表者のモチベーション向上を図るため reviewer をアサインいたしました．発表者とのディスカッションを行い，良い点，改善ポイントなどをフィードバックすることが役割です．また，若手の参加者を募るため，30歳未満の方には参加者割引を設けました．

2) セッション・講演内容

2.1) 第1日：6月11日（水）

第1日は，メイン会場である Track I 多目的ホール（図2）で，大会実行委員長である東京科学大学飯野裕明先生より，開会の挨拶をいただき，3日間の大会の幕を開けました．引き続き，最初のプログラムである基調講演では，「眼ではなく脳で視ている画像の世界」について，小寺イメージング研究室 小寺宏暉先生より，ご講演をいただきました．色・空間・照明の3点に注目して，数学モデルを基に脳で視ている画像の世界が紹介されました．



図2 多目的ホールの様子

基調講演に続く一般発表の最初のセッションとして，インタラクティブセッションのショートプレゼンテーションを実施いたしました．こちらは，大学と企業から8件の発表がありました．

ここ何年かは事前に録音した動画を流す方式でしたが、せっかく対面なので生のスピーチを聞きたいという要望に応え、リアルタイムのプレゼンテーションとしました。対面でのポスター発表は、同日午後に場所をラウンジに移して行われ、reviewerも参加して活発なディスカッションが行われました（図3）。

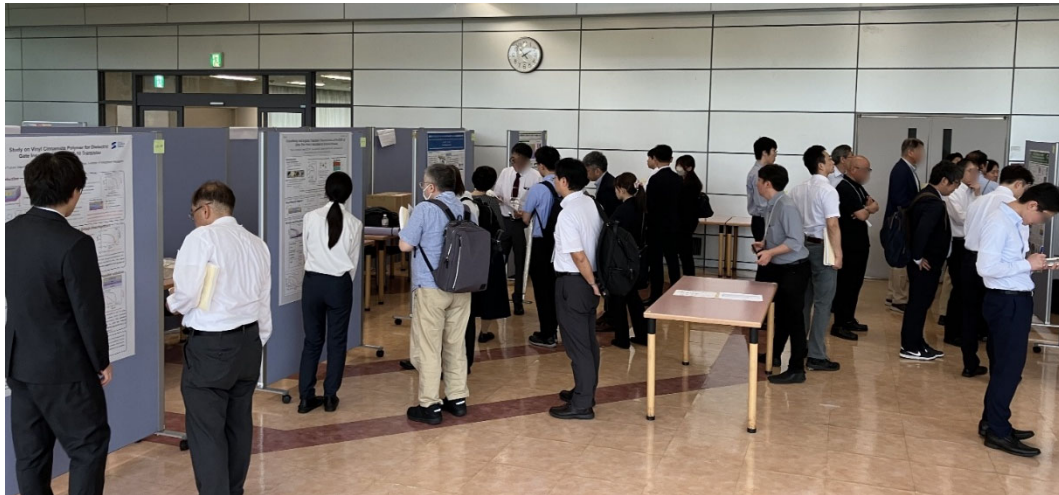


図3 ポスター展示の様子

Track I 多目的ホールでは、ショートプレゼンテーションの後、学会の行事である 2025 年度第 68 回定時総会が開催されました。こちらの内容、結果につきましては、定時総会報告（学会ウェブサイト、学会誌 2025 年 8 月号（64 巻 4 号通巻 276 号））をご参照ください。

午後は、まずオーガナイズドセッションである「2.5D/3D プリンティング (1) (2) (3)」が開催され、招待講演 4 件、一般講演 3 件が行われました。続くオーガナイズドセッション「MBD」では、リモート参加で招待講演 1 件が行われました。

第 1 日目の Track II 集会室 1 では、企画委員会の企画運営によるワークショップ「AI ツールの連携活用ハンズオン体験 ～試行と共有を通して“応用レシピ”を描き出す～」が開催され好評でした。ラウンジでは、ポスター発表のほかに終日展示会が開催されました。今回は展示会社様のアイデアで、スタンプラリーを開催し、達成者には学会ロゴ入りのトートバッグや横浜記念グッズを賞品として、参加者の評判もよく、展示者様からも来訪者増加、展示効果が高いなどのコメントを頂戴しました。展示会は大会期間の 3 日間開催されました。

第 1 日目の最後のプログラムが、対面の懇親会で、2 階にあるレストランに場所を移し、約 70 名の方々にご参加いただき歓談しました。ここでは、インタラクティブセッションを対象として審査したベストポスター賞、ベストポスタープレゼンテーション賞、編集委員長賞の発表が行われ、以下のご発表が表彰を受けました。

<ベストポスター賞>

講演番号 IN-01：大須賀 博雅様（富士薬品工業株式会社）

「金属酸化物による有彩色での不可視デジタル情報への応用」

<ベストポスタープレゼンテーション賞>

講演番号 IN-03：山田 はるか様（東京科学大学）

「溶液プロセスで作製した Ph-BTBT-10 極薄膜の結晶性と有機トランジスタ特性評価」
＜編集委員長賞＞

講演番号 IN-02： 栗田 雅章様（紀州技研工業株式会社/東京農工大学）

「連続式インクジェットプリンターの液滴生過程におけるノズル流量の周期的変動の影響」
講演番号 IN-06： 阿部 翔瑠様（山形大学）

「高機能有機-TiO₂ ハイブリッド白色インクの開発」

2.2) 第2日：6月12日（木）

第2日 Track I 午前のプログラムは今回初めて設けたオーガナイズドセッションで、「デジタルテキスタイル（1）（2）」として招待講演6件が行われました。

午後の最初のプログラムは、2023 年度論文賞受賞記念講演として、「カーボンナノチューブを用いたフレキシブル電極作製とフレキシブルデバイスへの応用」についてのご講演が行われました。アンケートでも最も好評だった講演の一つとなっています。続いて、編集委員会が定期的に企画開催する講演会であるフリートーキングの ICJ 版として、**Imaging Today** 特別セッションが行われました。「最新のエネルギーハーベスティング技術・材料」をテーマとして、京都工芸繊維大学野々口斐之先生の「カーボンナノチューブをもちいた熱電発電および光熱電イメージング」、産業技術総合研究所 駒崎友亮先生の「湿度変動電池の開発と応用」、そして、群馬大学 田中有弥先生の「極性有機分子の自発配向分極現象を利用したエレクトレット型振動発電素子」のご講演をいただきました。

続いて、今回の目玉企画の一つである「画像技術による出力物ギャラリー」のショートプレゼンテーションが行われました。9 件の発表がなされましたが、発表者やテーマがとても新鮮に感じられるセッションでした。実際の展示は、ラウンジを会場として 14:00～17:00 に開催され盛況でした（図4）。



図4 画像技術による出力物ギャラリーの様子

第2日 Track I の最後はインクジェットのオーガナズドセッション「インクジェット：システム」で、3件のご講演が行われました。

2日目 Track II では、午前に通常セッション「デジタルプリンティング・電子写真(1)(2)」, 午後に同じく通常セッションの「電子写真プロダクション(1)(2)」と電子写真関連のセッションが開催されました。それぞれ6件、4件の講演が行われました。

第2日の最後には、インクジェット技術部会主催の「インクジェット拡大交流会」が第1日目と同じレストランを会場として開催されています。

2.3) 第3日：6月13日（金）

第3日 Track I はインクジェットのオーガナズドセッションで、「インクジェット：インクジェット：ヘッドとインク滴吐出プロセス(1)(2)(3)」テーマで合計7件の講演が行われました。

午後に入って、まず2023年度日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞受賞記念講演として、大阪大学 古賀大尚先生の「ナノセルロースと電子材料の融合によるグリーン・ペーパーエレクトロニクスの創成」のご講演をいただきました。

続いて、通常セッション「画像・イメージング」で3件、インクジェットのオーガナズドセッション「インクジェット：インク(1)(2)」で5件のご講演が行われました。

第3日 Track II では、午前にオーガナズドセッションの「電子ペーパー・フレキシブル(1)(2)(3)」の3つのセッションが開催され、招待講演3件、一般講演4件が行われました。

Track II の午後は、日本機械学会 情報・知能・精密機器部門連携企画「フレキシブル体のハンドリングと高機能化技術」のセッションが設けられ、株式会社東芝 小林祐子様より「ゴムローラの劣化/異常状態の検知技術」、山陽小野田市立山口東京理科大学吉田和司先生より「ベルトの横方向運動に関する研究」の招待講演をいただきました。続いて、「プリンタブル・ウェアラブルデバイスの基盤技術と応用」のセッションでは、日本機械学会で活躍する方々から5件の講演が行われました。

3) 選奨

大会終了後に座長、実行委員による選考を行い、以下の選奨を決定いたしました。

<研究奨励賞>

講演番号 PW-01：佐藤 啓人様（名古屋大学）

「ナノレオロジー計測法を応用したプリンタブルエレクトロニクス用インク材料の力学特性計測」

講演番号 IT-02：駒崎 友亮様（産業技術総合研究所）

「湿度変動電池の開発と応用」

<ベストプレゼンテーション賞>

講演番号 IJI-02：山口 彩乃様（山形大学）

「高分子顔料分散剤の化学構造が白色インクジェットインクの分散性及び吐出に与える影響」

講演番号 EP-05：中野 博貴様（東京科学大学）

「ドーパント分子の電界はき寄せを利用した液晶性有機半導体における電荷注入特性向上機構の解明」

講演番号 PW-02：西岡 柊哉様（東海大学）

「画像解析によるすじの定量的評価および統計解析を用いたすじの基礎検討」

4) まとめ

今回の ICJ2025 では、ハイブリッド形式の開催として、講演者、有料参加者合わせて 255 名、実行委員、スタッフ、展示関係者を含めると約 310 名が参加され、盛会裏に終了することができました。デジタルテキスタイルなど、これまでなじみの薄い技術領域、技術者との交流が新鮮でした。講演件数は ICJ2024 を上回ったものの参加者数がやや減少しており、今後の課題にしたいと考えています。

企画や運営上の工夫も、さまざま行ってきておりますが、至らない点も多々あり、関係者にご迷惑をおかけした点をお詫び申し上げます。本大会を運営するにあたってご協力いただきました、発表者の皆様と、大会実行委員・スタッフの皆様、座長の皆様、学会理事・評議員の皆様、そして、発表を支えていただいたご所属の関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

次の ICJ2026 では、今回の良かった点、悪かった点、アンケート結果も踏まえて、さらに充実した大会とするべく企画していく予定です。次回も引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(2) 総会

2025 年 6 月 11 日（水）に、Imaging Conference JAPAN 2025 の中で第 68 回定時総会を開催した。2024 年度と同じ東京科学大学すずかけホールにて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。定足数 304 名を上回る 334 名の方のご出席（委任状含む）をいただき、出席率は 55.0% であった。

本総会では、冒頭に藤井会長に挨拶をいただき、次いで、定足数の確認を経て、藤井会長を議長に選出し、議事に入った。以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により全議案が承認された。

- ① 2025 年度役員候補の承認（第 1 号議案）
- ② 2024 年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認（第 2 号議案、第 3 号議案）
- ③ 2025 年度事業計画および同一般会計予算の報告（第 4 号議案）

最後の質疑応答では、面谷顧問より学会員や維持会員の減少の問題について、他学会の施策も参考にして是非取り組んでくださいとのお言葉を頂き、藤井会長から画像 4 学会をはじめとした他学会の状況も取り込みながら、進めていくという表明がなされた。

最後に、藤井会長の閉会の辞をもって第 68 回定時総会を終了とした。

第 68 回定時総会の議案と議事録は、当学会ウェブサイトからもご覧いただけます。

https://www.imaging-society-japan.org/www/jp/about_us/assembly/assembly_report_68/

(3) 2024年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2024年度功労賞、論文賞、技術賞、技術研究賞、研究奨励賞、会長特賞、名誉会員、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞の選考を行い、2025年3月14日に、同日開催の日本画像学会評議員会に合わせて行われた日本画像学会表彰式において、受賞者の表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。(敬称略)

掲載号：日本画像学会誌, 第64巻, 第4号, (通巻第276号), pp. 383-397.

<功労賞 (第30回) 3件>

- ① 竹内達夫 (日本画像学会、元キャノン株式会社)
- ② 中山信行 (日本画像学会、東京工芸大学、元富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)
- ③ 門永雅史 (株式会社リコー、東京科学大学)

<論文賞 (第39回) 2件>

- ① 著者： 木下喬之 (大阪公立大学)、佐野翔一 (大阪府立大学)、永瀬隆、小林隆史、内藤裕義 (大阪公立大学)
論文名： 「機械学習による CdSe 量子ドット赤色発光ダイオードの効率予測」
掲載号： 日本画像学会誌, 第63巻, 第1号, (通巻第267号), pp. 3-11
- ② 著者： 小林和也 (日本工業大学)、渡部裕也、Yee Jingzu (東京農工大学)、鳥居慎士、栗田雅章 (紀州技研工業株式会社)、田川義之 (東京農工大学)
論文名： 「高粘度液体オンデマンド連続吐出機構の開発および性能評価」
掲載号： 日本画像学会誌, 第63巻, 第5号, (通巻第271号), pp. 492-503

<技術賞 (第31回) 1件>

田中訓史、渡邊知範、田口和奈、張明光、加藤貞治 (ブラザー工業株式会社)
「カラーレーザー複合機 MFC-L9670CDN に搭載の定着器開発」

<技術研究賞 (第4回) 1件>

浅山良行 (王子マテリアル株式会社)
「紙の透明化技術と視覚的透明性の向上に関する研究」

<研究奨励賞 (第32回) 4件>

- ① 吉岡広起 (キャノン株式会社)
「サロゲートモデルと多目的最適化を用いた定着器設計手法」
- ② Yintong HUANG (大阪大学)
「Clearly Transparent and Skin-Harmonious Nanocellulose Paper for Sensing Applications」
- ③ 佐藤健太 (東京工業大学)

「液晶性ジケトピロロピロール誘導体を用いたフレキシブル有機フォトダイオードの作製と評価」

④ 木戸優希（京セラドキュメントソリューションズ株式会社）

「画像認識を用いたトナー外添剤被覆率算出の確立」

<会長特賞（第24回）1件>

中井洋志（エトリア株式会社）、上林昭（東京都立産業技術大学院大学）

<名誉会員（第10回）2件>

No.19 面谷信（東京電機大学）

No.20 佐藤利文（東京工芸大学）

<日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞（第20回）1件>

山崎淳（東京大学）

「3Dプリンターを用いた物理量の空間配置に関する研究」

(4) 日本画像学会年次大会（第136回研究討論会）/画像関連学会連合会第11回秋季大会 "Imaging Conference JAPAN 2025 Fall Meeting" 開催報告（関西委員会）

実行委員長：足立 克己（シャープ株式会社）

2025年10月27日（月）、28日（火）の2日間、名古屋大学野依記念学術交流館を拠点に、ハイブリッド形式にて第136回日本画像学会研究討論会「Imaging Conference JAPAN 2025 Fall Meeting」を開催しました。今回も画像関連学会連合会の合同開催として実施致しました。

講演数としては画像関連学会連合会で計79件、日本画像学会からは14件(一般口頭発表8件、ポスター発表3件、招待講演2件、技術賞受賞記念講演1件)の発表となりました。参加者数は、日本画像学会関連では56名(講演者/一般参加、実行委員含む)となり、オンラインでは4名のご参加となりました。現地参加比率が年々高くなり、一昨年より再開しました軽食の提供を含めた情報交換会にも多数のご参加を頂き、発表における質疑応答に加え、現地ならではの人の交流が戻ってきたと共に、オンラインでの参加も日常の光景となり、ハイブリッド開催の様式が定着してきたように感じました。

次に、今回のポスター発表は、画像関連学会連合会全体で28件となり、連合会全体で選出されるポスター賞においては、日本画像学会からも優秀ポスター賞を受賞しております。また、日本画像学会の編集委員会が選出する編集委員長賞につきましても同時に選考頂き、1件受賞となりました。今後ますます皆様の研究が発展します事をご期待申し上げます。

最後にこの様な有意義な研究討論会を開催でき、ご協力頂きました企業/大学をはじめ関連各位に、深く感謝を申し上げます。

<編集委員長賞>

エレクトロクロミズムとフォトニック構造を融合した新規ハイブリッド光反射デバイス
白井颯太 様 小林範久 様 中村一希 様 (千葉大学大学院工学研究院)

<優秀ポスター賞> ※画像学会連合会全体

発光性 Eu(III)錯体と構造色反射を有するらせん配向型液晶の複合化によるキラル光学特性変化
佐川祐介 様 小林範久 様 中村一希 様 (千葉大学大学院工学研究院)

尚プログラムは、本稿後半に記載します。

(5) 評議員会

2024 年度評議員会を、2025 年 3 月 14 日 (金) に TKP 神田ビジネスセンターで開催し、16 名の評議員と 4 名の顧問の方々にご参加いただいた。冒頭の会長挨拶に続き、2024 年度事業報告および 2025 年度事業計画と、2024 年度財務報告および 2025 年度財務計画について、宮本編集委員長、前田副会長/技術委員長、中井企画委員長、吉田コンファレンス委員長、木崎副会長/事業委員長、加川財務委員長より報告を行った。そのほかの委員会や主要行事に関しては、冊子資料での報告とした。

(6) 理事会

以下に示す日程で年間 6 回の理事会を開催し、例年同様に、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、年次大会やシンポジウム、各委員会イベントの企画審議と結果報告、2025 年度選奨、2025 年度予算執行状況の確認、2026 年度予算案の審議・承認、総会・評議員会の準備・実施状況報告などを行った。2025 年度は、第 2 回理事会と役員研修会を同日開催、第 4 回理事会、そして第 6 回理事会は評議員会を同日開催し対面形式での開催をした。

役員研修会では、藤井新会長が提示された 5 つのテーマと「AI との取り組み方」の中から重点テーマ 3 つを各グループに分かれて議論を行った (詳細は運営委員会のパートを参照)。

・ 2025 年

第 1 回 : 5 月 14 日 (水) 15:00~17:00	オンライン
第 2 回 : 7 月 18 日 (金) 10:00~12:00	対面
研修会 : 7 月 18 日 (金) 13:00~17:00	対面
第 3 回 : 10 月 7 日 (火) 15:00~17:00	オンライン
第 4 回 : 12 月 12 日 (金) 15:00~17:00	対面

・ 2026 年

第 5 回 : 2 月 12 日 (木) 15:00~17:00	オンライン
第 6 回 : 3 月 13 日 (金) 13:00~15:00	対面

(7) 事務局 事務局長 中山信行 (日本画像学会)

○全体活動状況報告

今年度のイベント開催実績は、以下に示すとおりである。COVID-19 終息以降、学会イベントはハイブリッド開催が標準となってきた。当初はオンライン参加者が多数であったが、今年度は対面の参加割合が増加する傾向が見られた。参加者数は、後述する通りコロナ下の 2020 年以降回復傾向にあり、今年度は特に Imaging Conference JAPAN 2025、関西シンポジウム、第 89 回技術講習会の復調が着目された。対面参加者の増加により、懇親会、情報交換会も盛況となり、会員間のコミュニケーションが促進された。技術研究会では、トナー技術研究会が 3 年ぶりに開催されたほか、電子ペーパー・フレキシブル、電子写真、インクジェット、MBD が昨年度に続けての開催となった。これらイベントの開催回数は 20 回、開催日数 28 日と増加し、総有料参加者数、収支も増加となる見込みである。

< 研究討論会 >

Imaging Conference JAPAN 2025、6 月 10～13 日、東京科学大学、ハイブリッド

Imaging Conference JAPAN 2025 Fall Meeting、10 月 27～28 日、名古屋大学、ハイブリッド

< シンポジウム >

関西シンポジウム、5 月 23 日、I-site なんば、ハイブリッド

シンポジウム(東京)、12 月 11 日、貸会議室内海、ハイブリッド

< 技術講習会 >

第 89 回技術講習会、6 月 30 日～7 月 4 日、ユニコムプラザさがみはら、ハイブリッド

秋・技術講習会チュートリアル 2025、12 月 3 日、ユニコムプラザさがみはら、対面

< 技術研究会 >

トナー技術研究会、5 月 16 日、日本印刷会館、ハイブリッド

電子ペーパー・フレキシブル技術研究会、11 月 13 日、東京科学大学、ハイブリッド

電子写真技術研究会、2 月 6 日、ユニコムプラザさがみはら、ハイブリッド

MBD 技術研究会、3 月 2 日、ユニコムプラザさがみはら、ハイブリッド

インクジェット技術研究会、3 月 6 日、機械振興会館、ハイブリッド

< フリートーキング >

第 45 回フリートーキング、1 月 19 日、早稲田大学、ハイブリッド

< Imaging NEXT >

第 2 回 Imaging NEXT、4 月 4 日、貸会議室内海、ハイブリッド

第 3 回 Imaging NEXT、7 月 25 日、貸会議室内海、対面

第 4 回 Imaging NEXT、11 月 7 日、東京科学大学、ハイブリッド

< 4DFF Conference >

4DFF Conference 2025、10 月 23～24 日、京都工芸繊維大学、ハイブリッド

< 視覚と画像の基礎講座 >

視覚と画像の基礎講座 第 1 回 (実験方法)、7 月 31 日、オンライン

視覚と画像の基礎講座 第 2 回 (色)、9 月 25 日、オンライン

視覚と画像の基礎講座 第3回（空間情報）、12月18日、オンライン

視覚と画像の基礎講座 第4回（質感）、1月29日、オンライン

学会誌の発行部数は、会員数の減少に連動して減少を続けており、2025年度は870～950部となっている。毎年約45冊程度の割合でほぼ一定の減少傾向にある。年6回の発行で、編集委員会→印刷会社→発送会社経由で発行、配送されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。理事会、各委員会・各技術部会の開催は、オンラインを基本としながらも、年に数回対面開催するなどして、交流を促進している。また、イベント開催だけでなく技術部会内での勉強会などの活動も活性化している。

○年度別個人会員数の推移

図1に、2005年度～2025年度までの会員数推移を示す。2020年度以降はCOVID-19の影響により大幅な会員減少が進んでいる。2024年度には下げ止まりの傾向がみられたが、企業の事業構造変化の影響もあり、2025年度は対前年51名減と大幅な減少となった。

2026年度は、ハイブリッド開催を基本としている学会イベントで、デモや体験会、見学会など対面ならではのプログラムをより充実させて現地参加を増やし、対面でのコミュニケーションを推進することで会員数の減少に歯止めをかけたい。

○学会の主なイベント参加者推移

図2に、2016年度～2025年度の当学会が主催する年次大会、技術研究会、技術講習会など、主要イベントの有料参加者数推移を示す。2025年度は、前年度に対してイベント数が2件増加し、イベントごとの参加者数も全体として回復傾向にある。来年度は、休会中の技術部会の活動再開もあり、より多くの技術研究会開催を想定している。

また、年次大会のICJ2025では、従来の幹事会社制からコンファレンス委員会制に移行し3度目の開催であったが、オーガナイズドセッションに加え、他学会とのコラボレーション、バーチャルラボツアー、ギャラリーなど新企画を開催し、盛会となった。一方で、参加者数は前回からやや減少した。特に若手の参加者の減少が見られ、次回ICJ2026では、若手の活躍をキーワードとして、大会スローガンやイベントを企画して挽回を図る予定である。

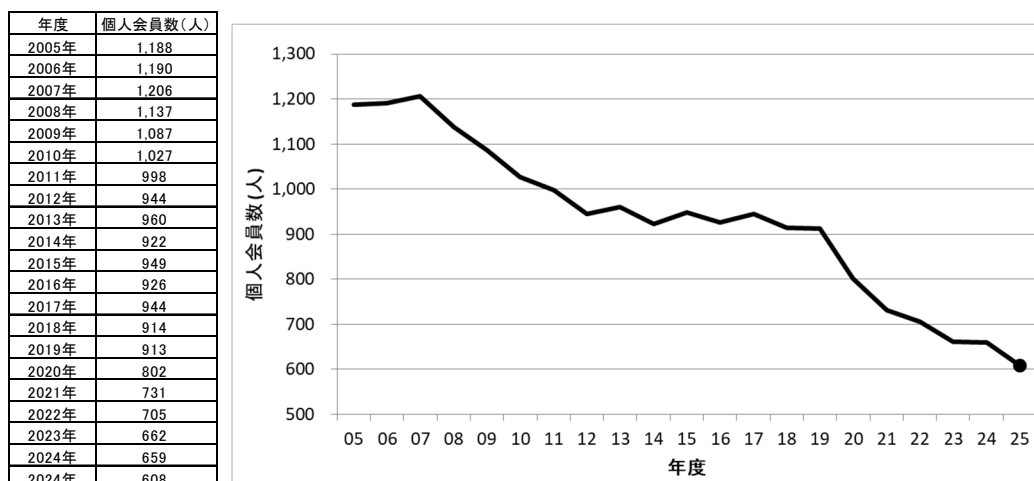


図1 個人会員数の推移

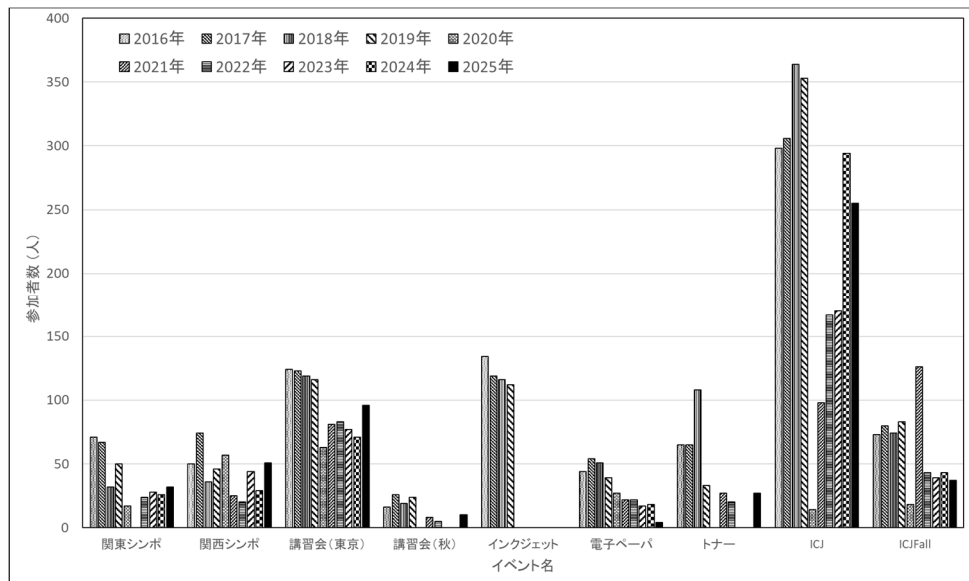


図2 主要イベントの参加者数の推移

(8) 運営委員会 委員長 高橋茂樹 (山形大学)

運営委員会として、例年通り、学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会および評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。詳細はそれぞれの報告を参照されたい。このほかに運営委員会が主体で推進した2025年度の活動は、以下のとおりである。

(1) 役員研修会

2025年7月18日(金)に、対面形式で役員研修会を開催した。2023年度までは、会長が提示された課題や、緊急課題である会員数減少、年次大会発表参加者数減少といったテーマを設定し、グループ分けして議論を行った。2024年度は、藤井新会長の意向を踏まえて、図に示す会長方針の5つのテーマについて役員全員で議論を行い、表に示す施策を抽出した。2025年度は、2024年度のテーマ(2つ)と「AIとの取り組み方」を議論した。これら施策に関する進捗は理事会の中で定期的に報告・運用もしている。

(2) 執行部会

上記の課題検討の推進や実行の促進のため、また学会運営上の課題に対応するため、理事会開催前に執行部会を開催し、審議結果について理事会で報告・提案を行っている。2025年度も、理事会に同期して合計6回の執行部会を開催し、理事会運営、人事案件、ICJ2025およびICJ2026の進捗、次期執行体制や各委員会から提示された課題、運営委員会担当の選奨、などに関する審議を行った。

(3) 選奨候補者推薦

2020年度から、名誉会員、功労賞、会長特賞については、運営委員会が候補者を選考し、理事会に推薦する担当委員会となった。2025年度も、学会活動経歴と業績などを審議し、候補者選考、推薦を行った。結果については、学会ウェブサイトや2025年度に開催される評議員会における事業報告を参照されたい。

2024年度活動方針振り返り

2025年度 第1回理事会資料

1. 日本画像学会のスコープ技術を活かす場所を拓げる→アプリケーション、サプライチェーン
・4つのタスク活動、他学会とのコラボはいくつかの仕掛けが始まり、活動が始まった。さらに拓げ・定着させることに関しては、より具体的な施策が必要で、それを今期立案・実行に移すべき。
・上記活動は、ICJのOrganized Session企画・運営までは到達した。一方、今後の発展見込みや活動状況に温度差が見え始めている。同じ方向、同じレベルである必要はないが、テコ入れ策があれば早急に実施(タスク自身、理事会)。なければ今期中に休止も含めた結論を出す必要がある。ただしレビューは必要。
2. 学会の役割を拓げる。技術者・研究者の成長の場としての学会の役割を果たす
・この主旨に沿ったイベント、イベント内での取り組みが企画・実施されて始めている。
・講習会、ICJ以外に学会での取り組み範囲(各委員会、部会等)を広げる必要がある。
・参加してもらった側(企業・大学)への周知が不足しており、新しい役割を伝える手段・機会がさらに必要。
3. 学会の組織、活動に若手、女性技術者・研究者の参画を増やす
・理事は任期の課題もあり、早急に進展しないのは仕方がないが、各理事は常に意識を持っておいて欲しい。各委員会、部会では少しずつ進んでいるが、委員会・組織間では実績において差がある。
・部会、委員へ十分理解していただくための活動も不十分である。
・背中を押せば動きそうな人をひっぱり以外に、有効な手段が見つかっていない。
4. 学会の存在価値・認知度向上
・当面のターゲットは方針1に掲げた拓げる場所である。維持会員候補となるプロダクションプリンティングへの働きかけは、ICJ2025終了までにはリスト・担当決めまで進めたい。
5. 役員(理事・幹事・監事)、各委員会委員長および委員は、学会を自身の技術者・研究者キャリアの一部として捉えて欲しい

2025年度追加項目

2025年度、AIとどう関わるべきか、以下3つの視点から考えてみたい。
夏の合宿のテーマとして取り上げ、議論したいが、それまでも理事、部会からの意見、提言をお願いしたい。

1. 機械学習を取り入れたコンテンツ(学会誌、イベント、発表テーマ)を充実させる
・既にコンファレンス、研究会、論文誌にも発表が増えてきている。機械学習を画像技術の分析や設計に適用する内容を、増やすためにどうするか、学会としての取り組みをどう示すべきか。
2. 生成AIに日本画像学会を学ばせる(と何が出来るのか?)
・生成AIに日本画像学会の資産(学会誌、予稿集など)を学習させ、例えば会員が過去の事例や、そこから次の課題設定、アプローチなどのヒントを得ることのできるツールの構築ができないか。
3. 画像(技術)と生成AIとの関係を探る
・画像と生成AIをどのような切り口で、どのようなテーマで、どうやって学会に引き寄せるか。

会員数が減少しているにも関わらず、学会の活動(組織、イベント等)は増える方向にある。
不要な組織・活動はないと考えるが、優先度の見直しをする時期にもきている。

図 藤井新会長方針

表 役員研修会で抽出した施策

テーマ番号	テーマ内容	施策	内容	担当委員会	実施時期
1	日本画像学会の スコープ技術を活 かす場所を拡げ る	1-1)他学会への 体系的参画による 連携機会の創出	a)他学会に体系的に参加する仕組みを作り、部会員を参加させ、協業や連携の機会や方法を抽出する	技術委員会	24年度検討 25年度実施
		1-2)若手が参加 しやすい土壌を創 る	a)若手にスコープを当てる b)大学にスコープを広げる	実行委員会・事業委員会 編集委員会・企画委員会	25年度検討開始 25年度検討開始
		1-3)他学会への 体系的参画による 連携機会の創出	a)関連団体(提携・連携・協業案)とのコラボを具体的に計 画化	執行部会・技術委員会	25年度開始 26年度実施
		1-4)標準化・啓蒙 活動の推進)標準 化・啓蒙活動の推 進	c)コンシューマー向けイベント(プリンターの使い方解説など) を開催	企画委員会	2024-2025年度検 討
2	学会の存在価値・ 認知度向上	2-1)会員のすそ 野拡大	a)維持会員を増やす①)個人会員はいるが維持会委員では ない企業を維持会員推奨	事務局、運営委員会	25年度検討開始
		維持会員を増やす	b)広告や展示に出典している企業を維持会員推奨	コンファレンス委員会・編 集委員会	25年度検討開始
		2-2)学会への参 加促進	c)学生から学会にはいってもらい、社会人になってそのま ま会員推奨 学会参加・学会誌などの付録添付を戦略的に、認知度 を向上させる	コンファレンス委員会	25年度検討開始
3	AIと学会・画像 技術の取組み	3-1)AIを活用した 学会活動の効率 化	a)カード ノベルティをどうするか a)投稿論文の体裁チェックおよび修正をAIで活用	企画・編集・広報混成タ スクチーム 各実行委員会 編集委員会	25年度検討開始
		3-2)生成AIに日 本画像学会を学 ばせる／機械学 習を活用したコン テンツ	a)日本語の自然言語による質問で、日本画像学会誌の求 めた情報にたどり着けるようなAI活用(仕組み作り) b)webサイトのアクセス解析に基づいた分析	藤井会長(上林さん) 事務局、広報	25年度検討開始 25年度検討開始
			c)機械学習を用いたテーマの特集	編集委員会	25年度検討開始
4	学会組織・活動へ の若手・女性の参 画推進	4-1)若手・女性委 員の学会への参 画推進	a)学会への参加をしやすい取り組み	各実行委員会	25年度検討開始

(9) 編集委員会 委員長 宮本栄一(京セラドキュメントソリューションズ)

編集委員会の主な活動は、①学会誌の企画、編集および定時発行(年6冊)、②学会の特集内容に即した講演会『フリートーク “Imaging Today”』の開催、③ICJ(春季)での Imaging Today 特別セッションの企画、実施、④ICJ(春季、秋季)各討論会 のインタラクティブセッションにおける編集委員長賞の選定・表彰である。また、学会誌の認知度や信頼性の向上を目指して Impact Factor (IF)取得に向けた取り組みを推進中である。これらを具体的実施するため、編集委員会6回、年間計画策定会議1回、学会誌出版前の校正作業6回に加えて、オンライン会議とメールを活用して講演会準備や編集工程の改善活動などを随時行った。昨年度に引き続きこれら作業を継続的にご対応いただいた学会誌執筆者、講演者、印刷所、編集委員など、関係各位に御礼申し上げます。

【日本画像学会誌 発行】

2025 年も引き続き会員諸氏への有益な情報の発信を目指し、「Imaging Today」の企画・掲載を行った。毎年1回特定技術分野にテーマを絞って英文論文を掲載する英文特集号は16回目となり、本年度は278号(2025年12月号)において「Printed Flexible Electronics and Devices」をテーマに、英文での論文3報、解説3報を掲載した。

以下に2025年発行(Vol.64)各号の詳細を記す。

・ 273号 (Vol. 64, No. 1), 2025年2月10日発行, 99頁

巻頭言「年頭にあたり」(会長), 論文2報, Imaging Today「デジタル印刷機器の最新技術」解説7報, Imaging Highlight「LED ビジョンによる3D表示 画像の基礎から巨大物体表示へ」, 教育講座「画像技術を支える高分子の基礎(VI) —トナー用バインダー—」, 研究室訪問「熱流体工学研究室(石井研究室) 中央大学 理工学部 精密機械工学科」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌の目次, 画像閑話

・ 274号 (Vol. 64, No. 2), 2025年4月10日発行, 145頁

論文2報, Imaging Today「画像技術を高度化するシミュレーション最新事例」論文7報, 解説4報, Imaging Highlight「REMAX WORLD EXPO 2024 報告」, 教育講座「画像技術を支える高分子の基礎(VII) —光重合反応とその応用—」, 研究室訪問「知能センシング研究室(長原研究室) 大阪大学 D3 センター(大学院情報科学研究科)」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本印刷学会誌・画像電子学会誌の目次, 画像閑話

・ 275号 (Vol. 64, No. 3), 2025年6月10日発行, 69頁

論文1報, Imaging Today「加飾しない加飾と加飾する加飾」解説4報, Imaging Highlight「空間演出用プロジェクター」, 教育講座「画像技術を支える高分子の基礎(VIII) —アルキン含有半導体ポリマーの合成と薄膜電子デバイス応用—」, 研究室訪問「池上研究室 桐蔭横浜大学 医用工学部臨床工学科」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

・ 276号 (Vol. 64, No. 4), 2025年8月10日発行, 139頁

解説1報, Imaging Today「医療を創る3Dプリンティング: バイオ造形の現在地」解説4報, Imaging Highlight「画像認識技術のコモディティ化と新たな可能性」, 教育講座「画像技術を支える高分子の基礎(IX) —ゴムの製造(混合工程)—」, 研究室訪問「石井研究室(無機物質化学研究室) 早稲田大学 先進理工学部化学・生命科学科」, 2024年度日本画像学会表彰, 一般社団法人日本画像学会第68回定時総会資料, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

・ 277号 (Vol. 64, No. 5), 2025年10月10日発行, 99頁

論文2報, Imaging Today「アクセシビリティ向上のための情報処理技術」解説7報, Imaging Highlight「化学とバイオの連携が具体化するリグニンからの芳香族ポリマー原料生産」, 教育講座「画像技術を支える高分子の基礎(X) —ゴムの製造(配合工程)—」, 研究室訪問「因幡研究室 東京科学大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 エンジニアリングデザインコース」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

・ 278号 (Vol. 64, No. 6), 2025年12月10日発行, 97頁, ※英文特集号

論文2報, Special Topic「Printed Flexible Electronics and Devices」論文3報, 解説3報, Imaging Highlight「創作の軌跡もまたアートである KISEKIART Project」, 教育講座「画像技術を支える高分子の基礎(XI) —ゴムの試験法—」, 研究室訪問「エルゴノミクスデザイン研究室(矢口研究室) 東京電機大学 理工学部 理工学科 情報システムデザイン学系」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

【フリートーキング “Imaging Today”】

第 44 回フリートーキング“Imaging Today”：「デジタルテキスタイルとインクジェットの最新動向と今後の展望」および「可視化・計測技術の最新事例」の 2 特集・6 講演で開催した。

日時 2025 年 1 月 20 日（月） 開催形式 オンライン

【ICJ2025 にて Imaging Today 特別セッションの実施】

ICJ2025 にて Imaging Today 特別セッションを実施した。

テーマ 学会誌 257 号 Imaging Today 特集「最新のエナジーハーベストティング技術・材料」

「カーボンナノチューブをもちいた熱電発電および光熱電イメージング」

京都工芸繊維大学 野々口先生

「湿度変動電池の開発と応用」 産業技術総合研究所 駒崎先生

「極性有機分子の自発配向分極現象を利用したエレクトレット型振動発電素子」

群馬大学 田中先生

【年次大会における編集委員長賞】

ICJ2025 および ICJ2025Fall 各討論会 のインタラクティブセッション発表から編集委員長賞の選定・表彰を行った。

・ICJ2025 編集委員長賞

「連続式インクジェットプリンタの液滴生過程におけるノズル流量の周期的変動の影響」

東京農工大学 栗田雅章氏

「高機能有機-TiO₂ ハイブリッド白色インクの開発」 山形大学 阿部翔瑠氏

・ICJ2025Fall 編集委員長賞

「エレクトロクロミズムとフォトニック構造を融合した新規ハイブリッド光反射デバイス」

千葉大学 白井颯太氏

(10) 技術委員会 委員長 前田秀一（東海大学）

1. 技術委員会全体の活動状況

(ア) 2025 年度は、委員長 前田秀一、副委員長 飯野裕明・宮戸健志の体制で運営した。

(イ) 利便性の問題（部会員が全国各地に散らばっているなど）から、今年度も審議や会議ならびに業務依頼はメールあるいはオンライン中心で行う部会が多かった。一方、対面での交流の重要性も鑑み、合宿や懇親会を行うなどの部会もあり、今後は対面をより重視する方向で進めることでコンセンサスが得られている。新領域検討を技術委員会の一つのミッションと定義づけ 2022 年から継続的に議論してきた結果が、日本機械学会 IIP や ICJ 共同セッションの開催につながっている。さらに関連他分野の学協会との連携については、デジタルテキスタイル学会、加飾技術研究会等とのコラボレーションが継続されている。

(ウ) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場として、2025 年度は 2026 年 1 月 23

日（金）に TKP 市ヶ谷カンファレンスセンターにて開催した（出席者 49 名）。総会に先だって同日に主査会議を現地開催した。総会では、主査会議での議論の結果も踏まえて各部会からの活動報告を行った。

(エ) ICJ2025（2025/6/11-13 東京科学大学すずかけ台キャンパス）にてオーガナイズドセッションを開催した。

(オ) 2025 年 4 月～2026 年 3 月の間に、技術研究会を 5 回 [トナー技術部会：通算 163 回 (5/16 ハイブリッド)、電子ペーパー/フレキシブル部会：通算 164 回 (11/13 ハイブリッド)、電子写真部会：通算 165 回 (2/6 ハイブリッド)、MBD 部会：通算 166 回 (3/2 ハイブリッド) インクジェット部会：通算 167 回 (3/7 ハイブリッド)]を開催した。一昨年度の年 2 回、昨年度の年 4 回からは増えてきている。今後も引き続き開催回数を増やし活性化を図っていきたい。

(カ) 第 89 回技術講習会 (6/30-7/4 の 5 日間 ハイブリッド開催) に各部会から委員を講師として派遣する協力を行った。

(キ) 2025 年度関東シンポジウム (12/11 ハイブリッド開催) に各部会から委員を講師として派遣する協力を行った。

(ク) 第 5 回複写機遺産の認定活動を行った。

2. 各部会の活動状況

1) 電子写真技術部会

- ・定例会会を 9 回（対面開催 2 回、オンライン会議開催 7 回）実施した。
- ・2025 年度関東シンポジウム (12/11 ハイブリッド開催) にて、電子写真技術の最新動向を報告した。
- ・第 5 回複写機遺産の認定審査を実施した。
- ・用語集の「電子写真分野」に追加を検討中。
- ・2026/2/6 に研究会『新しい価値を創出するプリンティング技術』～オフィス/プロダクションで多様化する市場のニーズに応えるために～をハイブリッド開催した。

2) トナー技術部会

- ・定例会会（見学会も含む）を隔月（原則、奇数月第二金曜日）に開催した。具体的には、6 回、オンラインで、1、3、7、9、11 月に実施した。
- ・2025/5/16 に研究会『トナーの環境規制と環境配慮技術動向』をハイブリッド開催した。

3) 画像処理技術部会

- ・部会内でインクジェット画像処理勉強会を 4 回 (4/7,6/23,10/6,1/23) 開催するなど、インクジェット系の勉強会を中心とした活動を行っている。今後は新規委員の募集を継続しながら、電子写真系の画像処理への発展も検討していく。

4) 画像技術用語部会

- ・部会会議をオンラインで 7 回 (5/21、6/17、6/24、9/30、11/6、12/11、26/1/23) 開催した。
- ・12 月 1 日に画像技術用語集 web 版の改訂版を公開した。
- ・新規用語などの追加に対応中。

5) インクジェット技術部会

- ・部会を7回(4/1、5/22、8/8、10/15、12/19、26/1/23、26/1/31(合宿))開催した。
- ・インクジェット技術交流会として拡大交流会(ICJ2025開催2日目)を開催した。対面での交流にて参加を促す企画として、86名が参加した。
- ・ミニWS(3/19ハイブリッド)を計画中。
- ・2025年度関東シンポジウム(12/11ハイブリッド開催)にて、この一年の最新動向・技術を総括した。
- ・上記の関東シンポジウムの内容を中心に、2026/2/18山形大学インクジェットセンターのセミナー、3/6インクジェット技術研究会などで講演を行った。
- ・技術講習会において、7/3にインクジェット基礎講座(6テーマ)を担当した。7/4の応用講座では昨年に引き続き「UV硬化型インク概論」「商業印刷向けインクジェット印刷機の課題と現状」、「インクジェットによる機能性材料の吐出・画像」について部会委員や外部講師が講演を担当した。
- ・ICJ2025にてシミュレーション部会と協力し、オーガナイズドセッションを開催した。3つのセッションを設け15件の講演を企画した。
- ・また、デジタルテキスタイルWGと協力して、画像技術による出力物ギャラリーを開催した。11社にてデジタルテキスタイルや加飾による印刷物を展示し、ショートプレゼンも実施した。参加者は部会委員、説明員を含めて約160名であった。

6) 電子ペーパー/フレキシブル技術部会

- ・定例部会を7回(4/25、5/29、6/25、7/22、9/13(合宿)、10/24、12/25、(9/13、12/25を除きオンライン開催))と技術研究会(11/13、ハイブリッド)を1回開催した。
- ・2025年度第2回技術研究会(通算第164回)『『電子ペーパー・フレキシブル技術とグリーンテクノロジーの最新動向』では、会場での製品・サンプルデモ展示も昨年に続き実施した。
- ・関東シンポジウム(12/11ハイブリッド開催)にて、この一年の最新動向・技術を総括した。

7) サーマル記録技術部会

- ・2025年度は、メールベースでの情報交換が中心であった。2026/1/23には、技術委員会総会に合わせて部会を開催した。
- ・第89回日本画像学会技術講習会「画像技術の基礎と将来」において、「サーマルプリントヘッドの基礎と展開」のテーマで講演者を派遣した。
- ・関東シンポジウム(12/11ハイブリッド開催)にて、サーマルヘッド技術の最新動向を中心に紹介した。
- ・11/7-8に日本印刷会館にて開催された米国画像学会IS&T主催のAdvances in Printing Technology 2025国際会議にて講演参加し、熱転写方式についてその最新動向を報告した。

8) シミュレーション技術部会

- ・部会を4回(4/21、6/18、8/20、12/15)オンラインにて開催した。
- ・第89回日本画像学会技術講習会(6/30)にて、インクジェット吐出シミュレーションの実

第3回：2025年7月25日 サマースペシャル
【新価値創出ワークショップ】コア技術を異分野へ！
～ 既存技術から新たな価値を生み出す ～
…… 上林 昭(ワークショップデザイナーユニット グリサン)

第4回：2025年11月7日 「未来を創る液晶材料とデバイス技術」
～ 来て見て触れて、感じよう！飯野研究室見学会 ～
…………… 飯野 裕明(東京科学大学 総合研究院)

● 開催結果

第2回：現地15名、オンライン7名、合計22名(うち非会員2名)
第3回：合計13名(うち非会員1名)
第4回：現地9名、オンライン3名、合計12名(うち非会員3名)
計3回で延べ47名(うち非会員6名)の参加者を得た(いずれも講師・企画委員を含む)。

(12) コンファレンス委員会 委員長 吉田崇裕(リコー)

<2025年 年次大会>

昨年度に引き続き、対面開催(2×2 Hybrid形式)を実施した。概要を以下に示す

※2×2Hybrid形式：発表者 現地またはオンライン可、聴講者現地またはオンライン可

- (1) 開催日：2024年6月11日(水)～13日(金)
- (2) コンセプト(スローガン)：
「画像価値多様化への挑戦 -来て・見て・語れ、つながりが拓く画像技術の未来-」
現地会場に来て、直接顔を合わせる重要性の訴求を継続するため、ICJ2024のコンセプトを引継ぎつつ、「つながり」を主語として画像技術の未来を「拓く」ことを意図している。
- (3) 講演数は70件で目標達成(ICJ2024は62件)。分野の多様化も進んだ。
- (4) 参加者数は255名(事前233名、当日22名)で、目標の300名を大きく下回り、ICJ2024の293名に対し13%減。特に若手(25～35歳)の対面参加が減少した。
- (5) 参加/講演者数比は3.6で、過去のトレンドから大きく下回った。講演者数を増やすことが必ずしも参加者数の増加につながらない事例となった
- (6) 会場展示は9社に参加いただくと共に、昨年に引き続きの施策(展示会場への動線、カフェスペースの設置等)に加え、スタンプラリーを初実施した。完走者は32名で想定よりも多かったが、「1日では回りきれない」「全ブース制覇は大変」との声もあった。

<2026年 年次大会の方針および計画>

- (1) 引き続き学会実行委員制による開催を継続する。

- (2) 昨年に引き続き 実行委員長は、開催場所となる組織のキーパーソンにお願いするなどして、固定化しない方針とする。コンファレンス委員長は実行責任者、運営委員長は実行副責任者とする。実行委員長は、東京科学大学 飯野裕明 理事にお願いする

<実行委員長選任の考え方>

開催場所が大学の場合 その大学の先生。それ以外の場合 ISJ 会長。副実行委員長 は開催場所が大学の場合 その大学に複数の先生が居る場合に置き、一人の場合には置かない。大学以外の場合も置かない。

- (3) 開催日：2026年6月10日（水）～12日（金）（2×2 Hybrid 形式にて開催予定）
(4) 会場：東京科学大学(旧：東京工業大学) すすかけ台キャンパス（ICJ2025 と同会場）
(5) コンセプト（スローガン）：

「画像価値多様化への挑戦 -来て・見て・語れ、若い力とつながりが拓く画像技術の未来-」
ICJ2025 での現地会場に来て、直接顔を合わせ、つながりを形成する重要性の訴求は継続する。更に学会や ICJ2025 の課題でもあり、ICJ2026 の大きな狙いの一つでもある「若手」に訴求できるスローガンとした。

- (6) 目標：講演 60。

ICJ2025 では参加者増を狙って高い講演目標数を掲げたが、参加者の伸びにはつながらなかった。一方、プログラム構成上かなりビジーとなり、2トラックの開催でも一方の講演を聞けなかったという声もあった。

ICJ2026 では更なる施策を検討していることもあり、ゆとりのある開催とするため、目標件数を 60 件とするが必達とはせず、一般講演を重視し講演を募る。

- (7) 若手参加者数の増加を狙い、新たな施策を行う。

1. 特別企画分科会の新設

学生や若手が、若手・中堅技術者と交流できるイベントを検討中。

昼食時間帯にテーブルを囲んで、軽食をつまみながら語り合うことを想定。

2. 若手参加費の年齢引き上げ

昨年施策した、30歳未満約半額(会員 6,000 円)の年齢を、40歳未満に引き上げる。

3. 3人グループ優待

主申込み者 1 名に対し、40歳未満+2 名まで参加可能とする参加枠を新たに設ける。

- (8) 基調講演は、デンソーウェーブ(株)の原昌宏様による「世の中を変えた QR コードの原点と成長」をご講演いただく。

- (9) ポスター展示は初日に実施し、IS&T の Print4Fab を参考にし、ハッピーアワーにビール片手にディスカッションできる形式を検討中。

- (10)会場展示のスタンプラリーのコンプリート条件は緩和予定。人気だったエコバックを新規作成予定。

- (11)人気のイベントでもあるインクジェットヘッドのショーケースを 2 年ぶりに開催する。

(13) 事業委員会 委員長 木崎宏恵 (三菱ケミカル)

・標準キャリア（担当：トナー技術部会）：今年度の頒布数は 12 セット（別途、キャリアのみ

12kgの頒布あり)であった。一昨年度(25セット)、昨年度(32セット)と比較して減少となった。

- ・テストチャート：通常品の頒布は6枚に留まり、昨年度(16枚)を下回った。しかし、今年度は別途特注チャート120枚の頒布があった。
- ・スクリーンゲージ：昨年度の16枚に対し、今年度は5枚と減少した。在庫が残りわずかとなっており、今後は在庫切れに伴い頒布を終了する見通しである。
- ・刊行物の販売状況：2008年6月に刊行した「デジタルプリンタ技術」シリーズ4巻(①～④)は、刊行から17年が経過した現在も販売を継続している。また、7年前に刊行された改訂版インクジェット(⑤)の販売は依然として好調であり、2025年の年間販売数は97部を記録した。なお、2025年のシリーズ全体の販売数は101部であった。全6巻の累計実売数および2025年の販売内訳は以下の通りである(提供：東京電機大学出版局 2026年1月現在)。

- ① 電子写真：2025年 0部(累計 3,704部)
 - ② 電子ペーパー：2025年 3部(累計 1,713部)
 - ③ インクジェット：2025年 0部(累計 3,888部)
 - ④ ケミカルトナー：2025年 12部(累計 2,187部)
 - ⑤ 改訂版インクジェット：2025年 97部(累計 1,789部)
 - ⑥ 画像処理の基礎：2025年 -11部(累計 939部)
- 合計：2025年 101部(累計 14,220部)

[協賛依頼]

○2025年度

開催日	行事	会場	主催等
4/10	光学系の製造誤差解析入門	機械振興会館 別館4階(東京芝)	日本オプトメカトロニクス協会
5/14	メタサーフェス、メタレンズ～微細構造と光の相互作用	オンライン開催	日本オプトメカトロニクス協会
6/6	2025年度 静電気学会講習会 基礎編 空気清浄の全て！～集塵、ガス浄化、感染対策の原理、測定技術など～	オンライン(リアルタイムによる講習会(Zoom))	静電気学会
6/6	画像電子学会セミナー:Advanced Image Seminar 2025 (AIS2025)	オンライン開催	画像電子学会
7/3	2025年度スクリーン印刷技術研究会セミナー スクリーン印刷基礎講座「入門・基本編」	オンライン開催(Zoomウェビナー開催)	日本印刷学会
7/11	2025年 日本印刷学会 夏期セミナー	印刷博物館 研修室 (Zoomウェビナー同時開催)	日本印刷学会
7/18	2025年7月デジタルテキスタイルアカデミー基礎編	ZOOMウェビナーによるオンライン開催	ファッションビジネス学会 デジタルテキスタイル研究部会
8/1	2025印刷・情報・電子用材料研究会基礎講座 「基礎から学ぶ有機半導体材料」	東京理科大学森戸記念館 第一フォーラム	高分子学会 印刷・情報・電子用材料研究会
8/7	「光学実験入門」技術講座	機械振興会館 別館4階 協会研修室	日本オプトメカトロニクス協会
8/29	第3回インクジェット基礎講座	法政大学 市ヶ谷田町校舎5階マルチメディアホール	色材協会 関東支部 インクジェット部会
9/10	第2回セミナー「スマートフォン技術の動向とミラーレスカメラの行方」	東京都写真美術館1Fホール	日本写真学会 スマートフォン技術研究会
9/10-12	日本視覚学会2025年夏季大会	岩手教育会館(岩手県盛岡市)	日本視覚学会
9/11	『コンピューショナルイメージング』技術講座	ハイブリッド開催 機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会

9/11-12	第49回静電気学会全国大会	ハイブリッド開催 名城大学天白キャンパス	静電気学会
9/18	2025年度スクリーン印刷技術研究会セミナー スクリーン印刷基礎講座「応用・上級編」	オンライン開催 (Zoomウェビナー開催)	日本印刷学会 技術委員会 スクリーン印刷技術研究会
9/25-26	「画像情報処理と機械学習」技術講座	ハイブリッド開催 機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会
10/3	2025年 第2回 P&I 研究会シンポジウム —万博に見る印刷技術の未来—	オンライン開催 (Zoomウェビナー開催)	日本印刷学会 技術委員会P&I研究会
10/9-10	「図解による光学入門」技術講座	ハイブリッド開催 機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会
10/10	2025年 日本印刷学会 秋期セミナー ～最新印刷技術の羅針盤が示す業界の未来～	小森コーポレーション本社(本所吾妻橋) (Zoom ウェビナー同時開催)	日本印刷学会 事業委員会・秋期セミナー分科会
10/22	アディティブ・マニファクチャリングによる素材加工革新～セラミック ス、CFRPの可能性と最新動向	溶接会館 2F ホール (東京都 千代田区)	日本3Dプリンティング産業技術協会・ 日本溶接協会AM部会
10/30	アディティブ・マニファクチャリング設計革新 ～進化するDfAM	渋谷区文化総合センター 第1学習室 (東京都)	日本3Dプリンティング産業技術協会
11/4	「AIとオプティクス」技術講座	オンライン (Microsoft Teams利用)	日本オプトメカトロニクス協会
11/7-8	Advances in Printing Technology 2025	日本印刷会館 ハイブリッド開催	Society for Imaging Science and Technology
11/7	令和7年度画像保存セミナー	東京都写真美術館1Fホール	日本写真学会 画像保存セミナー実行委員会
11/18	第21回 日本写真学会光機能性材料Onlineセミナー 「新しい励起状態が創出する光機能性材料の新展開」	オンライン開催	日本写真学会 光機能性材料研究会
11/21	第18回品質工学技術戦略研究発表大会 (RQES2025A)	ハイブリッド開催 統計数理研究所	品質工学会
11/21	日本工学会2025年度第1回CPD協議会公開シンポジウム ～生成AIが切り拓く学びの未来 工学人材の生涯教育に向けて～	オンライン開催	日本工学会
11/21	日本写真学会 第32回カメラ技術セミナー	東京都写真美術館 1Fホール	日本写真学会 カメラ技術研究会
11/26	ITMA ASIA 2025 調査報告会	オンライン開催	ファッションビジネス学会 デジタルテキスタイル研究部会
11/27-28	第21回 色材IT (Inkjet Technology) 講座	DIC株式会社 2F大会議室	色材協会 関東支部 インクジェット部会
11/28	日本印刷学会 第21回紙メディアシンポジウム 「紙メディアの本質的価値と情報コミュニケーション」	日本印刷会館	日本印刷学会
12/2	2025年プリメディア研究会例会 次世代印刷ワークフローの最前線 ～制作効率化からデザイン表現までの提案～	オンライン	日本印刷学会 技術委員会 プリメディア研究会
12/3-5	第32回ディスプレイ国際ワークショップ IDW '25	広島国際会議場	映像情報メディア学会 (ITE)、The Society for Information Display (SID)
12/4	2025年度スクリーン印刷技術研究会セミナー 「スクリーン印刷の新工法と機能性インキ、製版技術の動向」	ハイブリッド開催 日本印刷会館	日本印刷学会 技術委員会 スクリーン印刷技術研究会
12/8	『色彩工学—その基礎と新しい表色系』技術講座	ハイブリッド開催 機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会
12/9-10	第34回微粒化シンポジウム	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	日本エネルギー学会 液体微粒化部会
12/11-12	「図面公差と計測誤差解析入門」技術講座	ハイブリッド開催 機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会
12/22	日本3Dプリンティング産業技術協会 第38回ビジネスセミナー 3Dプリンティング海外動向報告会2025(欧州)	東京都立産業貿易センター浜松町館 第二会議室	日本3Dプリンティング産業技術協会
1/21-23	日本視覚学会2026年冬季大会	工学院大学 新宿キャンパス アーバンテック ホール	日本視覚学会
1/22	日本3D プリンティング産業技術協会設立10周年記念フォーラム AM/3D プリンティングの未来に向けて	東京都立産業貿易センター浜松町館 第2会議室	日本3Dプリンティング産業技術協会
1/29	日本3Dプリンティング産業技術協会 教育講座 3Dプリンティングの基礎「導入講座+TCT Japan 2026 見学ツアー」	東京ビッグサイト会議棟604会議室	日本3Dプリンティング産業技術協会
1/30	2026年 日本印刷学会 冬期セミナー ～印刷表現の多様性 紙・布・デジタルのリアル体験～	DIC株式会社 2階 大会議場	日本印刷学会 事業委員会・冬期セミナー分科会
2/5	第58回光学四学会関西支部連合講演会 社会を支える光テクノロジー	オンライン開催 (Zoom)	光学四学会(日本光学会・日本分光学会・照明学 会・日本色彩学会)関西支部
2/5-6	『デジタルカラー画像の解析・評価』技術講座	ハイブリッド開催 機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会

2/18-20	page2026展示会 「Re: Connect ～再びつなぐ、印刷のチカラ。」	サンシャインシティ・コンベンションセンター文化 会館 展示ホールB・C・D	日本印刷技術協会
2/19-20	「光学実験入門」技術講座	機械振興会館 別館4階 (日本オプトメカトロニクス協会研修室)	日本オプトメカトロニクス協会
2/21	色の国際科学芸術研究センター 第7回シンポジウム2026 「テーマ:文化を彩るカラーサイエンス&アート」	東京工芸大学中野キャンパス6号館1階6101教 室	東京工芸大学 色の国際科学芸術研究センター
2/27	2026年 第1回 P&I 研究会シンポジウム ーデジタル印刷の活用事例ー	オンライン開催 (Zoomウェビナー)	日本印刷学会 技術委員会 P&I研究会
3/2-3	IIP2026 情報・知能・精密機器部門 (IIP部門) 講演会	名城大学 天白キャンパス (ハイブリッド開催)	日本機械学会 情報・知能・精密機器部門
3/4	日本工学会 第7回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム ～ダイアログ:多様性と包摂性のある社会のための工学の未来～	オンライン開催 (Zoomウェビナー)	日本工学会 CPD協議会・科学技術人材育成コ ンソーシアム
3/16-19	第9回 画像エレクトロニクスとビジュアルコンピューティングに関する国 際会議 (IEVC2026)	広島大学霞キャンパス	画像電子学会 IEVC2026実行委員会
5/19-21	第38回電磁力関連のダイナミクスシンポジウム (SEAD38)	水戸市民会館	日本AEM学会 (共催:日本機械学会・電気学会)

(14) 広報委員会 委員長 橋詰博徳 (ミマキエンジニアリング)

広報委員会の活動として、新規会員獲得のための活動を拡充、新規立ち上げを実施している。昨年度より委員長の交代を行い、メンバー人数は変更無く8名で活動している。2025年度の活動としては以下を実施した。

1) 広報委員会の開催

委員会としてオンラインで3回。それ以外にもメールでの活動も実施した。今年は新規会員獲得増のため広報委員会として何を実施するかを検討し、その中で決まった施策を実施し始めた。

2) 学会ホームページコンテンツの拡充

若手技術者や研究者の成長に寄与できるコンテンツの導入、回遊的畫面遷移経路の整備、親しみを演出する「ゆるキャラ」の展開を進め、会勢拡大の入り口としての機能拡充を図った。

- ・個人会員勧誘ページ、維持会員勧誘ページの新設。勧誘パンフ作成、リリース (3月)
- ・サムネイルによるページ遷移構成の導入、動物キャラクター作成、掲載 (5月)
- ・学会誌「教育講座」の歴代タイトルをリスト化、リンクページの新設 (8月)
- ・トップバナーに告知中の全主催行事を掲示 (9月)
- ・画像技術トレーディングカードの編纂、サイドバナーに日替わり公開 (10月)
- ・イベント報告ページを新設。編集委員会へ引き継ぎ、運用開始 (12月)

3) ICJ2025 広報

ICJのHP立ち上げ運営、CFP、大会ポスター作製、スタンプラリー用具の準備、幕間広告動画作成などを担当し、タイムリーに提供できました。

ICJ2026にも引き続き実行委員会に参画し、広報コンテンツの企画、提供を担当していきます。

4) 学会 YouTube チャンネル検討

他学会の活動内容・運営実績などを調査、参考にして画像学会として運用方法について検討議論しました。比較的作成が簡単なショート動画を利用して、主催イベントの見どころ紹介の制作からトライアルで実施することを検討しています。

5) page2026 出展

これまでもコンバーテックに日本画像学会の活動紹介する目的で出展してきましたが、サプライチェーンまで範囲を広げて会勢拡充するための施策として検討を行い、page2026（会期2026年2月18日～2月20日）へ出展することを決定しました。

JAGAT 連携担当、事務局、広報委員会、企画委員会方メンバー選出して実行委員会を立ち上げ、psge2026に申し込み完了しました。今後、各技術部会の協力を仰ぎながら出展企画、準備を行います。

(15) 選奨委員会 委員長 飯野裕明（東京工業大学）

選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、フェロー表彰、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し、理事会に推薦した。

(16) 国際交流委員会 委員長 朝武敦（ATI-C コンサルティング）

11月7日、8日に開催された、IS&T主催の画像に関する国際学会 Advances in Printing Technology 2025に、座長の選定、当日の会場運営等について国際交流委員会として参画した。また10月に開催された4DFF Conferenceについて、海外からの発表者に対する補助を行った。それ以外は低調な活動に終わってしまった。来年度以降、体制変更も含めて委員会活動の活発化を検討する。

(17) 関西委員会 委員長 深谷 知巳（京セラ）

2025年度 関西シンポジウム 開催報告

実行委員長：寺岡 克矩（京セラドキュメントソリューションズ）

2025年5月23日にI-site なんばでの現地会場とWeb(Zoom)でのハイブリッド方式により、2025年度日本画像学会関西シンポジウムを開催致しました。「包み隠さず語ります～ 軟包装におけるデジタル印刷の可能性と挑戦～」と題し、現在注目されている軟包装分野でのデジタル印刷技術の将来を議論する場として関連企業の方々からご講演頂きました。更に講演後のパネルディスカッションでは、講師の皆様にご登壇頂き画像技術の軟包装分野での可能性や展望について議論を交わしました。シンポジウム終了後には、展示物も交えながら講師の皆様と直接お話しできる情報交換会も行いました。

シンポジウムでは、グラビア印刷が主流の軟包装市場におけるデジタル印刷への挑戦や、環境配慮型水性インク技術の開発、高速かつVOC削減を実現する環境対応型デジタル印刷機の紹介、更にはデジタル印刷導入に伴う周辺インフラに関して、軟包装印刷に使用する有機顔料の各国の環境規制の動向、人材確保が困難な印刷現場の常識を変えるデジタルプリントの可能性など軟包装印刷分野でご活躍されている皆様方にご講演頂きました。パネルディスカッションでは、「軟包装へのインクジェット印刷の普及を拒むものは何か、どうすれば加速できるか」「将来の軟包装印

刷の在り方」「軟包装におけるデジタル印刷の位置付け」などのテーマを取り上げ、アナログ印刷・デジタル印刷の比較、環境配慮、未来展望についてパネラーの方々のご専門の立場からご意見を頂くことで議論深めることができました。また、会場や Web 参加者からの質問にもお答え頂いたことで一体感のあるパネルディスカッションが開催でき、参加者の皆様からも高評価を得ることができました。今回のシンポジウムでは、軟包装分野におけるデジタル印刷技術の知見を深めると共に、画像技術の未来を感じさせる有意義な機会になったと考えます。

参加人数：50名（講師、実行委員含まず）

■プログラム

講演時間	講演内容	講師
10:00～10:05	実行委員長挨拶	寺岡 克矩 (京セラドキュメントソリューションズ株式会社)
10:05～10:50	「軟包装材のデジタル印刷への挑戦」	菅原 申太郎 (株式会社ソック・ラボラトリー)
10:55～11:40	「水性IJインクが拓く、環境に優しい軟包装の未来」	吉川 貴裕 (花王株式会社)
11:45～12:30	「軟包装用水性インクジェット機の進化と周辺インフラ」	中村 正道 (株式会社ミヤコシ)
12:30～13:50	昼休憩	
13:50～14:35	「軟包装用有機顔料」	山崎 弘 (山崎国際コンサルティング)
14:40～15:25	「軟包装の可能性を拓けるデジタルプリント」	八城 順平 (TOPPAN 株式会社)
15:40～16:50	パネルディスカッション 『包み隠さず語ります』 ～軟包装におけるデジタル印刷の可能性と挑戦～	パネラー：菅原 申太郎 (株式会社ソック・ラボラトリー) 吉川 貴裕 (花王株式会社) 中村 正道 (株式会社ミヤコシ) 山崎 弘 (山崎国際コンサルティング) 八城 順平 (TOPPAN 株式会社) 司会：本多 将 (三洋化成工業株式会社)
16:50～16:55	日本画像学会 関西委員長 挨拶	深谷 知己 (京セラ株式会社)

(18) 財務委員会 委員長 加川 哲哉 (コニカミノルタ)

・2024年度 収支決算

2025年度第1回財務委員会（5/7）において2024年度収支決算を実施。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた。2025年度第1回理事会の決議を経て2025年度総会第3号議案として起案し、承認を得た。

・2025年度 事業活動予算

2024年度実績をベースとして、維持会員会費収入の漸減傾向や、対面イベント増加に伴う収入増および支出増などを反映し、収入2,718万円、支出2,718万円と収支差額0円の予算編成とした。2025年度総会第4号議案として起案し、承認を得た。

・2025年度 半期決算

2025年度第2回財務委員会（12/3）において、2025年度半期決算を実施。会計処理規程に則り、監事による監査を受けた後、2025年度第4回理事会に報告し、半期決算の承認を得た。

事業活動収支は、収入2,812万円（年間予算の103%）、支出1,885万円（年間予算の69%）と概略予算通りに推移した。前年度同期比では収入、支出が共に増加し、収入は+396万円(会費収入-70万円、講習会収入+111万円、試験標準品収入+395万円等)、支出は+294万円(試験標準品費+350万円、出版物制作費-200万円、管理費+42万円等)となった。

（19）特別講演会

2025年3月14日（金）評議員会後に、国立印刷局研究所の川口泰正氏をお迎えして「日本銀行券の改刷と偽造防止技術等について」の特別講演会をTKP 神田ビジネスセンターにて開催した。本講演では、2024年7月に発行された日本銀行券の改刷の背景と、開発された偽造防止技術、ユニバーサルデザインなどについて解説いただいた。聴講者は手持ちの新札で高度な技巧を確かめながらの講演会となり、活発な質疑がなされた。

（20）技術研究会 技術委員会 前田秀一（東海大学）

1. 第1回日本画像学会技術研究会（通算第163回）

2025年5月16日（金）日本印刷会館 日本印刷会館 201 会議室および Zoom オンラインにて Hybrid 形式によるトナー技術研究会主催 2025 年度第 1 回日本画像学会技術研究会（通算第 163 回）『トナーの環境規制と環境配慮技術動向』を開催した。有料参加人数は 27 名（会員：26 名、非会員：1 名）であった。

今年度のトナー技術研究会では環境技術の知見を深めることを目的として、最近の環境規制動向と、環境性能を向上させる新たな切り口となりうる環境配慮技術に関する講演を集めた研究会とした。また、会場のみとなったが、全ての講演者とのフリー討論会を設定し、講演の聴講だけではなくより深い議論が行える研究会の形式とした。

【講演内容】

- 1) トナーに関連する環境規制動向：山崎 弘（山崎国際コンサルティング）
- 2) ケミカルリサイクル：田中 真司（産業技術総合研究所）
- 3) バイオマス素材としてのオレオケミカルの展開：森重 貴裕（日油株式会社）

<講演者とのフリー討論会（現地のみ）>

2. 第2回日本画像学会技術研究会（通算第164回）

2025年11月13日（水）東京工業大学蔵前会館 ロイヤルブルーホール（大岡山）および Zoom オンラインにて Hybrid 形式による電子ペーパー/フレキシブル技術部会主催 2025 年度第 2 回日本

画像学会技術研究会（通算第 164 回）『電子ペーパー・フレキシブル技術とグリーンテクノロジーの最新動向』を開催した。有料参加人数は 4 名（会員：4 名、非会員：0 名）であった。

今年度は省エネルギー情報処理を実現する認識エンジン SOP、およびインクジェット技術を利用した FPC 製造、ウェアデバイスのためのニットセンサ、さらに振動発電技術、気温変動発電技術等、各分野の講師から最新情報について講演していただいた。

【講演内容】

- 1) 非学習方式でサンプル問題や電力問題を克服する認識エンジン SOP：井上 克己（株式会社エイ・オー・テクノロジーズ）
- 2) ソフトセンシングデバイスの開発と社会実装：熊木 大介（山形大学）
- 3) “ウェアデバイス”実現のためのニットセンサに関する研究：泉 小波（産業技術総合研究所）
- 4) IJ 技術により環境負荷低減を実現した FPC：上野 成馬（エレファンテック）
- 5) 磁歪振動発電 V-GENERATOR の社会実装に向けた取り組み：北 翔太（金沢大学）
- 6) 気温サイクルの電力変換、及びそれを電源に用いた無線センサシステム：末森 浩司（産業技術総合研究所）

<デモ展示> 認識エンジン SOP、IJ 技術を利用した FPC、磁歪振動発電 V-GENERATOR、ニットセンサ、気温変動電池

3. 第 3 回日本画像学会技術研究会（通算第 165 回）

2026 年 2 月 6 日（金）ユニコムプラザさがみはらおよび Zoom オンラインにて Hybrid 形式による電子写真技術部会主催 2025 年度第 3 回日本画像学会技術研究会（通算第 165 回）『新しい価値を創出するプリンティング技術』～オフィス/プロダクションで多様化する市場のニーズに応えるために～を開催した。有料参加人数は 45 名（会員：44 名、非会員：1 名）であった。

今年度は、最新の製品搭載技術の事例を集めている。プリンティング技術がどのように市場の変化に応え、ビジネスの可能性を広げていくのかを議論する場を設けた。製品開発に携わった開発者の「想い」を共有して、更に新しい価値を見出していきたい。

【講演内容】

- 1) フルフロントアクセスの実現で設置スペースや印刷にかかわる作業負荷を削減させ LBP810s の紹介：大久保 尚輝、八木 靖貴（キヤノン株式会社）
- 2) 再生複合機における環境性能と高品質と低価格への取り組み：榎田 秀樹（キヤノン株式会社）
- 3) 省スペース/小型化ニーズに応える作像技術の発展：大平 達也（エトリア株式会社）
- 4) クリーナレスでの高速・長寿命達成一進化の歴史と現在位置一：平野 草太、住田 純也（ブラザー工業株式会社）
- 5) ノンストップ・オペレーションと多彩な色再現：C14010S が拓く高品質・大量印刷の未来：市川 敦士、沖津 俊太、奥野 央志（コニカミノルタ株式会社）

- 6) 小型 LED プリントヘッドの高画質化技術：粕谷 洋介（富士フイルムビジネスイノベーション株式会社）
 - 7) 加水による多数枚針なし綴じ技術の開発：杉山 恵介、佐々木 圭、瀬戸 一貴（エトリア株式会社）
- <パネルディスカッション> （全講師）

4. 第4回日本画像学会技術研究会（通算第166回）

2026年3月2日（月）ユニコムプラザさがみはらおよびZoom オンラインにて Hybrid 形式による MBD 技術部会主催 2025 年度第4回 日本画像学会技術研究会（通算第166回）『技術開発での実践と深化』を開催した。有料参加人数は18名（会員：15名、非会員：3名）であった。

今年度の研究会では、まず MBD の基本概念や開発プロセスに与える価値について改めて整理したうえで、より概念的・横断的な視点から理解を深めていただけるよう構成している。そのうえで、インクジェット技術を題材とした具体的な事例紹介を通じて、モデル構築のアプローチ、パラメータ設計、シミュレーション活用、検証フローの高度化など、開発現場で役立つ実践的な内容を詳しくご紹介した。

【講演内容】

- 1) 品質工学ツール(JIANT)を活用したモデルベース開発：角 有司（宇宙航空研究開発機構）
- 2) 部分最適からシステム革新へ：積層造形設計の新展開：伊東 陽一（株式会社リコー）
- 3) システム制約を考慮したインク循環供給系の周波数特性計測：森 敦司（株式会社リコー）
- 4) インクジェット等価回路によるノズル内流速分布の推定：垣内 徹（ブラザー工業株式会社）
- 5) 状態方程式を組み込んだインク循環システムの等価回路解析手法：吉田 崇裕（株式会社リコー）
- 6) MBD によるワイプ機構の最適化：坂岡 伸哉（京セラドキュメントソリューションズ株式会社）

5. 第5回日本画像学会技術研究会（通算第167回）

2026年3月6日（金）機械振興会館およびZoom オンラインにて Hybrid 形式によるインクジェット技術部会主催 2025 年度第5回 日本画像学会技術研究会（通算第167回）『インクジェットが切り拓く商業印刷の未来戦略』－ 商業印刷の進化と次世代ソリューション －を開催した。有料参加人数は68名（会員：55名、非会員：12名、学生：1名）であった。

今年度は、2025年の動向を、メーカー・ユーザー視点から捉え、商業印刷分野におけるインクジェットとして目指していく方向性を捉えるため、各事例をご紹介いただいた後、座談会にて参加者と議論した。

【講演内容】

- 1) 2025年の技術動向：前坂 敏秀（理想科学工業株式会社）
- 2) 印刷はどこへ向かうのかーアナログとデジタルの視点からー：吉川 武志（株式会社小森コーポレーション）

- 3) 高精度・高速印刷を実現する TP-J560HDX の技術革新と応用展開：鈴木 勇斗（株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ）
 - 4) 用紙波うち低減を実現した RICOH Pro Z75 搭載の紫外線と赤外線を用いた新乾燥技術：浅田 幸輝（株式会社リコー）
 - 5) インクジェット技術が生み出す高付加価値ビジネスへの挑戦：吉原 洋平太（株式会社研文社）
 - 6) AI 時代の印刷ビジネス再考：郡司 秀明（公益社団法人日本印刷技術協会）
- <座談会> デジタル印刷におけるインクジェットの次章

（21）シンポジウム報告 企画委員会 中井洋志（エトリア）

2025 年 12 月 11 日(木)、2025 年度関東シンポジウムを『Imaging Next Generation：技術の蓄積と AI 共創の未来』 ～「歩み」を知り、「価値」の加速へ～ と題し、リアル会場（貸会議室内海：水道橋）及び Zoom によるオンライン配信のハイブリッド形式にて開催した。参加者は合計 38 名（うち非会員 3 名）、現地参加は 22 名であった。（講師、委員含む）

今回のシンポジウムでは、毎年恒例の各技術部会によるこの一年の振り返りに加え、本年度も二部構成として生成 AI を実践的に使いこなし、画像技術の将来につなげるためのワークショップを実施した。

開催概要は以下の通りである。

日本画像学会 2025 年度シンポジウム

『Imaging Next Generation：技術の蓄積と AI 共創の未来』 ～「歩み」を知り、「価値」の加速へ～

- 開催日時 2025年12月11日(木) 9:50～17:10
- 場所 リアル会場：貸会議室内海 2F教室とZoomによるオンライン配信とのハイブリッド形式
- 参加費 会員，維持会員，協賛学会員 10,000円，非会員 17,000円，学生 2,000円
- プログラム

	時間	講演内容	講演者(所属) ※敬称略
	9:50-9:55	開会挨拶	企画委員会
1	10:00-10:45	電子写真技術の最新動向～2025年総括～	鈴木 啓太(ブラザー工業)
2	10:50-12:00	インクジェット技術の最新動向	前坂 敏秀(理想科学工業)
	12:00-13:00	昼食	
3	13:00-13:30	デジタルファブリケーションの最新動向	酒井 真理(山形大学)
4	13:35-14:05	電子ペーパー/フレキシブル技術の最新動向	吉田 学(産総研)
5	14:10-14:40	フォトプリンタ市場と技術の動向 ～"見る"から"創る"へ 多様化するプリント体験～	川井 建(アルプスアルパイン)
	14:40-15:00	休憩	
6	15:00-17:00	ワークショップ	上林 昭(グリサン/企画委員)

	生成 AI 活用のネクストステップ ～「質問」から「実行」へ。AIをパートナーにする実践術～	
17:05-17:10	閉会挨拶	企画委員会

(22) 技術講習会 事業委員長 木崎宏恵 (三菱ケミカル)

① 第 89 回技術講習会

2025 年度は「画像技術の基礎と将来」をサブタイトルに掲げ、全 21 講座を開講した。各分野の最前線で活躍されている講師陣による講義は、若手技術者の育成の場として広く活用されており、本年度も受講者から大変好評をいただいた。本講習会の開催にあたり、講師を派遣いただいた各社、各大学、および技術部会の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

■開催日程

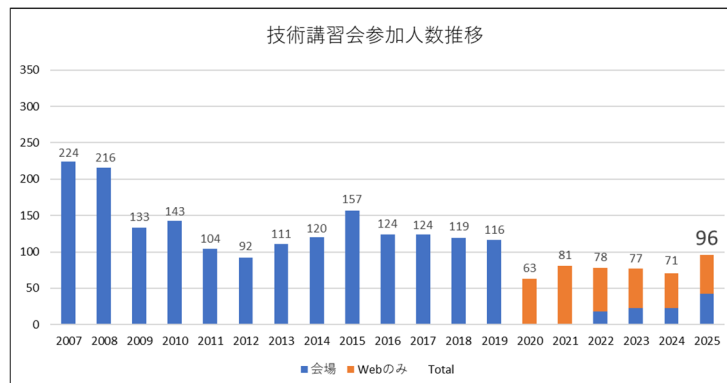
2025 年 6 月 30 日 (月)	シミュレーション実習 (シミュレーション技術部会)
2025 年 7 月 1 日 (火)、2 日 (水)	電子写真講習
2025 年 7 月 3 日 (木)、4 日 (金)	インクジェット講習

■開催方法

- ・本講習会は、シミュレーション講習を含め、ユニコムプラザさがみはらを会場とした対面形式と、Zoom によるオンライン形式のハイブリッド型で実施した。

■参加者数

- ・参加者数は 96 名 (うち会場参加 42 名) に達し、近年の実績 (2024 年度 71 名、2023 年度 77 名) を大きく上回る結果となった。



■懇親会

- ・7月1日(火)の昼休みと3日(木)の講義終了後、会場にて懇親会を開催した。対面形式ならではの活発な技術者交流が行われ、講師と受講者が親睦を深める有意義な機会となった。

■収支

- ・今年度は参加者数の増加に伴い参加費収入が伸長し、例年以上の利益を確保するに至った。

開催回	収入	支出	利益 (円)
第 88 回	2,049,000	892,939	1,156,061
第 89 回	2,418,500	832,683	1,585,817

■次回に向けて

- ・参加者の過半数が経験 1 年未満の若手であり、その多くが基礎知識の習得を目的としている。

よって、基礎重視の講習形態を継続するが、技術動向の把握を目的とする層も一定数存在することを考慮し、今後もこれら双方の満足度をさらに高めるよう、プログラムのブラッシュアップを行っていく。

■第 89 回技術講習会プログラム

1 日目 6 月 30 日 (月) <シミュレーション実演講習>

オープンソース OpenFOAM を用いたシミュレーション実習 – インクジェット吐出シミュレーション –

時間	題目	講師	内容
10:30開場 11:00までに入場をお願いいたします(予定)			
11:00-11:05	イントロダクション	富士フイルムビジネスイノベーション(株) 長谷部 恵	全体の進め方について説明します。
11:05-11:20	OpenFOAMとは	(株)リコー 清水 健太	OpenFOAMの概要を説明します。
11:20-12:50	実習1:毛細管シミュレーション(2次元)	ブラザー工業(株) 石川 博幸	OpenFOAMの自由表面ソルバー(interFOAM)を用いた簡単な課題を実習します。2次元毛細管現象を題材としOpenFOAMの基本的な計算手順に慣れて頂きます。
13:50-15:50	実習2:毛細管シミュレーション(軸対称2次元)	京セラドキュメントソリューションズ(株) 藤田 俊貴	実習1の課題(2次元毛細管現象)を軸対称2次元に拡張します。この実習を通して、メッシュ作成方法や可視化ツール(paraView)の使い方をマスターします。
15:50-17:50	実習3:インクジェット吐出シミュレーション	コニカミノルタ(株) 加川 哲哉	実習2の課題をインクジェット解析に適用する方法を学びます。
17:50-18:00	クロージング	コニカミノルタ(株) 加川 哲哉	

2 日目 7 月 1 日 (火) <電子写真コース 1>

時間	題目	講師	内容
9:20 開場 9:40 までに入場をお願いいたします(予定)			
9:45-11:15	電子写真プロセス基礎技術入門	コニカミノルタ(株) 森田 さや香	電子写真の画像形成プロセス概要と、各プロセスの基礎技術と代表的な構成について説明する入門的な内容です。
11:30-12:30	電子写真用現像剤の基礎	京セラドキュメントソリューションズ(株) 大喜多 正希	電子写真現像剤、トナーに関して基本機能をベースに基礎から解説します。
12:30-13:30	情報交換会		会場参加者(希望者)と、講師・実行委員が電子写真についての特別セッションを開催します。(昼食付)
13:30-14:30	OPC感光体の基礎	山梨電子工業(株) 島田 知幸	電子写真方式における OPC 感光体の役割、構成、各種 OPC 材料、諸特性に関して概説したあと、現在の技術動向について紹介します。
14:45-15:45	電子写真における定着プロセスの基礎技術	コニカミノルタ(株) 佐々木 拓哉	電子写真における定着プロセスの基礎技術を説明する入門的な内容です。
16:00-17:00	紙搬送におけるレジストレーションの基礎	キヤノン株式会社 廣田 賢一	電子写真プリンターの紙搬送におけるレジストレーション技術を紹介します。

3日目 7月2日(水) <電子写真コース2>

時間	題目	講師	内容
9:05開場 9:25までに入場をお願いいたします(予定)			
9:30-10:30	トナー用外添剤の進化:基礎から見る技術の変遷	エポニック ジャパン(株) 内藤 直弘	トナー用外添剤には、電子写真技術の進化に伴い、求められる特性が増えてきた歴史があります。外添剤の基本的な特性を中心に、その技術の変遷を新しい技術と共に紹介します。
10:45-12:15	高分子概論	千葉大学 小林 範久	低分子化合物やセラミクスとは異なる高分子とは何なのか、どうやって作り、どのような特性を示すのか、さらにはどのように評価するのかなど、画像学会においても多く使われる高分子の基礎を理解することを第一の目標とします。
13:15-14:15	電子写真における画像処理技術	技術委員会 画像処理技術部会 主査 松木 眞	教科書「画像処理の基礎」をベースに電子写真複写機への画像処理技術の適用を解説し、視覚特性を考慮した処理についても紹介します。
14:30-16:00	加飾技術の基礎	秋元技術士事務所 秋元 英郎	プラスチックの加飾技術に関して技術的背景、技術の分類、開発動向について具体的な例を示して解説します。
16:15-17:15	機能性材料開発のための Materials Informatics	富士フイルムビジネス イノベーション(株) 世古 丈裕	機能性材料開発のための分子シミュレーション手法、AI/機械学習技術を使ったアプローチであるMaterials Informaticsについて、基礎から最新動向まで解説します。

4日目 7月3日(木) <インクジェットコース1>

時間	題目	講師	内容
9:05開場 9:25までに入場をお願いいたします(予定)			
9:30-11:00	インクジェット技術概論:各種方式,今後の課題と対応	慶應義塾大学SFC 研究所/inkcube.org 藤井 雅彦	各種インクジェット方式の分類と特徴を説明し、その特徴を活かした応用を紹介します。またインクジェット技術の現状と課題、課題に対する今後の取り組み、さらにはインクジェット技術の進化形態や方向性を説明します。
11:10-12:10	インクジェットシステム技術	ブラザー工業(株) 関口 恭裕	インクジェットプリンターの構成要素について、印刷を行う際に検討が必要な課題と対応する技術などを交えて説明します。
12:55-13:55	インクジェットヘッド技術	セイコーエプソン(株) 木村 里至	インクジェットプリントヘッド技術の基礎(ピエゾ、サーマル、他)とその実例、及びトピックスについて紹介します。
14:05-15:05	インクジェットプリンターの画像形成技術	(株)リコー 平野 政徳	日本画像学会発行「インクジェット」の内容に沿って、画像形成フローの各段階について、専門外の方でも理解できるよう解説を行います。
15:15-16:15	インクジェットインク技術	ATI-C コンサルティング 朝武 敦	インクはインクジェット技術において、記録物の機能をつかさどる重要なパーツです。本講座ではインクジェット記録に用いられる種々のインクについて、材料と画像形成プロセスの観点から技術の特徴を説明します。
16:25-17:05	インクジェットメディアの基礎技術	三菱製紙(株) 名越 応昇	インクジェットメディアの基礎的な技術について解説するとともに、最近のトピックス等も紹介します。
17:10-17:45	インクジェット全体Q&A	全講師	6つの基礎講座の講師全員が会場に集まり、インクジェット技術に関する質問に答えます。基礎講座を通じた疑問だけでなく、基礎講座で取り上げた領域以外の質問でも構いません。技術講習会申し込み時に、質問を記載することもできます。
18:00-20:00	情報交換会		会場参加者(希望者)と、講師・実行委員がインクジェットについての情報交換会を開催します。(軽食付き)

5日目 7月4日(金) <インクジェットコース2>

時間	題目	講師	内容
9:05開場 9:25までに入場をお願いいたします(予定)			
9:30-10:30	紫外線(UV)硬化型インク概論	ATI-C コンサルティング 朝武 敦	近年、サイネージから商業印刷、工業印刷等さまざまな用途に紫外線硬化型インク(UVインク)が活用されています。本講演ではUVインクの原理、特徴、応用範囲について解説します。また最新のトピックスについても紹介します。
10:45-12:15	インクジェットインクによる機能性材料の吐出性と画像記録	山形大学 高橋 茂樹	インクジェットインクは、着色剤(分散剤)、溶剤、界面活性剤と定着剤から構成されています。この組成物を取っ替え引っ替えて新しい材料(機能性材料)をインク化し提案(応用)しています。初めての方にも、分かりやすい内容となっています。
13:15-14:15	商業印刷向けインクジェット印刷機の課題と現状	富士フイルムビジネスイノベーション(株) 瀬戸 信二	商業印刷市場のデジタル化を牽引するインクジェット印刷機、その中で発生する課題や対応技術についてについて紹介します。
14:30-15:30	サーマルプリントヘッドの基礎と展開	京セラ株式会社 渡邊 和宏	サーマルプリントヘッド、及び記録技術の基礎から、その展開について紹介します。
15:45-17:15	画像技術 マーケット動向	山崎国際 コンサルティング 山崎 弘	電子写真やインクジェットなどの画像技術関連のマーケット動向についてコロナ問題の影響や地域性も含め解説します。さらに、近年いろいろと話題になっている、各種環境規制関係の動きと中国国家標準についても解説します。

② チュートリアル 2025

「良い商品・サービスとは何か? その価値を生み出す・届ける・活かす」のサブタイトルで、若手・中堅技術者の日頃の悩みや今後の糧となるような、新しい切り口の講演内容でチュートリアルを開催した。

■日時：12月3日(水) 10:00-16:30

■形式：会場(ユニコムプラザさがみはら)参加のみ

■講師：藤井雅彦(慶應義塾大学 SFC 研究所/inkcube.org)、山崎 弘(山崎国際コンサルティング)

■プログラム

チュートリアル2025			時間(hr.)	
開始前	挨拶, 自己紹介, 注意事項等	木崎&All	10:00 ~ 10:15	0:15
第0章	はじめに	藤井	10:15 ~ 10:30	0:15
第1章(前半)	価値を生み出す	藤井	10:30 ~ 11:10	0:40
休憩			11:10 ~ 11:15	0:05
第1章(後半)	価値を生み出す	藤井	11:15 ~ 11:40	0:25
第1章(演習)	イノベーションポートフォリオ	藤井	11:40 ~ 12:00	0:20
昼休み	(演習自学習)		12:00 ~ 13:00	1:00
第1章(続き)	演習振り返り&価値を生み出す	藤井	13:00 ~ 13:20	0:20
第2章	知財・中国標準(山崎)	山崎	13:20 ~ 13:55	0:35
	価値を届ける(藤井)	藤井	13:55 ~ 14:55	1:00
休憩			14:55 ~ 15:05	0:10
第3章	価値を活かす(藤井1)	藤井	15:05 ~ 15:25	0:20
	環境規制(山崎)	山崎	15:25 ~ 15:50	0:25
	価値を活かす(藤井2)	藤井	15:50 ~ 16:15	0:25
Discussion		All	16:15 ~ 16:30	0:15

6:30

■参加者数と参加者コメント

- ・参加者数：13名（実行委員3名含む）。
- ・受講者コメント：イノベーションの体系的な分類やドミナントデザイン概念を学び、新規テーマ立案や技術整理に役立つ思考枠組みを習得することができた。「Core Componentの4象限」や「情報の非対称性」といった理論は、実業務における課題解決や戦略立案に非常に有効であると感じた。また、特許戦略や技術者視点での「良い商品」の定義が明文化されたことで、知財の重要性や技術者としての心構えを再確認できた。一方的に教わるだけでなく、自ら深く考える内容となっており、学んだ知見を実践に活かしたいという前向きな意欲が湧いた。

■次回に向けて

- ・受講者の満足度は非常に高く、同時に社外の技術者との対話や交流を求める声も多く寄せられた。時間を延長してでもグループワークやディスカッションの時間を増やしてほしいという強い要望が出されており、これらのフィードバックを次回のプログラム構成に反映させていきたい。

(23) 4DFF 研究会 (4D and Functional Fabrication 研究会)

藤井 雅彦 (慶應義塾大学 SFC 研究所/inkcube.org)

4DFF 研究会(<https://sig4dff.org/>)は8回目となるコンファレンス 4DFF2025(4D and Functional Fabrication 2024)を10月23日から10月24日まで、京都工芸繊維大学 60周年記念館(京都市左京区)とオンライン(Zoom)のHybrid形式で開催した。

今年も21機関から過去最高となる55件の発表申込があり(口頭発表:33件、デモ/ポスター:22件)、海外からの発表2件を含み英語での発表が11件あり、国際色豊かなコンファレンスとなった。参加申し込みは昨年とほぼ同じ168名であり(実行委員、招待者含む)、現地参加希望は88%であった。



口頭発表(メイン会場)



オーサーズインタビュー

前日(10/22)に大型3Dプリンターのエス・ラボ株式会社見学会(参加者13名)とKYOTO Design Lab見学会(参加者26名)を実施した。また初日の夕方に開催した情報交換会(懇親会)には約80名が参加した。



デモ/ポスター会場(1)



デモ/ポスター会場(2)

全ての発表終了後、審査の結果以下の4件を表彰した。

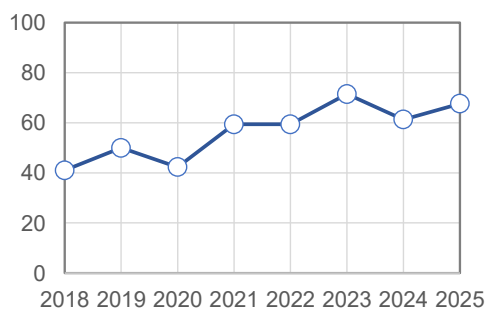
- 4DFF2025 Award : 禾 丈一郎 (東京大学) 「イシガキフグの棘および表皮の立体構造」
- 4DFF2025 優秀賞 : 植田 大樹 (早稲田大学) 「折り紙に基づくメカニカルメタマテリアルが示す剛性の方向依存性」
- 4DFF2025 大会実行委員長賞 : 永井 健太 (聖学院中学校・高等学校) 「3D プリンターの魅力を多くの人に知ってもらうには?」
- 4DFF2025 Best Demo/Poster : Simon Luposchinsky (Kyoto Institute of Technology) 「The MEWron: Open-source Melt Electrowriting」

基調講演は慶應義塾大学の田中浩也教授による「EXPO 2025 大阪・関西万博における3D/4D活用の現状と今後の展望」、招待講演は新工芸舎の三田地 博史氏による「新工芸について」であり、講演タイミング、内容ともに4DFF2025の開催時期、開催場所に相応しい内容であった。特別講演として市原国際特許事務所の市原政喜氏による「デザイン制作のリスクと保護」を行った。コンファレンスの開催概要や表彰者は4DFF2025の公式サイト(<https://sig4dff.org/conference/2025/>)でご覧いただけます。

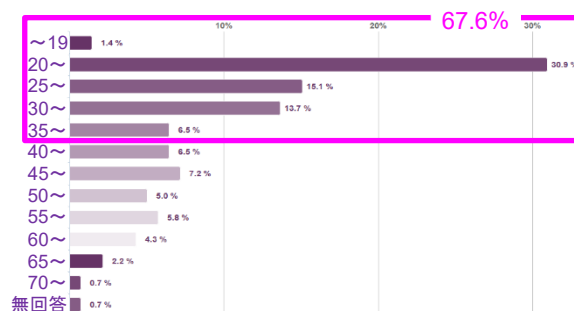
大会実行委員長賞を受賞したのは高校生であり、参加者、発表者の範囲が今年はさらに広がったと感じている。

コンファレンスと並ぶ4DFF研究会の活動の柱である論文誌(電子ジャーナル)の第2025年号を8月に発行した(<https://sig4dff.org/j4dff/>)。2026年号の論文募集も開始しており、多くの方の投稿をお待ちしています。投稿締め切りは2025年2月28日です。なお、4DFF2025発表から、学会誌240号(2026年8月号)においてImaging Todayとしての特集が組まれる予定である。

割合 (%)



4DFF 参加者に占める 40 歳未満の割合



4DFF2025 参加者の年齢構成

4DFF2026は2026年10月下旬に開催予定であり、現在開催場所(関東圏とそれ以外)を検討中である。

2026年度学会暦

2026年2月13日

2026年度																					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
土					1																
日					2				1												
月			1		3				2		1	1									
火			2		4	1		3	文化の日	1	2	2									
水	1		3	1	5	2		4	2		3	3									
木	2		4	2	6	3	1	5	4DFF2026	3	4	4									
金	3	1	5	3	7	4	2	6	4DFF2026	4	1	元旦	5	5							
土	4	2	6	4	8	5	3	7	5	2	6	6	6								
日	5	3	憲法記念の日	7	5	9	6	8	6	3	7	7	7								
月	6	4	みどりの日	8	6	技術講習会	10	282号発送	7	5	9	7	4	8	8						
火	7	5	こどもの日	9	7	技術講習会	11	山の日	8	6	10	8	5	9	9						
水	8	6	憲法記念の日 振替	10	ICJ2026 281号発送	8	技術講習会	12		9	7	理事会	11	9	6	10	理事会 285号発送	10			
木	9	7		11	ICJ2026	9	技術講習会	13		10	8		12	10	284号発送	7	11	建国記念の日	11		
金	10	280号発送	8	12	ICJ2026	10	技術講習会	14		11	9		13	11	理事会	8	12		12	理事会・ 評議員会	
土	11	9	13	11	15	12	10	14	12	9	13	13	11	12		10	14	13	14	13	
日	12	10	14	12	16	13	11	15	13	10	14	14	11	13		10	15	14	15	14	
月	13	11	15	13	17	14	12	スポーツの日	16	11	14	15	12	14		11	成人の日	15	16	15	
火	14	12	16	14	18	15	13	283号発送	17	12	15	16	13	15		12	16	17	16	16	
水	15	13	理事会	17	15	19	16	14	18	13	16	17	14	16		13	17	18	17	17	
木	16	14	18	16	20	17	15	19	17	14	17	18	14	17		14	18	19	18	18	
金	17	15	19	17	理事会・研修会	21	18	20	18	15	18	19	14	18		15	19	20	19	19	
土	18	16	20	18	22	19	17	21	19	16	19	20	15	19		16	20	21	20	20	
日	19	17	21	19	23	20	18	22	20	17	20	21	16	20		17	21	22	21	21	春分の日
月	20	18	22	20	海の日	24	21	敬老の日	19	18	21	22	17	21		18	22	23	22	22	春分の日振替
火	21	19	23	21	25	22	20	国民の休日	20	19	22	23	18	22		19	23	24	23	23	天皇誕生日
水	22	20	24	22	26	23	21	秋分の日	21	20	23	24	19	23		20	24	25	24	24	
木	23	第5回 Imagin&NEXT	21	25	27	24	22	26	22	21	24	25	20	24		21	25	26	25	25	
金	24		22	26	28	25	23	27	23	22	25	26	21	25		22	26	27	26	26	
土	25		23	27	29	26	24	28	24	23	26	27	22	26		23	27	28	27	27	
日	26		24	28	30	27	25	29	25	24	27	28	23	27		24	28	29	28	28	
月	27		25	29	31	28	26	30	26	25	28	29	24	28		25				29	
火	28		26	30		29	27		27	26	29	30	25	29		26				30	
水	29	昭和の日	27			30	28			27	30	31	26	30		27				31	
木	30		28		30		29			28	31		27	31		28					
金			29		31		30			29			28			29					
土			30				31			30			29			30					
日			31							31			30			31					

“ Imaging Conference JAPAN 2025 ” Program

画像価値多様化への挑戦

— 来て・見て・語れ，つながりが拓く画像技術の未来 —

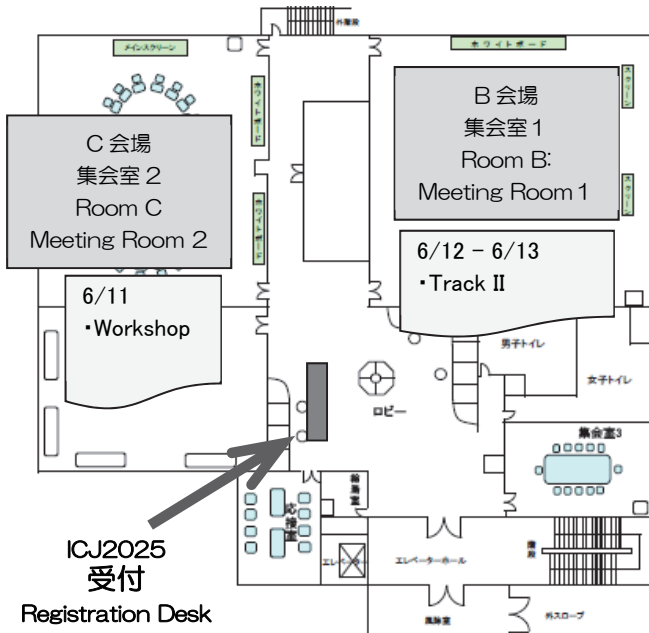
The Challenge of Diversifying Image Value

- Come, Watch, and Discuss, Nexus Pioneers the Future of Imaging Technology

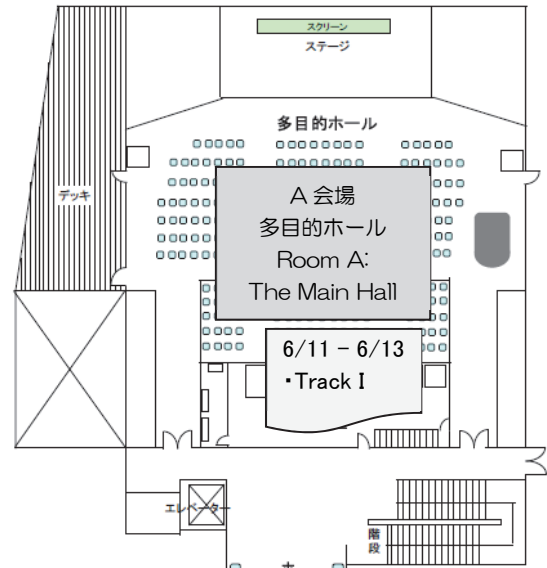
- ◆ 日時 2025 年 6 月 11 日 (水), 12 日 (木), 13 日 (金)
Date June 11 (Wed.), 12 (Thu.), 13 (Fri.), 2025
- ◆ 会場 東京科学大学 すずかけ台キャンパス すずかけホール/ハイブリッド開催
〒226-8503 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259
Place Suzukake Hall, Suzukakedai Campus, Institute of Science Tokyo
4259 Nagatsuta-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa / Hybrid Meeting
- ◆ 主催 一般社団法人 日本画像学会
Sponsored by *The Imaging Society of Japan*
- ◆ 協賛 一般社団法人 画像電子学会 一般社団法人 日本印刷学会
一般社団法人 日本写真学会 日本視覚学会
一般社団法人 日本機械学会 デジタルテキスタイル研究部会
一般社団法人 色材協会 一般社団法人 加飾技術研究会
- In cooperation with *The Institute of Image Electronics Engineers of Japan*
The Japanese Society for Printing Science and Technology
The Society of Photography and Imaging of Japan
Vision Society of Japan
The Japan Society of Mechanical Engineers
Digital Textiles Research Subcommittee
Japan Society of Colour Material
The Association of Decoration Technologies
- ◆ 問い合わせ先 日本画像学会事務局
〒164-8678 東京都中野区本町 2 - 9 - 5 東京工芸大学内
Reference The Imaging Society of Japan Bureau
c/o Tokyo Polytechnic University
2-9-5 Honcho, Nakano-ku, Tokyo 164-8678, Japan
TEL 03-3373-9576 FAX 03-3372-4414
URL <https://www.imaging-society-japan.org/isj.html>

Imaging Conference JAPAN 2025 Event Map

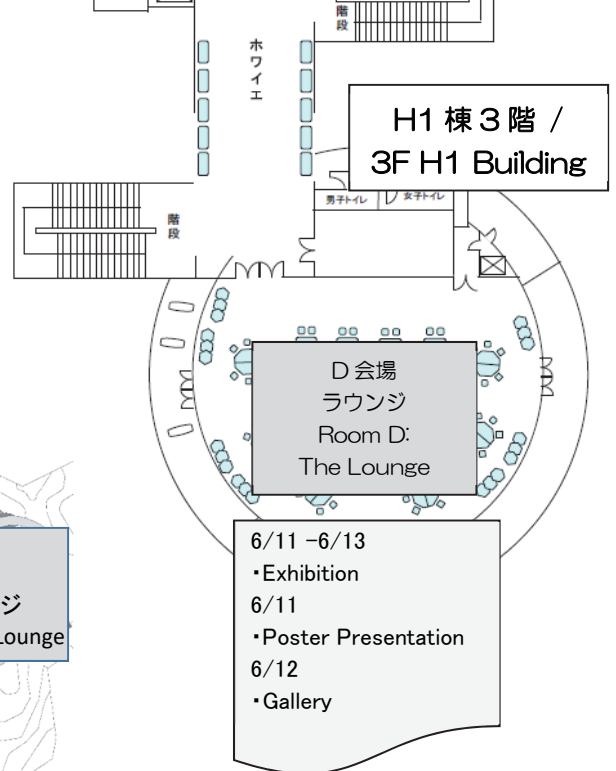
すずかけホール / Suzukake Hall
H2 棟 2階 / 2F H2 Building



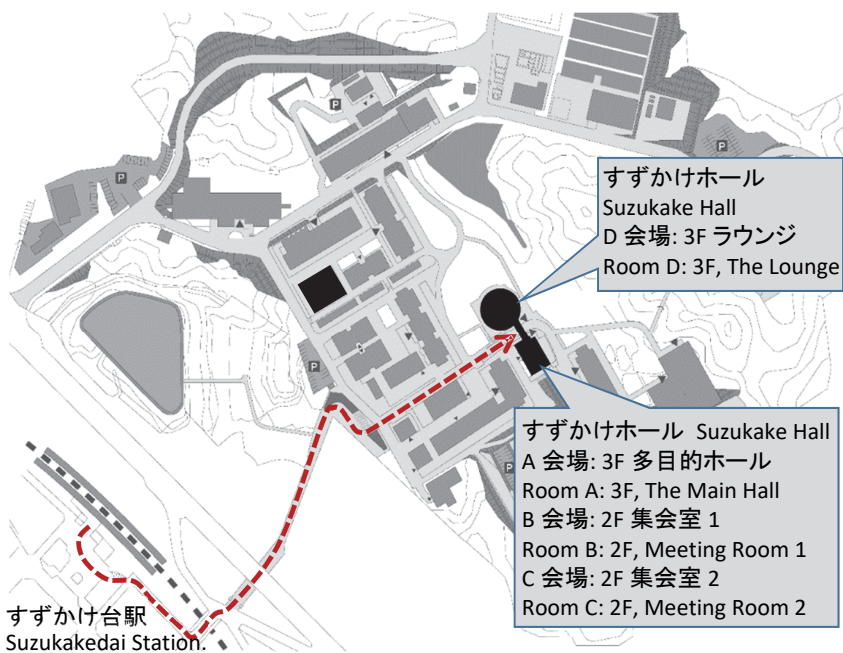
すずかけホール / Suzukake Hall
H2 棟 3階 / 3F H2 Building



H1 棟 3階 /
3F H1 Building



すずかけ台キャンパス/
Suzukakedai Campus



Imaging Conference JAPAN 2025 Timetable

	第1日 6月11日 (水)				第2日 6月12日 (木)			第3日 6月13日 (金)		
	Track I ホール	Track II 集会室1	WS 集会室2	ラウンジ	Track I ホール	Track II 集会室1	ラウンジ	Track I ホール	Track II 集会室1	ラウンジ
9:00										
10:00	開会 Keynote Speech				デジタル テキスタイル (1) オーサーズ インタビュー	デジタルプリン ティング・ 電子写真(1) オーサーズ インタビュー		インクジェット ヘッドとインク 滴吐出プロセス (1) オーサーズ インタビュー	電子 ペーパー・ フレキシブル (1) オーサーズ インタビュー	
11:00	インタラクティブセッ ション ショートプレ ゼンテーション 2025年度 日本画像学 会定時総会				デジタル テキスタイル (2) オーサーズ インタビュー	デジタルプリン ティング・ 電子写真(2) オーサーズ インタビュー		インクジェット ヘッドとインク 滴吐出プロセス (2) オーサーズ インタビュー	電子 ペーパー・ フレキシブル (2) オーサーズ インタビュー	
12:00								インクジェット ヘッドとインク 滴吐出プロセス (3) オーサーズ インタビュー	電子 ペーパー・ フレキシブル (3) オーサーズ インタビュー	
13:00	2.5D/3D プリンティング (1) オーサーズ インタビュー				論文賞記念 講演			コニカミルタ 研究奨励賞 記念講演		
14:00	2.5D/3D プリンティング (2) オーサーズ インタビュー				Imaging Today 特別 セッション オーサーズ インタビュー			画像・ イメージング オーサーズ インタビュー	フレキシブル 体のハンドリ ングと高機能 化技術 オーサーズ インタビュー	
15:00	2.5D/3D プリンティング (3) オーサーズ インタビュー				電子写真 プロダクション (1) オーサーズ インタビュー			インクジェット インク (1) オーサーズ インタビュー	プリンタブル・ウェ アラブルデバイ スの基盤技術と 応用 (1) オーサーズ インタビュー	
16:00	MBD オーサーズ インタビュー				画像技術 による出力物 ギャラリー オーサーズ インタビュー	電子写真 プロダクション (2) オーサーズ インタビュー		インクジェット インク (2) オーサーズ インタビュー	プリンタブル・ウェ アラブルデバイ スの基盤 技術と応用 (2) オーサーズ インタビュー	
17:00					インクジェット システム オーサーズ インタビュー					
18:00	懇親会 (H1棟2階 Kitchen MOTOTECH ～19:30)				インクジェット拡大交流会 (H1棟2階 Kitchen MOTOTECH ～19:50)					
19:00										

・下線付きのセッションはオーガナイ
ズドセッション
・対面とZoomのハイブリッド形式

Imaging Conference JAPAN 2025 Timetable

	Day1 June 11 (Wed.)				Day2 June 12 (Thu.)			Day3 June 13 (Fri.)		
	Track I Hall	Track II Room1	WS Room2	Lou nge	Track I Hall	Track II Room1	Lou nge	Track I Hall	Track II Room1	Lou nge
9:00	Opening Remarks									
10:00	Keynote Speech				Digital Textile (1) Authors' Interview	Digital Printing/ Electrophotography (1) Authors' Interview		Inkjet Printhead and Ink Drop Ejecting Process (1) Authors' Interview	Electronic Paper/ Flexible (1) Authors' Interview	
11:00	Interactive Session: Short Presentation				Digital Textile (2) Authors' Interview	Digital Printing/ Electrophotography (2) Authors' Interview		Inkjet Printhead and Ink Drop Ejecting Process (2) Authors' Interview	Electronic Paper/ Flexible (2) Authors' Interview	
12:00	The 2025 General Meeting of the Imaging Society of Japan							Inkjet Printhead and Ink Drop Ejecting Process (3) Authors' Interview	Electronic Paper/ Flexible (3) Authors' Interview	
13:00	2.5D/3D Printing (1) Authors' Interview				Commemorati on Lecture of the Paper Award			Commemorati on Lecture of Konica Minolta Award		
14:00	2.5D/3D Printing (2) Authors' Interview				Imaging Today Special Session Authors' Interview			Imaging Authors' Interview	Handling and Highly Functional Technology for Flexible Media Authors' Interview	
15:00	2.5D/3D Printing (3) Authors' Interview				Gallery of imaging technology outputs Authors' Interview	Electropho tography Production (1) Authors' Interview		Inkjet Ink (1) Authors' Interview	Fundamental Technology and Application of Printable/ Wearable Devises (1) Authors' Interview	
16:00	MBD Authors' Interview				Inkjet System Authors' Interview	Electropho tography Production (2) Authors' Interview		Inkjet Ink (2) Authors' Interview	Fundamental Technology and Application of Printable/ Wearable Devises (2) Authors' Interview	
17:00										
18:00	Social Hour (H1 Building 2F Kitchen MOTOTECH ~19:30)				Inkjet Networking Event (H1 Building 2F Kitchen MOTOTECH ~19:50)					
19:00										

· Underlined sessions are organized ones.
· Conference will be held hybrid style.

特別企画 / Special Events

基調講演 / Keynote Speech

6/11 (水)

眼ではなく脳で視ている画像の世界

小寺イメージング研究室 小寺 宏暉

The World of Images Seen With Brain Rather Than Eyes

Hiroaki KOTERA (Kotera Imaging Laboratory)



人が外界を認識する最初のステップは、網膜像に対する光応答に始まる。網膜には、長、中、短の波長帯に感度を持つ LMS 錐体が配列されている。錐体信号は視床を経て視覚野に伝達され、ここで初めて色を認知する。人は眼ではなく、脳の視覚野で外界を視ているのである。錐体は網膜中心窩に高密度、周辺ほど粗く分布し、網膜像の中心は高解像度、周辺は低解像度の可変解像度で標本化され、第 1 次視覚野 V1 に写像される。V1 は、視野中心の関心領域は細かく、周辺は省略して視る空間情報処理を担っている。さらに人の視覚は、照明の色や明るさの不均一に惑わされずに対象を視る色恒常性や明暗恒常性を備えている。本稿では、色・空間・照明の 3 点に注目し、数学モデルを基に脳で視ている画像の世界を探ってみたので紹介する。

受賞記念講演 / Awarded Lecture

6/12 (木)

2023 年度論文賞受賞記念講演

Commemoration Lecture of the Paper Award 2023

カーボンナノチューブを用いたフレキシブル電極作製とフレキシブルデバイスへの応用

LG Japan Lab 株式会社 Yeji KIM

Fabrication and Applications Carbon Nanotube Conducting Film

Yeji KIM (LG Japan Lab Inc.)

6/13 (金)

2023 年度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞受賞記念講演

Commemoration Lecture of the Konica Minolta Science and Technology Foundation Research Grant 2023

ナノセルロースと電子材料の融合によるグリーン・ペーパーエレクトロニクスの創成

大阪大学 古賀 大尚

Green Paper Electronics Through the Fusion of Nanocellulose and Electronic Materials

Hiroataka KOGA (Osaka University)

特別企画 / Special Events

ワークショップ / Workshop

6/11 (水)

AI ツールの連携活用ハンズオン体験
～試行と共有を通して“応用レシピ”を描き出す～

日本画像学会 企画委員会

Experience of Using AI Tools

Plannning Committee (The Imaging Society of Japan)

ギャラリー / Gallery

6/13 (金)

画像技術による出力物ギャラリー

日本画像学会

インクジェット技術部会・デジタルテキスタイルワークグループ

Gallery of Imaging Technology Outputs:

Technical Committee on Inkjet Technology and

Digital Textile Workgroup (The Imaging Society of Japan)

オーガナイズドセッション / Organized Session

6/11 (水)

2.5D/3D プリンティング
2.5D/3D Printing

6/11 (水)

MBD
MBD

6/12 (木)

デジタルテキスタイル
Digital Textile

6/12 (木)

インクジェット：システム
Inkjet: System

6/13 (金)

インクジェット：ヘッドとインク滴吐出プロセス
Inkjet: Printhead and Ink Drop Ejecting Process

6/13 (金)

インクジェット：インク
Inkjet: Ink

6/13 (金)

電子ペーパー・フレキシブル
Electronic Paper / Flexible

Imaging Today 特別セッション Imaging Today Special Session

テーマ「最新のエネルギーハーベスティング技術・材料」

Theme: "State-of-the-Art Technologies and Materials for Energy Harvesting"

6/12 (木)

カーボンナノチューブをもちいた熱電発電および 光熱電イメージング

京都工芸繊維大学 野々口 斐之

Thermoelectric Power Generation and Photothermoelectric Imaging Using Carbon Nanotubes

Yoshiyuki NONOGUCHI (Kyoto Institute of Technology)



単層カーボンナノチューブ (CNT) は、狭いバンドギャップや優れたキャリア移動度を有することから、熱電変換材料としての高い潜在的 가능성이期待されている。さらに、近年の研究により、CNT がプラズモン共鳴による赤外応答を示すことが明らかとなった。このような物性の発現には、1)フェルミ準位を制御するための化学的ドーピング、2)構造と物性の相関を解明するための構造選別および成膜技術)などの課題が存在する。これらの課題に対処するためには、物性物理学や熱工学に加え、材料調製のための化学プロセスの基盤が求められる。本講演では、単層 CNT を用いた熱電および光熱電材料の開発に関する我々の研究について紹介する。

湿度変動電池の開発と応用

産業技術総合研究所 駒崎 友亮

Development and Application of Hygroelectric Cell

Yusuke KOMAZAKI

(National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)



我々は、IoT の電源問題を解決する新たな環境発電技術として、環境の湿度変化を利用して発電を行う湿度変動電池の研究開発を行っている。環境の湿度は昼夜の温度変化に伴って変化し、太陽電池が使えない暗所などでも利用が可能である。このため、これまで環境発電が困難だった様々な場所での活用が期待される。本講演では、湿度変動電池の発電原理、研究開発の状況、応用などについて解説する。

極性有機分子の自発配向分極現象を利用した エレクトレット型振動発電素子

群馬大学 田中 有弥

Electret-Based Vibrational Energy Harvesters Using Spontaneous Orientation Polarization of Organic Polar Molecules

Yuya TANAKA (Gunma University)



低消費電力の電子機器を駆動するための電源としてエレクトレット型の振動発電素子 (E-VEH) が注目を集めているが、その作製には荷電処理が必要であり、量産性は高くはない。そこでは我々は自発的に配向する極性有機分子をエレクトレットとして利用し、荷電処理が一切不要な E-VEH を実現した。講演ではその原理について議論するとともに、新しいデバイス構造についても紹介したい。

日本機械学会 情報・知能・精密機器部門連携企画
Joint Event with Information, Intelligence and
Precision Equipment Division of the Japan Society of
Mechanical Engineers

テーマ「電子ペーパー・フレキシブル体のハンドリング
と高機能化技術」
Theme: “Handling and Highly Functional Technology for
Flexible Media”

6/13 (金)

ゴムローラの劣化／異常状態の検知技術

株式会社東芝 小林 祐子

**Detection Technology for Degradation and Abnormal
Conditions of Rubber Rollers**

Yuko KOBAYASHI (Toshiba Corporation)

積層された紙葉類の取出・分離において、ゴムローラの摩擦力を利用した各種機構がある。分離条件の要となるゴムローラの摩擦力は、ローラ表面の劣化、紙粉やほこりなどの付着などにより低下し、搬送速度の低下や分離異常などが生じる。MFP の用紙取出機構に用いられる駆動ローラとトルクリミッタ付き従動ローラは、通紙枚数を参考に保守を行ってきたが、ゴムローラは使用条件や環境の影響が大きい。本発表は、状態検知保全を目指し、ゴムローラの劣化程度や異常を早期に検知する技術に関する。具体的には用紙検知センサの配置により、所定区間の用紙搬送時間ばらつきを抑え、ゴムローラの劣化程度や異常の予兆に役立つ技術について紹介する。

ベルトの横方向運動に関する研究

山陽小野田市立山口東京理科大学 吉田 和司

Study on the Lateral Motion of Belts

Kazushi YOSHIDA (Sanyo-Onoda City University)

昨年度は、ベルトの横方向運動メカニズムの解明へ向けた取り組みを紹介したが、今回は、ベルトの幅とトラッキング率との関係の定式化、および、ベルトの横ずれ防止に使用されるクラウンローラやテーパローラの効果について、その発生メカニズムとともに紹介する。

テーマ「プリンタブル・ウェアラブルデバイスの
基盤技術と応用」

Theme: “Fundamental Technology and Application of
Printable/ Wearable Devices”

6/13 (金)

日本機械学会 情報・知能・精密機器部門年次大会 IIP2025 からの
講演 5 件

第1日目：6月11日（水） / Day 1 : June 11 (Wed.)

Track I 9:30~17:10

A会場（H2棟3階多目的ホール）
Room A (Main Hall, 3F, H2 Building)

9:30 - 9:40

開会挨拶 / Opening Remarks

ICJ2025 実行委員長 飯野 裕明 (東京科学大学)

General Chair, Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)

9:40 - 10:30

Keynote Speech

座長：藤井 雅彦 (慶應義塾大学 SFC 研究所), 中井 洋志 (エトリア)

Session Chairs: Masahiko FUJII (Keio University Institute at SFC),

Hiroshi NAKAI (ETRIA Co., Ltd.)

KN-01 眼ではなく脳で視ている画像の世界.....

The World of Images Seen With Brain Rather Than Eyes

小寺 宏暉

Hiroaki KOTERA

(小寺イメージング研究室)

(Kotera Imaging Laboratory)

10:30 - 10:35 Break

10:35 - 11:05

インタラクティブセッション ショートプレゼンテーション Interactive Session: Short Presentation

座長：峯岸 なつ子 (コニカミノルタ)

Session Chairs: Natsuko MINEGISHI (KONICA MINOLTA, INC.)

IN-01 金属酸化物による有彩色での不可視デジタル情報への応用.....

Application of Invisible Information Using Chromatic Colors With Metal Oxide

大須賀 博雅¹, 前田 秀一²

(¹富士薬品工業株式会社, ²東海大学)

Hiromasa OHSUKA¹, Shuichi MAEDA²

(¹Fuji Chemicals industrial co., Ltd., ²Tokai University)

IN-02 連続式インクジェットプリンターの液滴生過程におけるノズル流量の周期的変動の影響.....

Influence of Periodic Flow Rate Modulation and Nozzle Geometry on Droplet Formation

in Continuous Inkjet Printing

栗田 雅章^{1,2}, 田川 義之²

(¹紀州技研工業株式会社, ²東京農工大学)

Masaaki KURITA^{1,2}, Yoshiyuki TAGAWA²

(¹Kishu Giken Kogyo Co., Ltd., ²Tokyo University of Agriculture and Technology)

- IN-03** 溶液プロセスで作製した Ph-BTBT-10 極薄膜の結晶性と有機トランジスタ特性評価 ……………
 Crystallinity and Organic Transistor Characteristics of Ph-BTBT-10 Ultra-Thin Films Fabricated by
 Solution Process
 山田 はるか¹, 鈴木 一世¹, Yves Geerts², Michele Sferrazza², 飯野 裕明¹
 (1東京科学大学, 2ブリュッセル自由大学)
 Haruka YAMADA¹, Issei SUZUKI¹, Yves GEERTS², Michele SFERRAZZA², Hiroaki IINO¹
 (1Institute of Science Tokyo, 2Université Libre de Bruxelles)
- IN-04** Study on Vinyl Cinnamate Polymer for Dielectric Gate Insulator of Ph-BTBT-10 Transistor ……
 Haocen GUO, Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)
- IN-05** ペロブスカイト含有水系インクの開発……………
 Development of Water-Based Inks Containing Perovskite Nanocrystals
 影山 凱紀¹, 菊地 守也¹, 榎本 航之², 高橋 茂樹¹, 川口 正剛¹ (1山形大学, 2理化学研究所)
 Yoshiki KAGEYAMA¹, Moriya KIKUCHI¹, Kazushi ENOMOTO², Shigeki TAKAHASHI¹,
 Seigou KAWAGUCHI¹ (1Yamagata University, 2RIKEN)
- IN-06** 高機能有機-TiO₂ ハイブリッド白色インクの開発 ……………
 Development of High-Performance Organic-TiO₂ Hybrid White Inks
 阿部 翔瑠, 中村 智幸, Md Kamrul Hasan, 菊地 守也, 高橋 茂樹, 川口 正剛 (山形大学)
 Kakeru ABE, Tomoyuki NAKAMURA, Md Kamrul HASAN, Moriya KIKUCHI, Shigeki TAKAHASHI,
 Seigou KAWAGUCHI (Yamagata University)
- IN-07** 液晶性ジケトピロロピロール誘導体を用いた有機フォトダイオードの安定性の評価……………
 Stability of Organic Photodiodes Using Liquid Crystalline Diketopyrrolopyrrole Derivative
 東 一輝, 佐藤 健太, 飯野 裕明 (東京科学大学)
 Kazuki HIGASHI, Kenta SATO, Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)
- IN-08** 液晶性ターチオフェン誘導体での不純物電界掃きよせによるダイオード特性の発現……………
 Diode Characteristic of Liquid Crystalline Terthiophene Derivative by Electric Field Sweeping of
 Dopant Molecules
 小野 智史, 中野 博貴, 飯野 裕明 (東京科学大学)
 Satoshi ONO, Hiroki NAKANO, Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)

11:05 - 11:10 Break

11:10 - 12:00

2025 年度日本画像学会総会

The 2025 General Meeting of the Imaging Society of Japan

12:00 - 13:00 Lunch Break

13:00 - 13:40

オーガナイズドセッション

2.5D/3D プリンティング (1)
2.5D/3D Printing (1)

座長: 山口 大地 (リコー), 八角 邦夫 (元ミマキエンジニアリング)

Session Chairs: Daichi YAMAGUCHI (Ricoh Company, Ltd.),

Kunio HAKKAKU (former MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.)

TD-01 デジタル印刷による立体画線構造を有する潜像模様 (招待講演)

Latent Image Pattern With Three-Dimensional Line Structure by Digital Printing (Invited Speech)

高橋 寛行, 小篠 凌大, 木内 正人

(国立印刷局研究所)

Hiroyuki TAKAHASHI, Ryota KOSHINO, Masato KIUCHI (Research Institute, National Printing Bureau)

TD-02 3D 画像技術の新たな進展 –LED ビジョンほか– (招待講演)

New Developments in 3D Imaging Technology - LED Vision and Others - (Invited Speech)

桑山 哲郎

(3D フォーラム)

Tetsuro KUWAYAMA

(3Dforum)

13:40 - 14:00 Authors' Interview

14:00 - 15:00

オーガナイズドセッション

2.5D/3D プリンティング (2)
2.5D/3D Printing (2)

座長: 藤井 雅彦 (慶應義塾大学 SFC 研究所), 桑山 哲郎 (3D フォーラム)

Session Chairs: Masahiko FUJII (Keio University Institute at SFC),

Tetsuro KUWAYAMA (3Dforum)

TD-03 加飾用熱転写プリンター(MDD12)の開発について

Decorative Printing by On-Demand Thermal Transfer Printer With Printing Width of 12 Inches Using 1200 Dpi Thermal Head

鈴木 由宗, 鈴木 健太, 石澤 浩平, 千葉 秀典, 渡辺 将仁, 寺尾 博年

(アルプスアルパイン株式会社)

Yoshimune SUZUKI, Kenta SUZUKI, Kohei ISHIZAWA, Hidenori CHIBA, Masahito WATANABE,

Hiroto TERAO

(ALPS ALPINE CO., LTD.)

TD-04 アルミニウム粉末を用いたバインダージェット方式における高機能冷却部品の造形と熱特性の評価

Fabrication and Thermal Property Evaluation of High-Performance Cooling Components Using Binder Jetting Technology With Aluminum Powder

磯 孝斉, 辻 真人, 佐藤 慎一郎, 瀧本 晃司, 大谷 直生, 早川 翔太, 佐藤 智子

(株式会社リコー)

Kosei ISO, Masato TSUJI, Shinichiro SATO, Koji TAKIMOTO, Naoki OYA, Shota HAYAKAWA,

Tomoko SATO

(Ricoh Company, Ltd.)

TD-05 セラミックス造粒粉を用いたバインダージェット方式における造形中の空孔形成挙動の観察

Observation of Pore Formation in Binder Jetting With Granulated Ceramics Particles

小西 鷹介, 嶋田 紀一, 關根 暢秀, 佐倉 青蔵, 井上 裕貴依, 宮川 聡志

(株式会社リコー)

Yohsuke KONISHI, Kiichi KAMODA, Nobushide SEKINE, Shozo SAKURA, Yukie INOUE,

Satoshi MIYAGAWA

(Ricoh Company, Ltd.)

15:00 - 15:20 Authors' Interview

15:20 - 16:00

オーガナイズドセッション

2.5D/3D プリンティング (3)
2.5D/3D Printing (3)

座長: 山口 大地 (リコー), 八角 邦夫 (元ミマキエンジニアリング)

Session Chairs: Daichi YAMAGUCHI (Ricoh Company, Ltd.),

Kunio HAKKAKU (former MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.)

TD-06 港区立産業振興センター ビジネスサポートファクトリーにおけるフルカラー3D プリンタ等によるものづくり
支援活動 (招待講演)

Minato City Industry Promotion Center Business Support Factory, Manufacturing Support Activities
Using Full-Color 3D Printers and Other Equipment (Invited Speech)

西岡 篤史

(港区立産業振興センター)

Atsushi NISHIOKA

(Minato City Industry Promotion Center)

TD-07 東京大学における教育・研究への付加造形普及の取り組み (招待講演)

Approaches to the Use of Additive Manufacturing in Education and Research at the University of
Tokyo (Invited Speech)

矢口 雄大

(東京大学)

Yuta YAGUCHI

(The University of Tokyo)

16:00 - 16:20 Authors' Interview

16:20 - 16:50

オーガナイズドセッション

MBD
MBD

座長: 原田 祥宏 (リコー), 世古 丈裕 (富士フイルムビジネスイノベーション)

Session Chairs: Yoshihiro HARADA (Ricoh Company, Ltd.),

Tomohiro SEKO (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

MB-01 MBD による価値創造と工学教育 (招待講演)

Value Creation Through MBD and Engineering Education (Invited Speech)

福江 高志

(金沢工業大学)

Takashi FUKUE

(Kanazawa Institute of Technology)

16:50 - 17:10 Authors' Interview

Workshop 15:10～17:10

C 会場 (H2 棟 2 階 集会室 2)

Room C (Meeting Room 2, 2F, H2 Building)

15:10 - 17:10

特別企画 ワークショップ
Special Event: Workshop

AI ツールの連携活用ハンズオン体験 ～試行と共有を通して“応用レシピ”を描き出す～

Experience of Using AI Tools

企画委員会

Planning Committee

(日本画像学会)

(The Imaging Society of Japan)

Lounge 10:00～17:00

D 会場 (H1 棟 3 階 ラウンジ)

Room D (Lounge, 3F, H1 Building)

10:00 – 17:00

展示会

Products Exhibition

13:00 – 15:00

インタラクティブセッション・ポスター発表

Interactive Session: Poster Presentation

13:00 – 14:00: IN-01～IN-04 説明

14:00 – 15:00: IN-05～IN-08 説明

懇親会 17:30～19:30

H1 棟 2 階 Kitchen MOTOTECH

Kitchen MOTOTECH, 2F, H1 Building

17:30 - 19:30

懇親会

Social Hour

第2日目：6月12日（木） / Day 2 : June 12 (Thu.)

Track I 9:10～17:50

A会場（H2棟3階多目的ホール）
Room A (Main Hall, 3F, H2 Building)

9:10 - 10:10

オーガナイズドセッション

デジタルテキスタイル (1)
Digital Textile (1)

座長：清水 貴之 (エスアイアイ・プリンテック), 佐々木 恵太 (コニカミノルタ)

Session Chairs: Takayuki SHIMIZU (SII Printek Inc.),

Keita SASAKI (KONICA MINOLTA, INC.)

- DT-01** サステナブルな社会に向けたデジタルテキスタイルの可能性と課題 (招待講演)
Possibilities and Challenges of Digital Textiles for a Sustainable Society (Invited Speech)
藤井 雅彦 (慶應義塾大学 SFC 研究所)
Masahiko FUJII (Keio University Institute at SFC)
- DT-02** コニカミノルタのシングルパスプリンターNASSENGER SP-1e (招待講演)
Konica Minolta Single-Pass Printer NASSENGER SP-1e (Invited Speech)
坪谷 真吾 (コニカミノルタ株式会社)
Shingo TSUBOTANI (KONICA MINOLTA, INC.)
- DT-03** 熱転写へ応用するデジタルプリント DTF の最先端技術 (招待講演)
State-of-the-Art Technology of Digital Printing DTF Applied to Thermal Transfer (Invited Speech)
松澤 祐至 (株式会社松井色素化学工業所)
Yuji MATSUZAWA (MATSUI SHIKISO CHEMICAL CO., LTD.)

10:10 - 10:30 Authors' Interview

10:30 - 11:40

オーガナイズドセッション

デジタルテキスタイル (2)
Digital Textile (2)

座長: 星井 淳 (セイコーエプソン), 朝武 敦 (ATI-C コンサルティング)

Session Chairs: Jun HOSHII (Seiko Epson Corporation),
Atsushi TOMOTAKE (ATI-C Consulting)

DT-04 着物業界とデジタルテキスタイルの四半世紀 (招待講演)

A Quarter Century History of Digital Textiles in the Kimono Industry (Invited Speech)

森 真琴

(合同会社森林堂)

Makoto MORI

(SHINRINDO LLC.)

DT-05 テキスタイル用水性 UV インクとインクジェットブル前処理剤及び特殊インクジェットプリンター

(招待講演)

Water-Based UV Inks and Inkjettable Pretreatment Fluids for Textiles and Special Inkjet
Printers (Invited Speech)

土肥 克己

(東伸工業株式会社)

Katsumi DOHI

(TOSHIN KOGYO CO.,LTD)

DT-06 繊維の染色～染料の基礎からインクジェット捺染まで (招待講演)

Textile Dyeing (Invited Speech)

谷部 重光, 梅田 真理子

(日本化薬株式会社)

Shigemitsu YABE, Mariko UMEDA

(Nippon Kayaku Co., Ltd.)

11:40 - 12:00 Authors' Interview

12:00 - 13:00 Lunch Break

13:00 - 13:30

2023 年度論文賞受賞記念講演

Commemoration Lecture of the Paper Award 2023

座長: 宮本 栄一 (京セラドキュメントソリューションズ), 中村 一希 (千葉大学)

Session Chairs: Eiichi MIYAMOTO (KYOCERA Document Solutions Inc.),
Kazuki NAKAMURA (Chiba University)

PA-01 カーボンナノチューブを用いたフレキシブル電極作製とフレキシブルデバイスへの応用

Fabrication and Applications of Carbon Nanotube Conducting Film

キム イェジ

(LG Japan Lab 株式会社)

Yeji KIM

(LG Japan Lab Inc.)

13:30 - 13:40 Break

13:40 - 15:10

Imaging Today 特別セッション「最新のエネルギーハーベスティング技術・材料」
Imaging Today Special Session:
“State-of-the-Art Technologies and Materials for Energy Harvesting”

座長: 中村 一希 (千葉大学), 椿 頼尚 (シャープ)

Session Chairs: Kazuki NAKAMURA (Chiba University),

Yoritaka TSUBAKI (Sharp Corporation)

- IT-01** カーボンナノチューブをもちいた熱電発電および光熱電イメージング (招待講演) ……………
Thermoelectric Power Generation and Photothermoelectric Imaging Using Carbon
Nanotubes (Invited Speech)

野々口 斐之

(京都工芸繊維大学)

Yoshiyuki NONOGUCHI

(Kyoto Institute of Technology)

座長: 椿 頼尚 (シャープ), 宮本 栄一 (京セラドキュメントソリューションズ)

Session Chairs: Yoritaka TSUBAKI (Sharp Corporation),

Eiichi MIYAMOTO (KYOCERA Document Solutions Inc.)

- IT-02** 湿度変動電池の開発と応用 (招待講演) ……………
Development and Application of Hygroelectric Cell (Invited Speech)

駒崎 友亮

(産業技術総合研究所)

Yusuke KOMAZAKI

(National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

座長: 宮本 栄一 (京セラドキュメントソリューションズ), 中村 一希 (千葉大学)

Session Chairs: Eiichi MIYAMOTO (KYOCERA Document Solutions Inc.),

Kazuki NAKAMURA (Chiba University)

- IT-03** 極性有機分子の自発配向分極現象を利用したエレクトレット型振動発電素子 (招待講演) ……
Electret-Based Vibrational Energy Harvesters Using Spontaneous Orientation Polarization
of Organic Polar Molecules (Invited Speech)

田中 有弥

(群馬大学)

Yuya TANAKA

(Gunma University)

15:10 - 15:30 Authors' Interview

15:30 – 16:30

ギャラリー

Garellly

座長: 名越 応昇 (三菱製紙), 吉田 崇裕 (リコー)

Session Chairs: Masanori NAGOSHI (Mitsubishi Paper Mills Limited),

Takahiro YOSHIDA (Ricoh Company, Ltd.)

画像技術による出力物ギャラリー(ショートプレゼンテーション)

Gallery of Imaging Technology Outputs (Short Presentation)

インクジェット技術部会・デジタルテキスタイルワークグループ

(日本画像学会)

Technical Committee on Inkjet Technology and Digital Textile Workgroup (The Imaging Society of Japan)

16:30 - 17:30

オーガナイズドセッション

インクジェット:システム
Inkjet: System

座長: 江口 裕俊 (山形大学), 名越 応昇 (三菱製紙)
Session Chairs: Hirotochi EGUCHI (Yamagata University),
Masanori NAGOSHI (Mitsubishi Paper Mills Limited)

IJS-01 RICOH Pro Z75 に搭載の新乾燥システム……………

New Drying System Installed in RICOH Pro Z75

浅田 幸輝, 神原 一暁, 飛弾 竜作, 野沢 健二, 平山 忍, 秦 輝鮮 (株式会社リコー)
Koki ASADA, Kazuaki KAMIHARA, Ryusaku HIDA, Kenji NOZAWA, Shinobu HIRAYAMA, Kiyoshi HATA
(Ricoh Company, Ltd.)

IJS-02 3DCAD が生成する STL ファイルデータを用いて大型曲面形状塗布面へ曲面に沿って画像をインクジェット印刷する……………

Inkjet Printing of Images Along Curved Surfaces Onto Large Curved Shape Application Surfaces Using STL File Data Generated by 3DCAD

山崎 智博 (株式会社ワイ・ドライブ)
Tomohiro YAMAZAKI (Y-Drive CO., LTD.)

IJS-03 高精細インクジェット印刷装置 ELP04 開発とそれを用いたフレキシブル基板の量産……………

Development of High-Precision Inkjet Printing Device ELP04 and Its Application for Mass Production of Flexible Printed Circuits

石井 洋典 (エレファンテック株式会社)
Yosuke ISHII (Elephantech Inc.)

17:30 - 17:50 Authors' Interview

Track II 9:20~17:20

B 会場 (H2 棟 2 階 集会室 1)

Room B (Meeting Room 1, 2F, H2 Building)

9:20 - 10:20

デジタルプリンティング・電子写真 (1)
Digital Printing / Electrophotography (1)

座長: 安井 甲次 (キヤノン), 古田 達也 (コニカミノルタ)

Session Chairs: Koji YASUI (Canon Inc.),

Tasuya FURUTA (KONICA MINOLTA, INC.)

- DP-01** Laxerop 技術によるフルカラー＋特色印刷の革新とガラス印刷への応用
Innovation in Full-Color Plus Special Color Printing With Laxerop Technology and Its Application to Glass Printing
西村 克彦 (株式会社クロスマインズ)
Katsuhiko NISHIMURA (CrossMINDS Co., Ltd.)
- DP-02** 電子写真技術によるキャンバスとタイル印刷の革新とその実例
Innovations in Canvas and Tile Printing With Electrophotographic Technology; Case Studies and Applications
西村 克彦 (株式会社クロスマインズ)
Katsuhiko NISHIMURA (CrossMINDS Co., Ltd.)
- DP-03** Laxerop 技術による文化財襖絵のデジタル再現と屏風制作
Digital Reproduction and Folding Screen Creation of Cultural Property Fusuma Paintings Using Laxerop Technology
西村 克彦 (株式会社クロスマインズ)
Katsuhiko NISHIMURA (CrossMINDS Co., Ltd.)

10:20 - 10:40 Authors' Interview

10:40 - 11:40

デジタルプリンティング・電子写真 (2)
Digital Printing / Electrophotography (2)

座長: 大場 正太 (富士フイルムビジネスイノベーション), 村上 和歌子 (リコー)

Session Chairs: Shota OBA (FUJIFILM Business Innovation Corp.),

Wakako MURAKAMI (Ricoh Company, Ltd.)

- DP-04** デジタルフルカラー複合機 IM C320F の開発
Development of Color Laser Multifunction Printer IM C320F
吉田 晃, 成田 進, 池淵 豊, 山本 斉, 大平 達也 (エトリア株式会社)
Akira YOSHIDA, Susumu NARITA, Yutaka IKEBUCHI, Hitoshi YAMAMOTO, Tatsuya OHIRA
(ETRIA Co.,Ltd.)
- DP-05** DDTs 法による正帯電単層感光体の空間電荷生成過程の解析
Analysis of Space Charge Generation Process in Positive Charged Single Layer Photoreceptor by Depletion Discharge Transient Spectroscopy
宮本 栄一, 寺岡 克矩, 藤田 俊貴 (京セラドキュメントソリューションズ株式会社)
Eiichi MIYAMOTO, Katsunori TERAOKA, Toshiki FUJITA (KYOCERA Documentsolutions Inc.)

- DP-06** マルチフィジックス解析を活用した転写諸特性の予測モデル……………
Multiphysics Simulation Models for Prediction of Transfer Characteristics of Electrophotography
横山 優樹, 兪 一梅, 長尾 剛次, 高橋 良輔 (富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)
Yuki YOKOYAMA, Yimei YU, Takeshi NAGAO, Ryosuke TAKAHASHI
(FUJIFILM Business Innovation Corp.)

11:40 - 12:00 Authors' Interview

12:00 - 15:20 Lunch Break

15:20 - 16:00

電子写真プロダクション・プリンティング(1) Electrophotography Production Printing (1)

座長: 廣瀬 光章 (エトリア), 兪 一梅 (富士フイルムビジネスイノベーション)
Session Chairs: Mitsuaki HIROSE (ETRIA Co., Ltd.),
Yimei YU (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

- PR-01** 小型 LED プリントヘッドの高画質化技術 - Revoria Press EC2100S / SC285S -……………
High Image Quality Technology for Compact LED Print Head - Revoria Press EC2100S / SC285S -
粕谷 洋介, 遠藤 旭彦, 鶴田 真司, 小澤 秀明, 木内 豊 (富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)
Yosuke KASUYA, Akihiko ENDO, Shinji TSURUTA, Hideaki OZAWA, Yutaka KIUCHI
(FUJIFILM Business Innovation Corp.)

- PR-02** 高抵抗メディアの収容品質を改善する接触・非接触型のハイブリッド除電技術……………
Contact and Non-Contact Hybrid Static Elimination Technology to Improve Storage Quality of High
Resistance Media
湯浅 宏一郎, 木内 豊 (富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)
Koichiro YUASA, Yutaka KIUCHI (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

16:00 - 16:20 Authors' Interview

16:20 - 17:00

電子写真プロダクション・プリンティング(2) Electrophotography Production Printing (2)

座長: 横山 優樹 (富士フイルムビジネスイノベーション), 福島 直樹 (キヤノン)
Session Chairs: Yuki YOKOYAMA (FUJIFILM Business Innovation Corp.)
Naoki FUKUSHIMA (Canon Inc.)

- PR-03** シャトル式エアサクシオン給紙技術……………
Shuttle-Type Air Suction Paper Feeding Technology
長沼 輝樹, 木内 豊 (富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)
Teruki NAGANUMA, Yutaka KIUCHI (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

- PR-04** 中間転写ベルトの負荷変動を抑制するカラーレジストレーション制御技術……………
Color Registration Control Technology to Suppress Load Fluctuations in Intermediate Transfer Belt
楳内 滉, 木内 豊 (富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)
Koh UMENAI, Yutaka KIUCHI (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

17:00 - 17:20 Authors' Interview

Lounge 9:00～17:00

**D会場 (H1棟 3階 ラウンジ)
Room D (Lounge, 3F, H1 Building)**

9:00 – 17:00

展示会

Products Exhibition

14:00 – 17:00

**ギャラリー
Garelly**

画像技術による出力物ギャラリー(サンプル展示)

Gallery of Imaging Technology Outputs (Print Sample Exhibition)

インクジェット技術部会・デジタルテキスタイルワークグループ

(日本画像学会)

Technical Committee on Inkjet Technology and Digital Textile Workgroup (The Imaging Society of Japan)

懇親会 18:00～19:50

**H1棟 2階 Kitchen MOTOTECH
Kitchen MOTOTECH, 2F, H1 Building**

18:00 - 19:50

インクジェット拡大交流会(懇親会)

Inkjet Networking Event (Social Hour)

第3日目：6月13日（金） / Day 3 : June 13 (Fri.)

Track I 9:00～17:20

A会場（H2棟3階 多目的ホール）
Room A (Main Hall, 3F, H2 Building)

9:00 - 9:40

オーガナイズドセッション インクジェット：ヘッドとインク滴吐出プロセス (1)
Inkjet: Printhead and Ink Drop Ejecting Process (1)

座長：関口 恭裕 (ブラザー工業), 大石 直樹 (理想テクノロジーズ)

Session Chairs: Yasuhiro SEKIGUCHI (Brother Industries, Ltd.),

Naoki OHISHI (RISO Technologies Corporation)

IJP-01 状態方程式を組み込んだインク循環システムの等価回路解析手法

Equivalent Circuit Analysis Method for Ink Circulation System Incorporating Equation of State

吉田 崇裕, 青木 勇太

(株式会社リコー)

Takahiro YOSHIDA, Yuta AOKI

(Ricoh Company, Ltd.)

IJP-02 システム制約を考慮したインク循環供給系の周波数特性計測 (日本機械学会 情報・知能・精密機器部門連携講演)

Measurement of Frequency Characteristics of an Ink Circulation Supply System Considering System

Constraints (Joint Speech With Information, Intelligence and Precision Equipment Division of The Japan Society of Mechanical Engineers)

森 敦司

(株式会社リコー)

Atsushi MORI

(Ricoh Company, Ltd.)

9:40 - 10:00 Authors' Interview

10:00 - 10:40

オーガナイズドセッション インクジェット：ヘッドとインク滴吐出プロセス (2)
Inkjet: Printhead and Ink Drop Ejecting Process (2)

座長：平野 政徳 (リコー), 瀬戸 信二 (富士フイルムビジネスイノベーション)

Session Chairs: Masanori HIRANO (Ricoh Company, Ltd.),

Shinji SETO (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

IJP-03 インクジェット等価回路によるノズル内流速分布の推定

Estimation of Flow Velocity Distribution Inside Nozzles Using an Inkjet Equivalent Circuit

垣内 徹¹, 島津 宝浩¹, 酒井 真理²

(¹ブラザー工業株式会社, ²山形大学)

Toru KAKIUCHI¹, Michihiro SHIMADU¹, Shinri SAKAI²

(¹BROTHER INDUSTRIES, LTD., ²Yamagata University)

IJP-04 インクジェットノズルメニスカスの周波数特性

Frequency Characteristics of Inkjet Nozzle Meniscus

石川 博幸

(ブラザー工業株式会社)

Hiroyuki ISHIKAWA

(BROTHER INDUSTRIES, LTD.)

10:40 - 11:00 Authors' Interview

11:00 - 12:00

オーガナイズドセッション インクジェット:ヘッドとインク滴吐出プロセス (3)
Inkjet: Printhead and Ink Drop Ejecting Process (3)

座長: 加川 哲哉 (コニカミノルタ), 木村 里至 (セイコーエプソン)

Session Chairs: Tetsuya KAGAWA (KONICA MINOLTA, INC.),
Satoshi KIMURA (Seiko Epson Corporation)

IJP-05 インク滴の表面張力の時間変化が噴射状態へ及ぼす影響と振動挙動からの測定……………
Influence of Time Variation in Surface Tension of Ink Droplet on Jetting Condition and Measurement
From Oscillation Behavior

森田 直己, 西脇 学, 高橋 茂樹, 酒井 真理 (山形大学)
Naoki MORITA, Tsutomu NISHIWAKI, Shigeki TAKAHASHI, Shinri SAKAI (Yamagata University)

IJP-06 高粘度液体オンデマンド吐出機構の開発および評価……………
Development and Evaluation of On-Demand Printing Technology for High Viscous Liquids

小林 和也¹, 渡部 裕也², 太田 貴大³, 鳥居 慎士³, 栗田 雅章³, 田川 義之²
(¹日本工業大学, ²東京農工大学, ³紀州技研工業株式会社)
Kazuya KOBAYASHI¹, Hiroya WATANABE², Takahiro OHTA³, Shinji TORII³, Masaaki KURITA³,
Yoshiyuki TAGAWA²
(¹Nippon Institute of Technology, ²Tokyo University of Agriculture and Technology, ³Kishu Giken Kogyo Co., Ltd.)

IJP-07 流体シミュレーションを用いたノズルに付着した異物による吐出曲がりの流れの可視化……………
Visualization of Flow Deflection Induced by Foreign Substances Adhering Inside an Inkjet Nozzle
Using Fluid Simulation

万袋 麻希子 (コニカミノルタ株式会社)
Makiko MANDAI (KONICA MINOLTA, INC.)

12:00 - 12:20 Authors' Interview

12:20 - 13:00 Lunch Break

13:00 - 13:30

2023 年度日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞受賞記念講演
**Commemoration Lecture of the Konica Minolta Science and Technology
Foundation Research Grant 2023**

座長: 木崎 宏恵 (三菱ケミカル), 吉田 崇裕 (リコー)

Session Chairs: Hiroe KIZAKI (Mitsubishi Chemical Corporation),
Takahiro YOSHIDA (Ricoh Company, Ltd.)

KM-01 ナノセルロースと電子材料の融合によるグリーン・ペーパーエレクトロニクス創成……………
Green Paper Electronics Through the Fusion of Nanocellulose and Electronic Materials

古賀 大尚 (大阪大学)
Hiroataka KOGA (Osaka University)

13:30 - 13:40 Break

13:40 - 14:40

画像・イメージング
Imaging

座長：村井 宏亘 (リコーIT ソリューションズ), 峯岸 なつ子 (コニカミノルタ)

Session Chairs: Hironobu MURAI (Ricoh IT Solutions Co.,Ltd.)

Natsuko MINEGISHI (KONICA MINOLTA, INC.)

- IM-01** 可視電子透かしを用いた電子スタンプによる印刷文書画像の真正性と非改竄性の判定 ……………
Determining the Authenticity and Non-Tampering of Printed Document Using Electronic Stamps With Visible Digital Watermark
河村 尚登 (カワムラ・テクノラボ)
Naoto KAWAMURA (Kawamura Techno Lab.)
- IM-02** 白黒市松画像中に有彩色が見える現象の原因究明 ……………
Investigation of the Cause of the Phenomenon in Which Chromatic Colors Appear on Black and White Checkered Images
内田 浩章, 面谷 信 (東京電機大学)
Hiroaki UCHIDA, Makoto OMODANI (Tokyo Denki University)
- IM-03** ピクトグラム群のデザインに関する一考察 ……………
A Study on the Design of Pictogram Sets
矢口 博之 (東京電機大学)
Hiroyuki YAGUCHI (Tokyo Denki University)

14:40 - 15:00 Authors' Interview

15:00 - 16:00

オーガナイズドセッション

インクジェット: インク (1)
Inkjet: Ink (1)

座長: 奥田 貞直 (ミマキエンジニアリング), 宮戸 健志 (富士フイルムビジネスイノベーション)

Session Chairs: Sadanao OKUDA (MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.),
Takeshi MIYATO (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

- IJI-01** ピエゾ駆動型伸長レオメトリーにおける低粘弾性溶液の伸長特性におよぼす顔料の影響……………
Effect of Pigments on Extensional Properties in Low-Viscoelastic Solutions by Using Piezo-Driven
Extensional Rheometry

木下 万穂¹, 松田 健^{1,2}, 武藤 真和², 玉野 真司²

(¹株式会社 SCREEN ホールディングス, ²名古屋工業大学)

Maho KINOSHITA¹, Takeshi MATSUDA^{1,2}, Masakazu MUTO², Shinji TAMANO²

(¹SCREEN Holdings Co., Ltd., ²Nagoya Institute of Technology)

- IJI-02** 高分子顔料分散剤の化学構造が白色インクジェットインクの分散性及び吐出に与える影響……………
Effect of Molecular Architecture of Polymeric Pigment Dispersant on Dispersibility and Jetting
Behavior of White Inkjet Ink

山口 彩乃, 高橋 辰宏, 高橋 茂樹, 高村 真澄

(山形大学)

Ayano YAMAGUCHI, Tatsuhiko TAKAHASHI, Shigeki TAKAHASHI, Masumi TAKAMURA

(Yamagata University)

- IJI-03** 拡散方程式に基づく動的表面張力の推定……………
Estimation of Dynamic Surface Tension Based on the Diffusion Equation

田中 裕幸, 藤原 栄一, 垣内 徹

(ブラザー工業株式会社)

Hiroyuki TANAKA, Eiichi FUJIWARA, Toru KAKIUCHI

(BROTHER INDUSTRIES, LTD.)

16:00 - 16:20 Authors' Interview

16:20 - 17:00

オーガナイズドセッション

インクジェット: インク (2)
Inkjet: Ink (2)

座長: 朝武 敦 (ATI-C コンサルティング), 市原 茉莉 (サカタインクス)

Session Chairs: Atsushi TOMOTAKE (ATI-C Consulting),
Mari ICHIHARA (SAKATA INX CORPORATION)

- IJI-04** UV 硬化性水性インクジェットインクの開発……………
Development of Water-Based UV Inkjet Ink

荒木 健次郎

(富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)

Kenjiro ARAKI

(FUJIFILM Business Innovation Corp.)

- IJI-05** 透明導電酸化物を用いた不可視インクのインクジェット印刷応用……………
Inkjet Printing Application of Invisible Ink Made of Transparent Conductive Oxide

船渡 結香^{1,2}, 兵藤 哲², 高橋 茂樹³, 前田 秀一²

(¹コニカミノルタ株式会社, ²東海大学, ³山形大学)

Yuka FUNAWATARI^{1,2}, Tetsu HYODO², Shigeki TAKAHASHI³, Shuichi MAEDA²

(¹KONICA MINOLTA, INC., ²Tokai University, ³Yamagata University)

17:00 - 17:20 Authors' Interview

Track II 9:00~17:20

B会場 (H2棟 2階 集会室1)

Room B (Meeting Room 1, 2F, H2 Building)

9:00- 10:00

オーガナイズドセッション

電子ペーパー・フレキシブル (1)
Electronic Paper / Flexible (1)

座長: 吉田 学 (産業技術総合研究所), 山本 真也 (富士フイルムビジネスイノベーション)
Session Chairs: Manabu YOSHIDA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)
Shinya YAMAMOTO (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

EP-01 液晶物質の自己組織性を利用した高品質な有機半導体材料 (招待講演)
High Quality Organic Semiconductor Materials Utilizing Self-Organization of Liquid Crystals
(Invited Speech)

飯野 裕明

(東京科学大学)

Hiroaki IINO

(Institute of Science Tokyo)

EP-02 塗布型ナノ材料機能電極の情報デバイス応用 (招待講演)
Information Device Applications of Nanomaterial-Based Functional Electrodes Fabricated by Wet
Process (Invited Speech)

渡邊 雄一

(産業技術総合研究所)

Yuichi WATANABE

(National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

EP-03 発光性希土類化合物のエレクトロフルオロクロミズム (招待講演)
Electrofluorochromism on Luminescent Lanthanide Compounds (Invited Speech)

中村 一希

(千葉大学)

Kazuki NAKAMURA

(Chiba University)

10:00 - 10:20 Authors' Interview

10:20 - 11:00

オーガナイズドセッション

電子ペーパー・フレキシブル (2)
Electronic Paper / Flexible (2)

座長: 松本 真二 (リコー), 野添 耕二 (FPT コンサルティングジャパン)

Session Chairs: Shinji MATSUMOTO (Ricoh Company, Ltd.),
Koji NOZOE (FPT CONSULTING JAPAN CO., LTD.)

- EP-04** 液晶性を活用した高速ブレードコート製膜による有機半導体デバイスの作製
Organic Semiconductor Devices Fabricated by High-Speed Blade-Coating Using Liquid Crystallinity
鈴木 一世, 飯野 裕明 (東京科学大学)
Issei SUZUKI, Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)
- EP-05** ドーパント分子の電界はき寄せを利用した液晶性有機半導体における電荷注入特性向上機構の解明
Mechanism of Charge Carrier Injection Enhancement in Liquid Crystalline Organic Semiconductors
by Dopant Molecules Swept With Electric Field
中野 博貴, 飯野 裕明 (東京科学大学)
Hiroki NAKANO, Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)

11:00 - 11:20 Authors' Interview

11:20 - 12:00

オーガナイズドセッション

電子ペーパー・フレキシブル (3)
Electronic Paper / Flexible (3)

座長: 中村 一希 (千葉大学), 駒崎 友亮 (産業技術総合研究所)

Session Chairs: Kazuki NAKAMURA (Chiba University),
Yusuke KOMAZAKI (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

- EP-06** ルテニウム錯体による分散型電界発光素子の発光波長変換
Shift in Emission Wavelength of Powder Electroluminescent Devices Using a Ruthenium Complex
常安 翔太¹, 戸田 海翔², 安部 紳一郎², 上野 崇寿², 佐藤 利文¹
(¹東京工芸大学, ²大分工業高等専門学校)
Shota TSUNEYASU¹, Kaito TODA², Shinichiro ABE², Takahisa UENO², Toshifumi SATOH¹
(¹Tokyo Polytechnic University, ²National Institute of Technology, Oita College)
- EP-07** ビオロゲンを利用したエレクトロクロミズムを示す中空繊維の創製
Invention of Hollow Fibers With Electrochromism by Means of Viologen Dye
吉成 伸一, 前田 秀一 (東海大学)
Shin-ichi YOSHINARI, Shuichi MAEDA (Tokai University)

12:00 - 12:20 Authors' Interview

12:20 - 13:40 Lunch Break

13:40 - 17:20

日本機械学会 情報・知能・精密機器部門連携企画
Joint Event with Information, Intelligence and Precision Equipment Division of
the Japan Society of Mechanical Engineers

13:40 - 14:40

「フレキシブル体のハンドリングと高機能化技術」
“Handling and Highly Functional Technology for Flexible Media”

座長：前田 秀一 (東海大学), 門永 雅史 (東京大学)

Session Chairs: Shuichi MAEDA (Tokai University),

Masami KADONAGA (The University of Tokyo)

- FL-01** ゴムローラの劣化/異常状態の検知技術
Detection Technology for Degradation and Abnormal Conditions of Rubber Rollers
小林 祐子, 砂押 貴光 (株式会社東芝)
Yuko KOBAYASHI, Takamitsu SUNAOSHI (Toshiba Corporation)
- FL-02** ベルトの横方向運動に関する研究
Study on the Lateral Motion of Belts
吉田 和司 (山陽小野田市立山口東京理科大学)
Kazushi YOSHIDA (Sanyo-Onoda City University)

14:40 - 15:00 Authors' Interview

13:40 - 17:20

日本機械学会 情報・知能・精密機器部門連携企画

Joint Event with Information, Intelligence and Precision Equipment Division of
the Japan Society of Mechanical Engineers

15:00 - 15:40

「プリンタブル・ウェアラブルデバイスの基盤技術と応用 (1)」

“Fundamental Technologies and Applications of Printable and Wearable Device (1)”

座長: 植木 平吾 (リコー), 加川 哲哉 (コニカミノルタ)

Session Chairs: Heigo UEKI (Ricoh Company, Ltd.),

Tetsuya KAGAWA (KONICA MINOLTA, INC.)

- PW-01** ナノレオロジー計測法を応用したプリンタブルエレクトロニクス用インク材料の力学特性計測・・・
Mechanical Properties of Ink Materials for Printable Electronics Revealed by Applying
Nanorheological Measurement Methods

佐藤 啓人, 伊藤 伸太郎

(名古屋大学)

Keito SATO, Shintaro ITOH

(Nagoya University)

- PW-02** 画像解析によるすじの定量的評価および統計解析を用いたすじの基礎検討 ……………
Quantitative Evaluation of Streaks Using Image Analysis and Fundamental Investigation of
Streaks via Statistical Analysis

西岡 柊哉¹, 畑中 悠希¹, 岡 稔², 日野原 耀², 砂見 雄太¹ (1東海大学, 2明和ゴム工業株式会社)

Shuya NISHIOKA¹, Yuki HATANAKA¹, Minoru OKA², Yo HINOHARA², Yuta SUNAMI¹

(¹Tokai University, ²MEIWA RUBBER CO.,LTD.)

15:40 - 16:00 Authors' Interview

16:00 - 17:00

「プリンタブル・ウェアラブルデバイスの基盤技術と応用 (2)」

“Fundamental Technologies and Applications of Printable and Wearable Device (2)”

座長: 小林 祐子 (東芝), 石川 博幸 (ブラザー工業)

Session Chairs: Yuko KOBAYASHI (Toshiba Corporation),

Hiroyuki ISHIKAWA (Brother Industries, Ltd.)

- PW-03** R2R 搬送工程におけるラインスキャンカメラを用いたトラフ測定手法の確立に向けた基礎研究・
Fundamental Research on the Establishment of a Trough Measurement Method Using a Line
Scan Camera in the R2R Transport Process

中田 星空, 畑中 悠希, 後藤 宏弥, 砂見 雄太

(東海大学)

Seira NAKADA, Yuki HATANAKA, Hiroya GOTO, Yuta SUNAMI

(Tokai University)

- PW-04** DIC および FEM を用いた Roll-to-Roll 方式搬送時のトラフ解析 ……………
Trough Analysis During Roll-to-Roll Transport Using DIC and FEM

後藤 宏弥, 砂見 雄太

(東海大学)

Hiroya GOTO, Yuta SUNAMI

(Tokai University)

- PW-05** 強度不均一性を有する不織布上に現れる不規則トラフのシミュレーション評価……………
Simulation Evaluation of Irregular Troughs on Nonwoven Fabrics With Inhomogeneous
Strength

畑中 悠希, 砂見 雄太

(東海大学)

Yuki HATANAKA, Yuta SUNAMI

(Tokai University)

17:00 - 17:20 Authors' Interview

Lounge 9:00～16:00

D会場 (H1棟 3階 ラウンジ)
Room D (Lounge, 3F, H1 Building)

9:00 – 16:00

展示会

Products Exhibition

◆ICJ2025 は、オンラインツールとして Zoom を用いたハイブリッド形式で開催します。

Imaging Conference JAPAN 2025 参加要領 (Registration)

◆参加登録について

- ICJ2025 は、ハイブリッド開催の予定です。事前の参加登録に加え、当日会場でも受付を行います。会場での混雑を避けるため、事前の参加登録をお願いいたします。事前参加申し込みの締め切りは、5月30日(金)となります。
- オンラインでご参加希望の方およびオンラインと対面の双方でご参加希望の方は、開催前に Zoom アドレスを配信いたしますので、必ず事前の参加登録をお願いいたします。事前に参加登録し、参加費の振り込みが確認できた場合のみ、アドレスを配信いたします。
- 5月16日(金)までに事前参加登録にお申込みいただくと、参加費割引が適用されます。発表者は、参加を前提としておりますので、参加費割引が適用されます。また、30歳未満の方は、特別参加割引料金が設定されます。
- 維持会員の方は維持会員証1枚で会員1名分の参加となります。
- 参加申し込みの方は、お一人につき必ず1名の参加登録のお願いをいたします。
- 下記 URL にて web による事前申し込みを受け付けます。
<https://www.imaging-society-japan.org/conference/ICJ2025S/registration/>

◆参加費について

- 参加費は以下の通りです。参加費にはデジタル・冊子で配布する日本画像学会の論文集を含みます。
- 事前登録の場合は、参加費はメールでお送りする請求書に従って振り込み期限までにお支払いください。
- お支払い日の変更など、ご質問やご要望がありましたら参加登録メールに返信の形でご連絡ください。
- 協賛学会員の方は、会員扱いとなります。

参加費	5/16(金)まで	5/17(土)以降	
会 員(不課税)	12,000 円	13,000 円	(会員番号(会員証), もしくは維持会員番号(維持会員証)をご入力(ご提示)下さい)
非会員(課税)	21,000 円 +(2,100 円)	22,000 円 +(2,200 円)	(()内は税額)
30歳未満個人会員 (不課税)	6,000 円	6,000 円	(会員番号(会員証)をご入力(ご提示)下さい。会場受付の際は年齢がわかるものをご提示ください)
30歳未満非会員 (課税)	14,000 円 +(1,400 円)	14,000 円 +(1,400 円)	(()内は税額)
学 生(不課税)	2,000 円	2,000 円	(会場受付の際は学生証をご提示ください)

- 日本画像学会会員で無い方は、この機会に会員登録されますと、コンファレンス等の費用が安くなります。

例: 非会員のまま参加登録=23,100円(事前割引)

⇒入会して会員として参加登録=20,000円(会費8,000円+会員参加費12,000円)。

入会手続きは学会ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.imaging-society-japan.org/www/jp/announce/admission/>

◆特別イベントについて

- 特別イベント(ワークショップ『AI ツールの連携活用ハンズオン体験』, 画像技術による出力物ギャラリー, Imaging Today 特別セッション)のみの参加も可能です。
- ワークショップ『AI ツールの連携活用ハンズオン体験』, 画像技術による出力物ギャラリーのみの参加は無料です。Imaging Today 特別セッションのみの参加は参加費2,000円になります。
- Imaging Today 特別セッションでは、ディスカッションを活性化するため、事前の質問を受け付けます。事前申し込み時に入力することができます。

◆懇親会のお知らせ

- 発表者、講演者と参加者の懇親を深めるために、第一日目の夕方に、懇親会を開催いたします。皆様お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。
 - ・日時: 2025年6月11日(水) 17:30~19:30
 - ・会場: すずかけホール H1 棟 2F Kitchen MOTOTECH
 - ・申込: 当日会場入り口にて承ります
 - ・会費(課税): 2,000円+(消費税200円)

会場のご案内

東京科学大学すずかけ台キャンパス

〒226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259

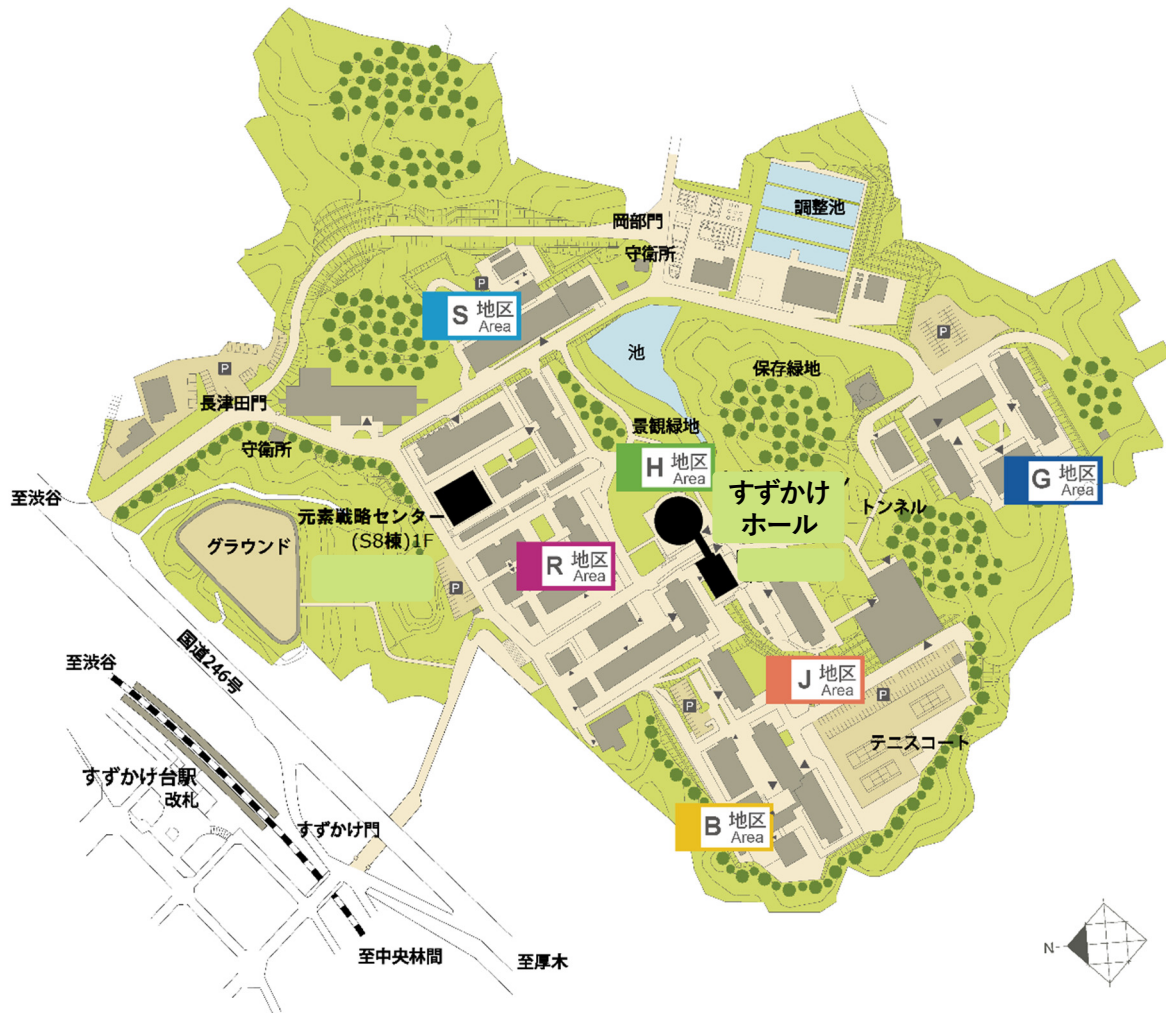
<https://www.titech.ac.jp/0/maps>

- ・ 〈最寄駅〉 東急田園都市線 すずかけ台駅 徒歩5分

交通アクセス：

- ・ 東京 70 分（東京メトロ丸の内線 → 東京メトロ半蔵門線 → 東急田園都市線）
- ・ 渋谷 45 分（東急田園都市線）
- ・ 品川 60 分（JR 東海道本線 → JR 京浜東北線 → JR 横浜線 → 東急田園都市線）
- ・ 新横浜 30 分（JR 横浜線 → 東急田園都市線）

キャンパスマップ：



How to participate Imaging Conference JAPAN 2025

Registration

- ✓ ICJ2025 will be held hybrid style. Both online pre-registration and onsite registration will be available. Please register in advance at the pre-registration website to avoid congestion around the registration desk on the conference days. The application deadline is **May 30th (Friday)**.
- ✓ Online participant MUST register in advance since Zoom address will be sent prior to the conference. The address will be sent to participants who accomplish both pre-registration and payment of the registration fee.
- ✓ Discount fee is applied if you make a pre-registration on the website by **May 16th (Friday)**. Since the presenter is premised on participation, the participation fee discount will be applied. In addition, special discount rates will be offered to those under the age of 30.
- ✓ If you are a supporting company member, you can participate for one member with one supporting company membership card.
- ✓ If you are applying for participation, please be sure to register for one person per person.
- ✓ Pre-registration site on the web is below;
<https://www.imaging-society-japan.org/conference/ICJ2025S/registration/>

Registration fee

- ✓ The registration fee is as follows. The fee includes a conference proceeding book by the Imaging Society of Japan.
- ✓ Please pay the registration fee by the transfer deadline according to the invoice sent.
- ✓ If you have any questions or requests, such as changing the payment date, please contact us in the form of a reply to the registration email.
- ✓ Sponsored society members will be treated as members.
- ✓ **Non-member can save registration fee if he (she) signs-up to be an ISJ member.**

Registration fee	Until 5/16	After 5/17	
Member (nontaxable)	12,000 yen	13,000 yen	(Please enter (indicate) your personal membership number (card) or supporting company membership number (card))
Non-member (taxable)	21,000 yen +(2,100 yen)	22,000 yen +(2,200 yen)	(() tax)
Member under the age of 30 (nontaxable)	6,000 yen	6,000 yen	(Please enter (indicate) your personal membership number (card) and indicate your ID at the conference site)
Non-member under the age of 30 (taxable)	14,000 yen +(1,400 yen)	14,000 yen +(1,400 yen)	(() tax)
Student (nontaxable)	2,000 yen	2,000 yen	(Please indicate your student ID at the conference site)

Special Event

- ✓ You can also participate only in the special events (Workshop "Experience of Using AI Tools", Gallery of Imaging Technology Outputs, and Imaging Today Special Session).
- ✓ Participation in the workshop "Experience of Using AI Tools" and the Gallery of Imaging Technology Outputs is free. Participation in the Imaging Today Special Session only will cost 2,000 yen.
- ✓ To stimulate discussion during the Imaging Today Special Session, we will accept questions in advance. You can enter your questions when you register in advance.

Social Hour

- ✓ Onsite Social Hour will be held in the evening of the first day for making communication with authors and for networking. Please don't hesitate to join us.
Date and time: June 11th, 2025 (Wed.) 17:30 - 19:30
Venue: Kitchen MOTOTECH, H1 Building, Suzukake Hall
Registration: At the entrance of the room on the day
Fee (taxable): 2,000 yen +(tax 200 yen)

Conference Site

Suzukakedai Campus, Institute of Science Tokyo

4259 Nagatsuta-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa 226-8501 Japan

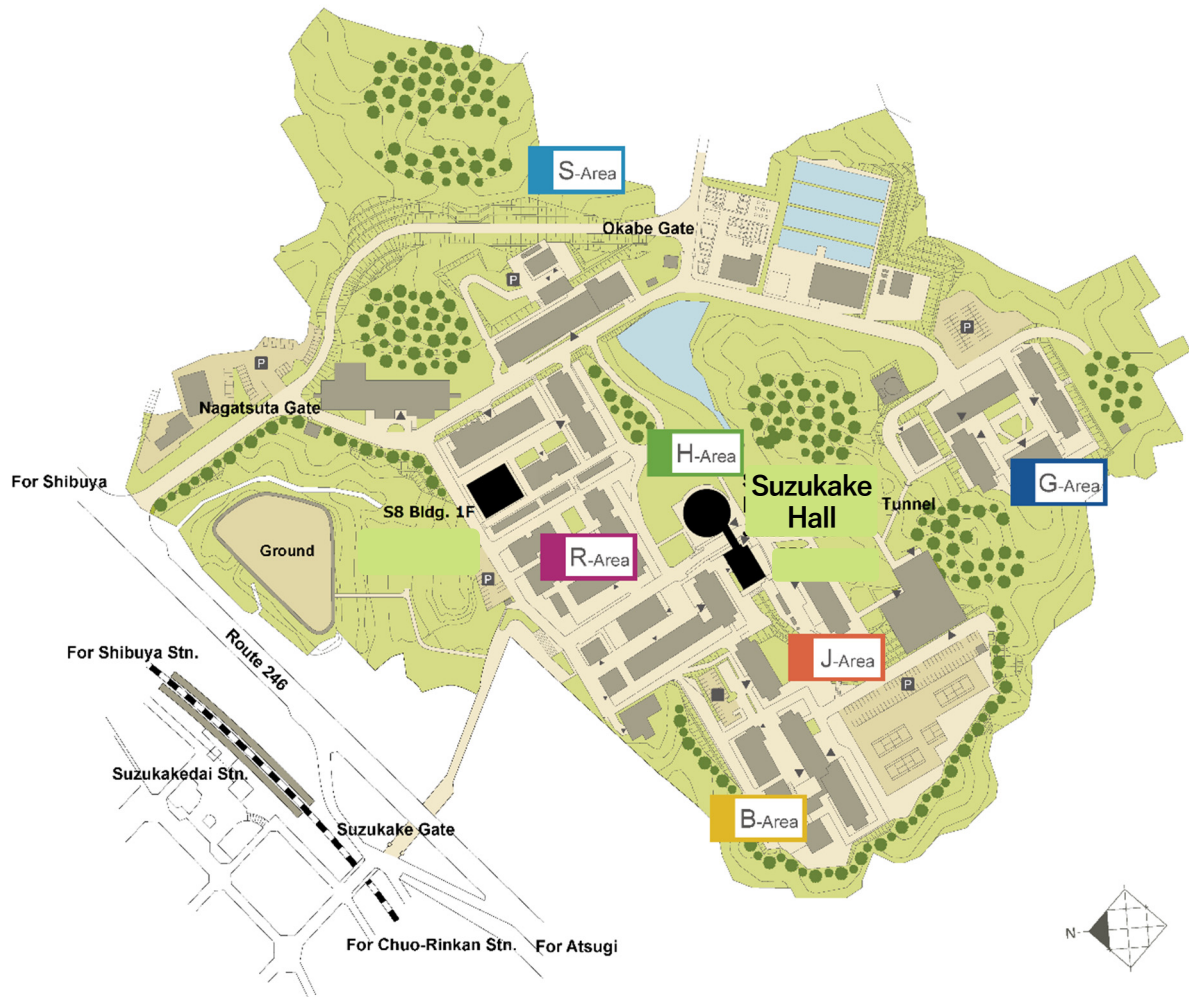
<https://www.titech.ac.jp/0/maps>

- Suzukakedai Campus is a 5-minute walk from Suzukakedai Station on the Tokyu Denentoshi Line.

Access to the Suzukakedai Campus:

- Tokyo 35 minutes (JR Keihin Tohoku Line → Tokyu Oimachi Line)
- Shibuya 20 minutes (Tokyu Toyoko Line → Tokyu Oimachi Line)
- Shinagawa 20 minutes (JR Keihin Tohoku Line → Tokyu Oimachi Line)
- Shin-Yokohama 25 minutes (Tokyu Shin-Yokohama Line → Tokyu Meguro Line)

Campus Map:



◆ ICJ2025 実行委員会 ◆

【実行委員長】

飯野 裕明（東京科学大学）

【副実行委員長】

原田 祥宏（東京科学大学/株式会社リコー）

【実行責任者】

吉田 崇裕（株式会社リコー）

【副実行責任者】

中山 信行（日本画像学会/東京工芸大学）

高橋 茂樹（山形大学）

【実行委員】

大場 正太（富士フイルムビジネスイノベーション株式会社）

門永 雅史（東京大学）

河野 信明（元キヤノン株式会社）

木崎 宏恵（三菱ケミカル株式会社）

久家 秀喜（富士フイルムビジネスイノベーション株式会社）

鈴木 健彦（キヤノン株式会社）

田川 義之（東京農工大学）

朝武 敦（ATI-Cコンサルティング）

中井 洋志（エトリア株式会社）

中村 一希（千葉大学）

名越 応昇（三菱製紙株式会社）

福江 高志（金沢工業大学）

前田 秀一（東海大学）

峯岸 なつ子（コニカミノルタ株式会社）

宮本 栄一（京セラドキュメントソリューションズ株式会社）

村井 宏亘（リコーITソリューションズ株式会社）

村上 和歌子（株式会社リコー）

森 尚子（株式会社リコー）

安井 甲次（キヤノン株式会社）

山口 大地（株式会社リコー）

吉田 健（株式会社リコー）

吉田 学（産業技術総合研究所）

【日本画像学会長】

藤井 雅彦（慶應義塾大学SFC研究所）

【コンファレンス委員長】

吉田 崇裕（株式会社リコー）

【運営委員長】

高橋 茂樹（山形大学）

【日本画像学会事務局】

中山 信行

竹内 達夫

西原 容子

◆ ICJ2025 Executive Committee ◆

【General Chair】

Hiroaki IINO (Institute of Science Tokyo)

【Vice Chair】

Yoshihiro HARADA (Institute of Science Tokyo / Ricoh Company, Ltd.)

【Responsible】

Takahiro YOSHIDA (Ricoh Company, Ltd.)

【Vice Responsible】

Nobuyuki NAKAYAMA (The Imaging Society of Japan / Tokyo Polytechnic University)

Shigeki TAKAHASHI (Yamagata University)

【Member】

Shota OBA (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

Masami KADONAGA (The University of Tokyo)

Nobuaki KAWANO (former Canon Inc.)

Hiroe KIZAKI (Mitsubishi Chemical Corporation)

Hideki KUGE (FUJIFILM Business Innovation Corp.)

Takehiko SUZUKI (Canon Inc.)

Yoshiyuki TAGAWA (Tokyo University of Agriculture and Technology)

Atsushi TOMOTAKE (ATI-C Consulting)

Hiroshi NAKAI (Ricoh Company, Ltd.)

Kazuki NAKAMURA (Chiba University)

Masanori NAGOSHI (Mitsubishi Paper Mills Limited)

Takashi FUKUE (Kanazawa Institute of Technology)

Shuichi MAEDA (Tokai University)

Natsuko MINEGISHI (KONICA MINOLTA, INC.)

Eiichi MIYAMOTO (KYOCERA Document Solutions Inc.)

Hironobu MURAI (Ricoh IT Solutions Co.,Ltd.)

Wakako MURAKAMI (Ricoh Company, Ltd.)

Naoko MORI (Ricoh Company, Ltd.)

Koji YASUI (Canon Inc.)

Daichi YAMAGUCHI (Ricoh Company, Ltd.)

Ken YOSHIDA (Ricoh Company, Ltd.)

Manabu YOSHIDA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

【ISJ's President】

Masahiko FUJII (Keio University Institute at SFC)

【Chair of ISJ's Conference Committee】

Takahiro YOSHIDA (Ricoh Company, Ltd.)

【Chair of ISJ's Steering Committee】

Shigeki TAKAHASHI (Yamagata University)

【ISJ's Secretary】

Nobuyuki NAKAYAMA

Tatsuo TAKEUCHI

Yoko NISHIHARA

画像関連学会連合会 第11回秋季大会 プログラム

10月27日(月) 2階会場

9:00~9:05

開会挨拶

中野 寧 / 画像関連学会連合会議長

10月27日(月) 1階会場

9:10~9:15 日本印刷学会 諸注意

9:15~9:20 日本印刷学会 開会挨拶 前田 秀一 / 東海大学

9:20~10:05

日本印刷学会 オーラルセッション1

座長: 浅井 浩, 平田 素康

I-01 グラフィックデザインにおける紙媒体の違いによる印象評価の調査と考察

○大場 久恵 / 東京電機大学

A study and analysis of impression evaluation based on differences in paper media in graphic design

Hisae Oba / Tokyo Denki University

I-02 平版印刷版に係る資源循環の推進

○米澤 裕之, 畠中 優介 / 富士フイルム株式会社

Promotion of Resource Recycling Related to Offset Printing Plates

Hiroyuki Yonezawa, Yusuke Hatanaka / FUJIFILM Corporation

I-03 バリア防錆フィルムの開発

○中島 宏佳, 高杉 祐也, 大塚 康司, 伊藤 克伸 / 大日本印刷株式会社

Development of Barrier film for Anti-corrosion

Hiroyoshi Nakajima, Naoya Takeuchi, Yuya Takasugi, Kouji Otsuka, Katsunobu Ito / Dai Nippon Printing Co., Ltd.

10:05~10:15 休憩・オーサーズインタビュー

10:15~11:00

日本印刷学会 オーラルセッション2

座長: 工藤 武彦, 白崎 義久

I-04 電子タイルを用いたインタラクティブ電子壁紙の試行と評価

篠原 凌¹, 〇面谷 信^{1,2}, 矢口 博之¹ / 1 東京電機大学, 2 東海大学

Assessment of Interactive Electronic Wall Decorations Using e-Tile

Ryo Shinohara¹, Makoto Omodani^{1,2}, Hiroyuki Yaguchi¹ / 1 Tokyo Denki University, 2 Tokai University

I-05 独自バイオマテリアルを活用した培養肉作製技術

○高草木 尚也¹, 松崎 典弥² / 1 TOPPAN ホールディングス株式会社, 2 大阪大学

The technology of cultivated meat production using unique biomaterials

Naoya TAKAKUSAKI¹, Michiya MATSUSAKI² / 1 TOPPAN HOLDINGS INC., 2 The University of Osaka

I-06 DNP の生産装置開発への取り組み —検査装置カメラユニットの高剛性化—

○山岡 天平 / 大日本印刷株式会社

DNP's Initiatives in Developing Production Equipment

-Enhancing the Rigidity of Inspection Equipment Camera Units-

Tempei Yamaoka / Dai Nippon Printing Co., Ltd.

11:00~11:10 休憩・オーサーズインタビュー

11:10~11:15 日本印刷学会 会長挨拶 東 吉彦 / 東京工芸大学

11:15~12:10

招待講演

座長: 前田 秀一, 杉山 徹

SI-01 コロナタイプ印刷 アナログからデジタルへの技術変遷の何故と現状
高橋 恭介 / 東海大学 名誉教授

12:10~13:00 昼休み

10月27日(月) 2階会場

9:25~9:30 画像電子学会会長挨拶 高村 誠之 / 法政大学

9:30~10:30

画像電子学会 オーラルセッション1

座長: 藤井 俊明 / 名古屋大学

- E-01 福島第一原発 BIM データを活用した配管点群認識と炉内映像点群への適用
○加藤 徹¹, 高橋 弘毅¹, 山下 圈¹, 土井章男² / 1 フリーランス, 2 岩手県立大学
Pipe Point Cloud Recognition Using BIM Data from Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant and Its Application to Reactor Interior Video Point Clouds
Toru Kato¹, Hiroki Takahashi¹, Meguru Yamashita¹, Akio Doi² / 1 Freelance, 2 Iwate Prefectural University
- E-02 高速カメラ映像を用いた深層学習による投球ボール回転軸のマーカレス推定
○有井 翔, 竹田 詩韻, 盧 承鐸, 張 英夏, 向井 信彦 / 東京都市大学
Marker-less Estimation of Baseball Spin Axis using Deep Learning from High-Speed Video
Sho ARII, Jiin TAKEDA, Seung-Tak NOH, Youngha CHANG, Nobuhiko MUKAI / Tokyo City University
- E-03 深層学習による鼻腔形態異常の判別
○武田 健杜¹, 平野 康次郎², 村上 幸三², 竹田 詩韻¹, 張 英夏¹, 向井 信彦¹ / 1 東京都市大学, 2 昭和医科大学
Diagnosis of Nasal Cavity Malformations Using Deep Learning
Kento Takeda¹, Kojiro Hirano², Kouzou Murakami¹, Jiin Takeda¹, Youngha Chang¹, Nobuhiko Mukai¹ / 1 Tokyo City University, 2 Showa Medical University

10:30~10:40 休憩

10:40~11:40

画像電子学会 オーラルセッション2

座長: 藤井 俊明 / 名古屋大学

- E-04 折りたたみ形状の数え上げに基づく折り紙シルエットクイズ設計
○鶴田 直也 / 宇都宮大学
A Method for Designing Origami Silhouette Quiz based on Folded Shape Enumeration
Naoya TSURUTA / Utsunomiya University
- E-05 局所特徴を考慮した点群拡張によるLiDAR SLAMの精度向上
○内田 樹, 岩切 宗利 / 防衛大学校
Improving LiDAR SLAM with Local Feature-Based Point Cloud Augmentation
Tatsuki UCHIDA, Munetoshi IWAKIRI / National Defense Academy

- E-06 ホログラフィ空間投影像の画質改善に向けた主観・客観同時評価システムの基礎検討
○高野 邦彦¹, 戸塚 雄大¹, 山本 昇志¹, 石塚 賛¹, 佐藤 甲癸², 浅井 紀久夫³ / 1 東京都立産業技術高等専門学校, 2 湘南工科大学, 3 放送大学
On a basic study for simultaneous subjective and objective evaluating system to improve the quality of holographic spatially projected images
Kunihiko TAKANO¹, Yudai TOTSUKATOTSUKA¹, Shoji YAMAMOTO¹, Tasuku Ishiduka¹, Koki SATO², Kikuo ASAI³ / 1 Tokyo Metropolitan College of Industrial Technology, 2 Shonan Institute of Technology, 3 The Open University of Japan

11:40~13:00 昼休み

13:00~13:30

ポスターセッション ノンストッププレゼンテーション

10月27日(月) 1階ロビー

13:30~15:15

ポスターセッション

- P-01 発光性 Eu(III)錯体と構造色反射を有するらせん配向型液晶の複合化によるキラル光学特性変化
○佐川 祐介, 小林 範久, 中村 一希 / 千葉大学
Changing Chiroptical Properties by Hybridizing Luminescent Eu(III) Complexes and Structural Color Reflectable Helically Chiral Nematic Liquid Crystal
Yusuke SAGAWA, Norihisa KOBAYASHI, Kazuki NAKAMURA / Chiba University
- P-02 エレクトロクロミズムとフォトニック構造を融合した新規ハイブリッド光反射デバイス
○白井 颯太, 小林 範久, 中村 一希 / 千葉大学
Novel Hybrid Light Reflecting Device That Integrates Electrochromism and Photonic Structures
Hayata SHIRAI, Norihisa KOBAYASHI, Kazuki NAKAMURA / Chiba University
- P-03 プリンティングヘッド固定ステージ可動式加飾印刷システムの研究
○諏訪部 龍生, 高野 然, 蘇 健恒, 田沼 千秋, 田中 豊 / 法政大学
Study on Additive Printing System With Fixed Printing Head and Movable Stage
Ryuki SUWABE, Zen TAKANO, Jianheng SU, Chiaki TANUMA, Yutaka TANAKA / Hosei University
- P-04 ビジネスフォームを想定した Color Universal Design(CUD)対応に関する研究
○仁科 まどか¹, 澁谷 礼佳¹, 田中 謙司², 中村 茜², 武田 一孝³, 野島 瞳³, 森下 洋平³, 矢口 博之¹ / 1 東京電機大学, 2 研文社, 3 ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会
Research on Business Forms Compatible with Color Universal Design
Madoka Nishina¹, Ayaka Shibuya¹, Kenji Tanaka², Akane Nakamura², Kazutaka Takeda³, Hitomi Nojima³, Yohei Morishita³, Hiroyuki Yaguchi¹ / 1 Tokyo Denki University, 2 Kenbunsha, 3 Universal Communication Design Association
- P-05 映像表現における「エモい」感情の誘起についての研究
○宮木 綾子, 大場 久恵 / 東京電機大学
A Study on the Induction of "Emotional" Feelings in Visual Expression
Ryoko Miyaki, Hisae Oba / Tokyo Denki University

- P-06 光によるモーションの速度の違いが感情的印象に与える影響について
○長崎 京那, 大場 久恵 / 東京電機大学
The impact of the difference in the speed of motion by light on the emotional impression.
Kyona Nagasaki , Hisae Oba / Tokyo Denki University
- P-07 U-Net ベース画像生成と画像処理を用いたミツバチヘギイタダニの自動検出
○荻村 春樹, 鶴田 直也, 長谷川 まどか / 宇都宮大学
Detection of Varroa destructor mite using U-Net base image generation and image processing
Haruki OGIMURA, Naoya TSURUTA, Madoka HASEGAWA / Utsunomiya University
- P-08 Vision Transformer を用いた乳房構成のクラス分類の一検討
○釜井 栞菜, 長谷川 まどか, 鶴田 直也 / 宇都宮大学
A Study on Breast Density Classification Using Vision Transformer
Kanna KAMAI, Madoka HASEGAWA, Naoya TSURUTA / Utsunomiya University
- P-11 画像生成 AI における学習済みデータと未学習データの判別に関する一検討
○中村 結奈, 西村 広光 / 神奈川工科大学
An Investigation into Detecting the Use of Training Data in Generative AI Models
Yuna NAKAMURA, Hiromitsu NISHIMURA / Kanagawa Institute of Technology
- P-12 物体固有色を考慮したカラーネーミングのための色名連想傾向の解析
○須田 成樹, 張 英夏, 竹田 詩韻 / 東京都市大学
Mapping Object-Color Association Priors as a Foundation for Color Naming
Narumi Suda, Youngha Chang, Jiin Takeda / Tokyo City University
- P-13 大域的トーン変換に基づく昼夜を問わない HDR 撮影環境からの印刷可能な SDR/MDR 画像への生成手法の提案
○大塚 作一¹, 比良 祥子², 岩井田 早紀³, 林 道大¹ / 1 国際高等専門学校, 2 鹿児島大学, 3 鹿児島天文館メディカルカレッジ
Printable Standard-Dynamic-Range (SDR) / Moderate-Dynamic-Range (MDR) Image Generation Employing Global-Tone-Mapping (GTM) based High-Dynamic-Range (HDR) Image Capture Technology Regardless of Day or Night
Sakuichi OHTSUKA¹, Shoko HIRA², Saki IWAI³, Michihiro HAYASHI¹
/ 1 International College of Technology, 2 Kagoshima University, 3 Kagoshima Tenmonkan Medical College
- P-14 Gaia カタログを用いた民生用天体望遠鏡の内部標定
○松尾 陽矢, 山北 彩未, 裕村 桜華, 力丸 真衣, 宮崎 凜音, 前原 秀明 / 福岡工業大学
Intrinsic of Astronomical Telescope Using Gaia Catalogue
Haruya MATSUO, Ayami YAMAKITA, Oka MATSUMURA, Mai RIKIMARU, Rinne MIYAZAKI, Hideaki MAEHARA / Fukuoka Institute of Technology
- P-15 アイスホッケー映像における複数検出手法と追跡モデルを用いた選手追跡手法の検討
○江場 一真, 澤野 弘明 / 愛知工業大学
A Study on a Method for Player Tracking Using Multiple Detection Methods and Tracking Models in an Ice Hockey Game Video
Kazuma EBA, Hiroaki SAWANO / Aichi Institute of Technology

- P-16 狭隘環境におけるハンディ型 LiDAR スキャンの応用
 <洞窟環境の保全に資する西表島クーラ洞窟の3次元記録と保存>
 ○熊坂 憲広¹, 岩田 悠希¹, 武井 琉奈¹, 渡辺 信², 内田 孝幸¹ / 1 東京工芸大学,
 2 琉球大学
 Application of handheld LiDAR scanning in confined environments :
 3D documentation and preservation of the Kura cave in Iriomote island for cave
 conservation
 Norihiro KUMASAKA¹, Yuuki IWATA¹, Tatsuhiko HOSHINO¹, Runa TAKEI¹, Shin
 WATANABE², Takayuki UCHIDA¹ / 1 Tokyo Polytechnic University, 2 University of
 the Ryukyus
- P-17 江の島の灯台、シーキャンドルの LiDAR スキャンと3D 造形
 ○岩田 悠希, 熊坂 憲広, 武井 琉奈, 星野 龍彦, 内田 孝幸 / 東京工芸大学
 LiDAR Scanning and 3D Printing of the Enoshima Lighthouse “Sea Candle”
 Yuuki Iwata, Norihiro Kumasaki, Runa Takei, Tatsuhiko Hoshino , Takayuki Uchida /
 Tokyo Polytechnic University
- P-18 微細 3D プリンティング技術を用いた導電性高分子ダイポールアンテナ構造の作製
 ○鈴木 歩, 越地 福朗, 山田 勝実 / 東京工芸大学
 Fabrication of Conductive Polymer Dipole Antenna Structures using Micro 3D
 Printing Technology
 Ayumu SUZUKI, Fukuro KOSHIJI, Katsumi YAMADA / Tokyo Polytechnic University
- P-19 SDGs を指向した単分散ポリスチレン微粒子の合成と構造色に与える反応溶媒の効果
 ○高橋 輝充, 矢島 英樹, 小林 信一, 山田 勝実, 比江島 俊浩 / 東京工芸大学
 Sustainable Synthesis of Monodisperse Polystyrene Microparticles: Effects of
 Solvent Polarity on Structural Color
 Terumitsu TAKAHASHI Hideki YAJIMA Shinichi KOBAYASHI Katsumi YAMADA
 Toshihiro HIEJIMA / Tokyo Polytechnic University
- P-20 ZnS 系蛍光体とペリレンビスイミド誘導体のエネルギー移動を利用した分散型 EL の構築
 ○増田 夕季乃¹, 萩澤 颯人¹, 森末 光彦², 常安 翔太¹ / 1 東京工芸大学, 2 京都工芸
 繊維大学
 Construction of powder EL Utilizing Energy Transfer Between a ZnS based
 Phosphor and a Perylene Bisimide Derivative
 Yukino MASUDA, Hayato HAGISAWA, Mitsuhiko MORISUE, Shota TSUNEYASU
- P-21 光源位置推定の精度向上を目的とした学習用データセットの改善
 ○伊藤 太一 / 東京都立大学
 Improving Training Datasets for Enhanced Accuracy in Light Source Position
 Estimation
 Taichi Ito
- P-22 機械学習を用いた原子核乾板中の α 線飛跡高速検出法の開発
 ○錦織 司¹, 福田 努¹, 飯塚 毅², 上木 賢太³, 榎本 三四郎⁴, 小林 春輝¹, 竹内 希², 竹
 下 漱一¹, 田中 明子⁵, 長縄 直崇¹, 原口 悟², 渡辺 寛子⁵, Simran Chauhan⁵, 高野 真
 輪⁶, 南野 彰宏⁶, 河原 剛義¹, 松尾 友和¹, 額 佑衣¹, 仁木 創太¹, 長原 翔伍¹, 酒々井
 玲於奈¹ / 1 名古屋大学², 2 東京大学³, 3 海洋研究開発機構, 4 ワシントン大学, 5 東北
 大学, 6 横浜国立大学
 Development of a Rapid Detection Method for Alpha Particle Tracks in Nuclear
 Emulsion Using Machine Learning
 Tsukasa Nishikiori, Tsutomu Fukuda, Tsuyoshi Iizuka, Kenta Ueki, Sanshiro
 Enomoto, Haruki Kobayashi, Nozomi Takeuchi, Soichi Takeshita, Akiko Tanaka,
 Naotaka Naganawa, Satoru Haraguchi, Hiroko Watanabe, Simran Chauhan, Marin
 Takano, Akihiro Minamino, Tsuyoshi Kawahara, Tomokazu Matsuo, Shogo
 Nagahara, Leona Suzui...

P-23 大面積原子核乾板画像のビューア開発

○伊代野 淳¹, 杉 侑樹¹, 熊谷 和紘¹, 菅野 嘉月¹, 秋田 悠翔¹, 青木 茂樹², 六條 宏紀³, 長原 翔伍⁴, 中村 悠哉⁴, 臼田 育矢⁴, 山本 紗矢⁴, 河原 剛義⁴, 中野 敏行⁴, 仲澤 和馬⁵
／ 1 岡山理科大学, 2 神戸大学, 3 九州大学, 4 名古屋大学, 5 岐阜大学

Development of viewer for large area images of nuclear emulsion film

A. Iyano¹, Y. Sugi¹, K. Kumagai¹, K. Sugano¹, H. Akita¹, S. Aoki², H. Rokujo³, S. Nagahara⁴, Y. Nakamura⁴, I. Usuda⁴, S. Yamamoto⁴, T. Kawahara⁴, T. Nakano⁴, K. Nakazawa⁵ / 1 Okayama University of Science, 2 Kobe University, 3 Kyushu University, 4 Nagoya University, 5 Gifu University

P-24 ヨウ素処理による原子核乾板の表面銀の化学的除去(5): フィルムの大量処理システムの構築(2)

○久下 謙一, 有賀 昭貴, 早川 大樹, 佐野 由汰 / 千葉大学

Chemical removal of surface silver on nuclear emulsion plates by iodide-treatment (5) Construction of Mass Treatment system (2)

Kenichi KUGE, Akitaka ARIGA, Daiki HAYAKAWA, Yuta SANŌ

P-25 潜像退行抑制のためのゼラチン組成に着目した原子核乾板の開発

○吉原 敦紀, 吉田 哲夫, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

Development of Nuclear Emulsion focused on gelatin composition for suppression of latent image fading

Atsuki Yoshihara, Tetsuo Yoshida, Nobuko Kitagawa, Kunihiro Morishima

P-26 宇宙線イメージングによる地下構造探査のためのボーリング検出器の開発

○正野 天尋, 中野 健斗, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

Development of a Borehole Detector for Underground Structure Exploration Using Cosmic-ray Imaging

Tenzin SHONO, Kento NAKANO, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA

P-27 原子核乾板の潜像退行と相対湿度の関係

○坂本 智則, 吉原 敦紀, 窪田 星雅, 堀居 大暉, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

The Relationship between Latent Image Fading in Nuclear Emulsions and Relative Humidity

Tomonori SAKAMOTO, Atsuki YOSHIHARA, Seiga KUBOTA, Hiroki HORII, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA

P-28 原子核乾板の長期特性向上のための化合物添加量の検討

○恒光 凜花, 吉原 敦紀, 窪田 星雅, 堀居 大暉, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

Study on Compound Additive Amounts for Improving the Long-Term Performance of Nuclear Emulsions

Rinka TSUMEMITSU, Atsuki YOSHIHARA, Seiga KUBOTA, Hiroki HORII, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA

10月27日(月) 2階会場

15:15~15:20 日本写真学会 会長挨拶 中野 寧

15:20~16:40

日本写真学会 オーラルセッション 1

座長: 桑山 哲郎, 吉田 英明

S-01 認知症早期診断のための視線追跡技術の適用検討

○中野 寧 / 日本写真学会

Application of eye-tracking technology for early diagnosis of dementia

Yasushi NAKANO / SPIJ

S-02 論文賞受賞講演

顔認証技術を用いた古写真の人物特定~「フルベッキ写真」への応用

○伊藤 泰雄 / 杏林大学

Identifying People in Old Photographs Using Facial Recognition Technology
- Application to “Verbeck Photograph”

Yasuo Ito

S-03 iPhone Pro の LiDAR 搭載によるデジタル写真の指標性の変質とリアリティの変化

○大越 円香, 秋庭 史典 / 名古屋大学

Transformation of the indexicality of digital photography and changing reality
through the iPhone Pro's LiDAR inclusion

Madoka Okoshi, Fuminori Akiba

S-04 文化財、歴史的建造物、自然遺構の3D デジタルモデルのアーカイブス

○内田 孝幸¹, 海老澤 模奈人¹, 岩田 悠希¹, 星野 龍彦¹, 武井 琉奈¹, 熊坂 憲広¹, 越地 福朗¹, 正 洋樹², 中川 真人² / 1 東京工芸大学, 2 相模原市教育委員会

Archives of 3D Digital Models of Cultural Properties, Historic Buildings, and
Natural Formation

Takayuki UCHIDA¹, Monado EBISAWA¹, Yuuki IWATA¹, Tatsuhiko HOSHINO¹, Runa
TAKEI¹, Norihiro KUMASAKA¹, Fukuro KOSHIJI¹, Hiroki MASA², Masato
NAKAGAWA² / 1 Tokyo Polytechnic University, 2 Sagamihara City Board of
Education

10月27日(月) 2階会場

16:50~17:50

基調講演

座長: 藤井 俊明 / 名古屋大学

KN-01 「Media Computing for Visual Communication

ビジュアルコミュニケーションのためのメディアコンピューティング」

近藤 邦雄 / 東京工科大学 メディア学部 名誉教授

10月27日(月) 1階会場

17:50~19:30

情報交換会(ポスター賞表彰)

10月28日(火) 1階会場

9:30~9:40 日本画像学会開会挨拶 日本画像学会 会長 藤井雅彦 / 慶應義塾大学

9:40~11:00

日本画像学会 オーラルセッション 1

プリンティング装置・シミュレーション

座長: 和泉谷 勇太 / 花王株式会社,
宮本 栄一 / 京セラドキュメントソリューションズ株式会社

G-01 TASKalfa7054ci Series の開発

○又吉 晃, 齋藤 陽介, 高上 愛, 塚原 茂樹

Development of TASKalfa7054ci Series

Akira MATAYOSHI, Yosuke SAITO, Ai TAKAGAMI, Shigeki TSUKAHARA /
KYOCERA DOCUMENT SOLUTIONS INC.

G-02 インク滴の振動観察による動的物性の計測と噴射状態へ及ぼす影響

○齋藤 将史¹, 佐武 健一¹, 森田 直己² / ¹ 京セラドキュメントソリューションズ株式会社, ² 山形大学

Measurement of Surface Tension by Observation of Oscillation Droplet and Its
Effect on Jetting Configuration

Masafumi SAITO¹, Kenichi SATAKE¹, Naoki MORITA² / ¹ KYOCERA Document
Solutions Inc., ² Yamagata University

G-03 次世代インクジェット印刷機の製品開発に用いるシミュレーション技術 -インク挙動の可視化-

○伊藤 智映, 田丸 剛士, 堀田 英莉, 渡部 直樹 / コニカミノルタ株式会社

Numerical Simulation Technologies for Development of New Inkjet Printing
System

- Visualization of Ink Behavior -

Tomoaki ITO, Tsuyoshi TAMARU, Eri HOTTA, Naoki WATANABE / KONICA
MINOLTA, INC.

G-04 ビールプリンタ (wet-on-wet) のシミュレーション

○門永 雅史^{1,2}, 井賀 充香³, 石田 聡³, 平野 美希¹, 美谷 周二朗¹, 酒井 啓司¹
/ ¹ 東京大学, ² かどらぼ, ³ 日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社

Simulation of Beer Printer (wet-on-wet)

Masami KADONAGA^{1,2}, Mika IGA³, Satoshi ISHIDA³, Miki HIRANO¹, Shujiro
MITANI¹, Keiji SAKAI¹ / ¹ The University of Tokyo, ² Kado Lab., ³ Nippon Paint
Corporate Solutions Co., Ltd.

11:00~11:10 休憩・オーサーズインタビュー

11:10~12:00

招待講演 1

座長: 足立 克己 / シャープ株式会社

GS-01 画像と知的財産法

青木 大也 / 大阪大学大学院 法学研究科

Digital Image and Intellectual Property Law in Japan

Hiroya AOKI / Graduate School of Law and Politics, The University of
Osaka

12:00~13:00 昼休み

13:00～13:50

招待講演 2

座長: 深谷 知己 / 京セラ株式会社

GS-02 光が作る色: 構造色インクジェットの挑戦

○佐々田 美里¹, ○針貝 潤吾¹, 桑田 良隆¹, 高田 勝之², 河本 匠真²
/ 1 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社, 2 富士フイルム株式会社

Colors Created by Light: Challenges of Structural Color Inkjet Printing

Misato SASADA¹, Jungo HARIGAI¹, Yoshitaka KUWADA¹, Katsuyuki TAKADA², Takuma KAWAMOTO² / 1 FUJIFILM Business Innovation Corp., 2 FUJIFILM Corporation

13:50～14:20

技術賞記念講演

座長: 本多 将 / 三洋化成工業

GS-03 カラーレーザー複合機 MFC-L9670CDN に搭載の定着器開発

梶田 真仁, 渡邊 知範, 田口 和奈, 張 明光, 加藤 貞治, 福江 修平, 今枝 寛雄, 植木 俊介, ○田中 訓史 / ブラザー工業株式会社

Development of Fuser Unit for Multifunction Color Laser Printer MFC-L9670CDN

Masahito KAJITA, Tomonori WATANABE, Kazuna TAGUCHI, Mingguang ZHANG, Sadaharu KATO, Shuhei FUKUE, Hirotaka IMAEDA, Shunsuke UEKI, Tokifumi TANAKA / Brother Industries, Ltd.

14:20～14:30 休憩

14:30～15:10

日本画像学会 オーラルセッション 2

材料・デバイス

座長: 福田 紘也 / ブラザー工業株式会社

G-05 ガスセンサ応用に向けたポリピロールジルコニア分散液の作製と評価

○兵藤 哲, 次田 将大, 前田 秀一 / 東海大学

Preparation and Evaluation of Polypyrrole-Zirconia Dispersion for Gas Sensor Applications

Tetsu HYODO, Yukihiro TSUGITA, Shuichi MAEDA / Tokai university

G-06 電気化学的価数変化を利用した Eu 錯体の発光色制御

○藪田 龍人, 小林 範久, 中村 一希 / 千葉大学

Emission Color Control of Eu Complexes Using Electrochemical Valence Modulation

Ryoto YABUTA, Norihisa KOBAYASHI, Kazuki NAKAMURA / Chiba University

15:10～15:20 休憩・オーサーズインタビュー

15:20~16:00

日本画像学会 オーラルセッション 3

3D プリンティング・プリントドエレクトロニクス

座長: 齋藤 正文 / 京セラドキュメントソリューションズ株式会社

G-07 DLP 露光の時空間変調による UV 硬化型エマルジョンの自発的 3D 表面パターン形成

○柳沢 恭行, 倉内 康徳, 稲葉 喜己 / TOPPAN ホールディングス株式会社

Spontaneous 3D Surface Pattern Formation in UV Curable Emulsions via Spatiotemporal Modulation During DLP Exposure

Takayuki YANAGISAWA, Yasunori KURAUCHI, Yoshimi INABA / TOPPAN Holdings Inc.

G-08 プリンテッドエレクトロニクス完全対応のインクジェット塗布機

○山崎 智博 / 株式会社ワイ・ドライブ

Inkjet Dispensing Machine for Complete Printed Electronics

Tomohiro YAMAZAKI / Y Drive CO., LTD.

16:00~16:10 日本画像学会閉会挨拶 日本画像学会関西委員会委員長 深谷 知巳 / 京セラ株式会社

16:10~16:20 オーサーズインタビュー

10月28日(火) 2階会場

9:10~10:30

日本写真学会 オーラルセッション2

座長: 高田 俊二, 吉田 純也

S-05 光触媒による水の全光分解; 電子構造に基づく性能評価

○谷 忠昭¹, 山口 友一², 中島 嘉之³, 内田 孝幸⁴, 西見 大成⁵, 工藤 昭彦² / 1 日本写真学会, 2 東京理科大, 3 理研計器, 4 東京工芸大, 5 人工光合成化学プロセス技術研究組合

Photocatalytic overall water splitting ; performance evaluation based on electronic structure

Tadaaki Tani, Yuichi Yamaguchi, Yoshiyuki Nakajima, Takayuki Uchida, Taisei Nishimi, Akihiko Kudo

S-06 原子核および一般乳剤における潜像形成の相違の分析

○谷 忠昭¹, 六條 宏紀^{2,3} / 1 日本写真学会, 2 九州大学, 3 名古屋大学

Analysis on difference in latent image formation between nuclear and conventional emulsions

Tadaaki Tani, Hiroki Rokujo

S-07 大粒子原子核乾板の後熟条件の検討(1)

○堀居 大暉, 窪田 星雅, 吉原 敦紀, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

Study on Conditions of Sensitization for Large-Grain Nuclear Emulsion (1)

Hiroki HORII, Seiga KUBOTA, Atsuki YOSHIHARA, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA

S-08 大粒子原子核乾板の後熟条件の検討(2)

○窪田 星雅, 堀居 大暉, 吉原 敦紀, 吉田 哲夫, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

Study on Conditions of Sensitization for Large-Grain Nuclear Emulsion (2)

Seiga KUBOTA, Hiroki HORII, Atsuki YOSHIHARA, Tetsuo YOSHIDA, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA

10:30~10:40 休憩

10:40~11:20

日本写真学会 オーラルセッション3

座長: 吉田 哲夫, 久下 謙一

S-09 NINJA 実験におけるニュートリノ反応研究及び次期実験の準備状況

○福田 努¹, NINJA Collaboration^{1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12} / 1 名古屋大学, 2 京都大学, 3 横浜国立大学, 4 日本大学, 5 東邦大学, 6 東京大学, 7 大阪大学, 8 神戸大学, 9 理研, 10 神奈川大学, 11 Ruder Bošković Institute, 12 King's College London

Neutrino Interaction Study on the NINJA experiment and Preparation Status for Next Neutrino Beam Exposure

T. Fukuda, NINJA Collaboration

S-10 名大原子核乳剤塗布装置の運用と改良

○山本 紗矢¹, 杉村 昂¹, 六條 宏紀^{1,2} / 1 名古屋大学, 2 九州大学

Operation and Improvements of Nuclear Emulsion Coating System at Nagoya University

S. Yamamoto, K. Sugimura, H. Rokujo

11:20~11:50

招待講演

座長: 吉田 哲夫, 久下 謙一

SS-01 塗布プロセスによる機能材料の創成

宮本 公明 / 元富士フイルムフェロー・化学工学会 SCE・Net

Functional Materials Produced by Coating

Kimiaki Miyamoto

11:50~13:00 昼休み

13:00~14:00

日本写真学会 オーラルセッション4

座長: 大関 勝久, 久下 謙一

S-12 写真学会創設初期の活動—N.S.G.式感度測定法の制定—

○高田 俊二 / 日本写真学会

Early Activities of the Photographic Society

Establishment of the N.S.G. Method of Sensitivity Measurement

Shunji TAKADA

S-13 「自然」を題材とする写真を読み解くのはなぜ難しいのか

—日本の現状から紐解く—考察

○中村 香音, 大原 尚之 / 北海道大学

Why Has It Become Difficult to Interpret Photographs of Nature

: A Reflection on Present-Day Japan

Kanon Nakamura, Naoyuki Ohara

S-14 AI 時代における Nature/Wildlife photography

海外写真家の視点からみる AI 活用に関する議論と動向

○大原 尚之 / 北海道大学

Nature/Wildlife Photography in the AI Era:

Discussions and Trends on AI Utilization from a Global Perspective

Naoyuki Ohara

14:00~14:10 休憩

14:10~14:50

日本写真学会 オーラルセッション5

座長: 加藤 隆志, 常安 翔太

S-16 干渉法を用いてカラー写真を得る試み

○矢島 仁 / 東京工芸大学

An Attempt to obtain Color Photographs using an Interference Process

Hitoshi YAJIMA

S-17 金色金属様光沢を有するポリ(3,4 エチレンジオキシチオフェン)単独膜の調製

○山田 勝実 / 東京工芸大学

Preparation of Poly(3,4-ethylenedioxythiophene) Monolayer Films with Golden Metallic Luster

Katsumi YAMADA

14:50~15:00 休憩

15:00~16:20

日本写真学会 オーラルセッション6

座長: 吉田 純也, 山本 紗矢

S-18 宇宙線イメージングのための原子核乾板検出器の構造改良による環境放射線耐性の向上

○矢崎 真瑠, 正野 天尋, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学

Improvement of Environmental Radiation Resistance through Structural Enhancement of Nuclear Emulsion Detectors for Cosmic-Ray Imaging

Masaru YAZAKI, Tenzin SHONO, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA

S-19 学術賞受賞講演

超冷中性子用原子核乾板による重力場中の中性子の量子状態の観測

○長縄 直崇 / 名古屋大学

Observation of quantum states of neutrons in the gravitational field using nuclear emulsion for ultracold neutrons

Naotaka Naganawa

S-20 タウニュートリノ生成研究 DsTau 実験の解析状況

○佐藤 修¹, 有賀 昭貴^{2,5}, 有賀 智子³, 早川 大樹², 小松 雅宏¹, 久下 謙一², 松山 一帆², 中野 敏行¹, 奥村 虎之介², 六條 宏紀^{1,3}, 吉本 雅浩⁴ / 1 名古屋大学, 2 千葉大学, 3 九州大学, 4 理化学研究所, 5 ベルン大

The status of the tau neutrinos production study DsTau experiment

Osamu SATO, Akitaka ARIGA, Tomoko ARIGA, Daiki HAYAKAWA, Masahiro KOMATSU, Kenich KUGE, Kazuho MATSUYAMA, Toshiyuki NAKANO, Toranosuke OKUMURA, Hiroki ROKUJYO, Masahiro YOSHIMOTO

S-21 原子核乾板における β 線飛跡の再構成

○竹下 漱一¹, 福田 努¹, 南野 彰宏², 松尾 友和¹, 長原 翔伍¹, 河原 剛義¹, 酒々井 玲於奈¹, 高野 真輪², 錦織 司¹ / 1 名古屋大学, 2 横浜国立大学

Reconstruction of beta-ray tracks in nuclear emulsion

Sohichi Takeshita, Tsutomu Fukuda, Akihiro Minamino, Tomokazu Matsuo, Shogo Nagahara, Tsuyoshi Kawahara, Leona Suzui, Marin Takano, Tsukasa Nishikiori

16:20~16:30 休憩

16:30~17:50

日本写真学会 オーラルセッション7

座長: 有賀 智子, 長原 翔伍

- S-22 原子核乾板を用いた FLASH 治療における線量測定技術の開発
○酒々井 玲於奈¹, 福田 努¹, 河原 剛義¹, 松尾 友和¹, 南野 彰宏², 長原 翔伍¹, 錦織 司¹, 高野 真綸², 竹下 漱一¹, 歳藤 利行³ / 1 名古屋大学, 2 横浜国立大学, 3 名古屋陽子線治療センター
Development of the dosimetry technique for FLASH radiotherapy with nuclear emulsion
Leona Suzui, Tsutomu Fukuda, Tsuyoshi Kawahara, Tomokazu Matsuo, Akihiro Minamino, Shogo Nagahara, Tsukasa Nishikiori, Marin Takano, Sohichi Takeshita, Toshiyuki Toshito
- S-23 霧箱における電磁シャワーの機械学習による自動検出
○林 智也, 中野 健斗, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学
Automatic Detection of Electromagnetic Showers in Cloud Chamber Experiments Using Machine Learning
Tomoya HAYASHI, Kento NAKANO, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA
- S-24 機械学習による原子核乾板中の宇宙線重原子核飛跡の検出と飛跡特徴による核種同定
○杉 侑樹¹, 伊代野 淳¹, 六條 宏紀², 臼田 育矢², 山本 紗矢², 中村 悠哉², 長原 翔伍², 河原 剛義², 中野 敏行², 仲澤 和馬³, 青木 茂樹⁴ / 1 岡山理科大学, 2 名古屋大学, 3 岐阜大学, 4 神戸大学
Detection of Cosmic-Ray Heavy-Nuclei Tracks in Nuclear Emulsion Films Using a Machine Learning Approach and Their Charge Identification on the Basis of Track Features
Y. Sugi¹, A. Iyono¹, H. Rokujo², I. Usuda², S. Yamamoto², Y. Nakamura², S. Nagahara², T. Kawahara², T. Nakano², K. Nakazawa³, S. Aoki⁴ / 1 Okayama University of science, 2 Nagoya University, 3 Gifu University, 4 Kobe University
- S-25 宇宙線イメージングにおける原子核乾板飛跡読取装置 HTS2 の読み取り条件の最適化
○河合 歩月, 北川 暢子, 森島 邦博 / 名古屋大学
Optimization of Track Reading Parameters of HTS for Cosmic Ray Imaging
Hozuki KAWAI, Nobuko KITAGAWA, Kunihiro MORISHIMA
- 17:50~17:55 日本写真学会閉会挨拶 合同秋季大会実行委員長 福田 務 / 名古屋大学

画像関連学会連合会 第11回 合同秋季大会実行委員会

実行委員長： 福田 努（日本写真学会 名古屋大学）
実行委員： 甲斐 隆浩（画像電子学会 Plus Project）
藤井 俊彰（画像電子学会 名古屋大学）
杉山 徹（日本印刷学会 大日本印刷）
深谷 知己（日本画像学会 京セラ）
足立 克己（日本画像学会 シャープ）
久下 謙一（日本写真学会 千葉大学）
吉田 純也（日本写真学会 東北大学）
水口 淳（日本写真学会 フリーランス）
大嶽 英宗（画像電子学会 事務局）
小泉 勝（日本印刷学会 事務局）
山内 峰雄（日本印刷学会 事務局）
中山 信行（日本画像学会 事務局）
山岸 治（画像関連学会連合会 幹事）

ICJ2025 Fall Meeting 実行委員（日本画像学会 関西委員会）

関西委員長： 深谷 知己（京セラ）
実行委員長： 足立 克己（シャープ）
副実行委員長： 福田 紘也（ブラザー工業）
実行委員： 和泉谷 勇太（花王）
齋藤 将史（京セラドキュメントソリューションズ）
田中 作白（元京セラドキュメントソリューションズ）
寺岡 克矩（京セラドキュメントソリューションズ）
本埜 将（三洋化成工業）
万袋 麻希子（コニカミノルタ）
宮本 栄一（京セラドキュメントソリューションズ）
事務局： 中山 信行（本学会事務局長）
竹内 達夫
西原 容子